



桃
家
春
帳

全

~ 5
1107



利
門
1107
卷



桃家
善帖

字自如
中
未
...

利
...

天保三壬辰年

載旦

尾車のハサメの

太白堂

とほろろの素のすめ

孤月



春興

ゆるの柳り吹つる花の孤月

辛卯

歳暮

年去りて春の来りてん梅陰

五

東君

西藍

日精堂

映月

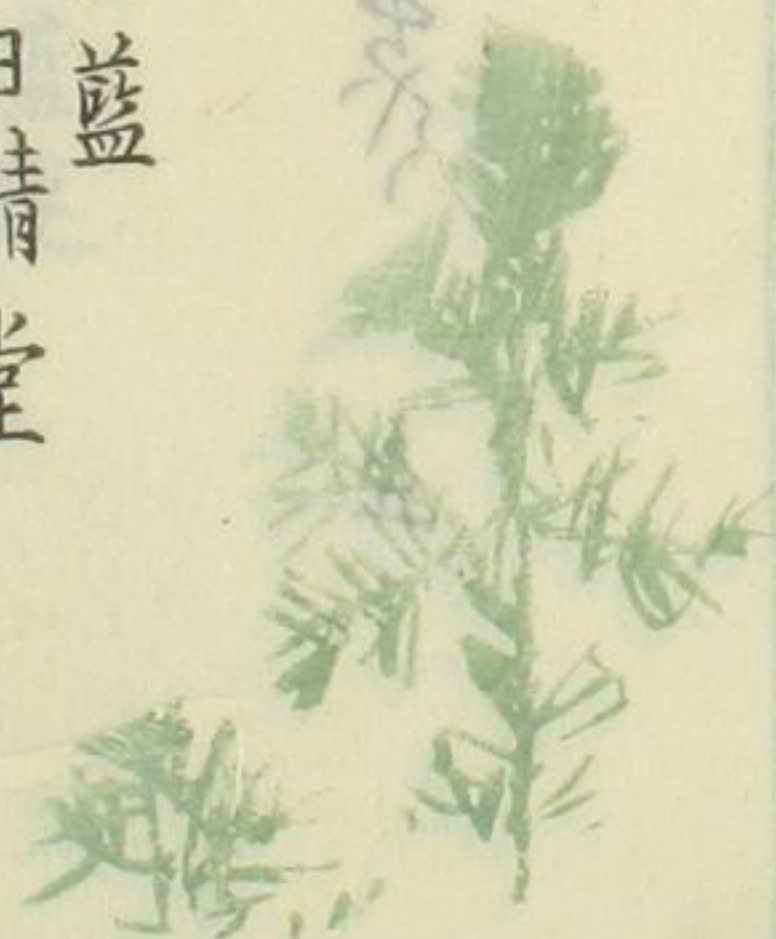
若緑のきよき葉の松の聲

見よ屋敷の雲のり年

孤月

学校の日去りて春の来りてん梅陰

夫雪



芳天

帆の中をくぐる舟の山

映月

層軸

春を待たずしては春を

立



和清

遙ある方うたぐそまの

寒水

押ハ梅もあつた意のト

孤月

る春なりをくはるは

東之



西藍連
漣々

春光

春の光を色にうつらして風をうけ

空の

晩冬

月影も影うらまへてふとあまの秋

と



佳節

水簾館

作多考多代の琴あはつら松

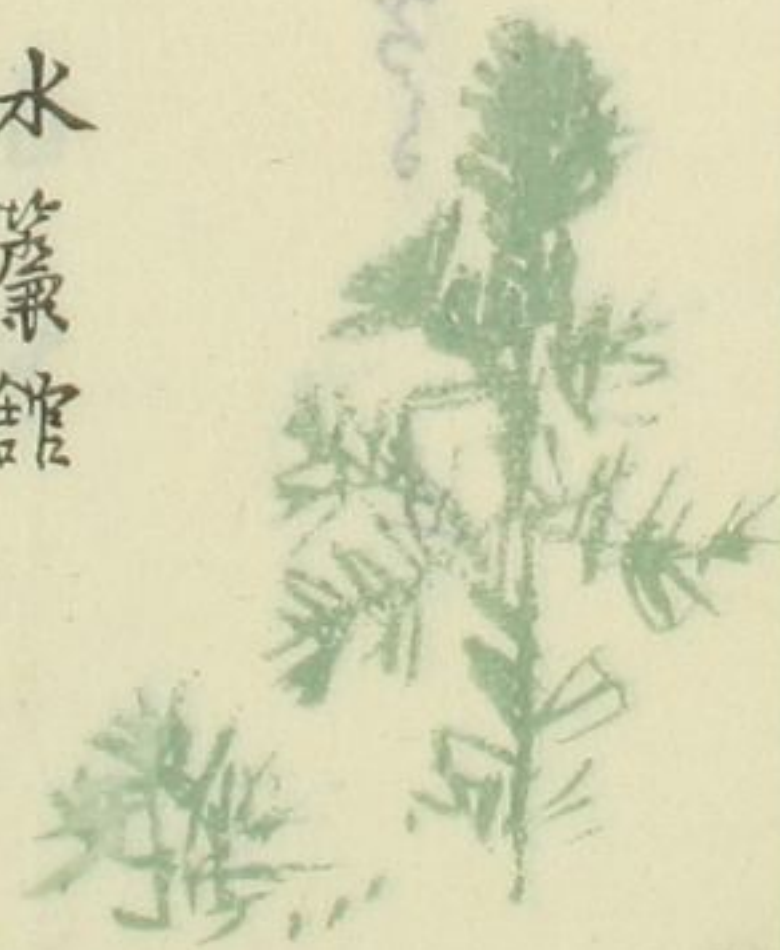
千歳

泊もあつた白くさのやう

孤月

京花とくさのいよのまをさかす

白南



春色

春の橋やまのさかすか

子遊

季冬

冬もあつたや一人さびしう

全



聖節

白堂

初春や心のあけく人さき

栴雨

さきさきさきさき

孤月

静江

静江



和景

秋まじくさう川に越えり

枕石

弟月

羽をまじく鳥如年の月意

全



青帝

いそぎに花も咲く春の春

人坊せたるは春の春

耕をりて和の春

世徳堂

鶏關

孤月

月



詔光

まきやうやまのゆふのちきり

新真



曆軸

小晴年の約割西せまのまき

五

淑氣

風おし星のまきと朝のまき

戸のまらもなやけ

記りのまらまき

無雲舎

有賀



孤目

知相

春光

まじりてはるもはるもあけ

有安

大呂

はるまゝとくも同じく

五



七

新正

たまやのやのまゝえんく

松堂

普翠

はるまゝのふゆのまゝ

孤自

つゝなまゝのまゝ

織文



淑景

女の梅とくまうまを粧す

五言

三冬

境の山もくまうまを粧す

五言



改且

人まはるるを静し四方の春

氷清

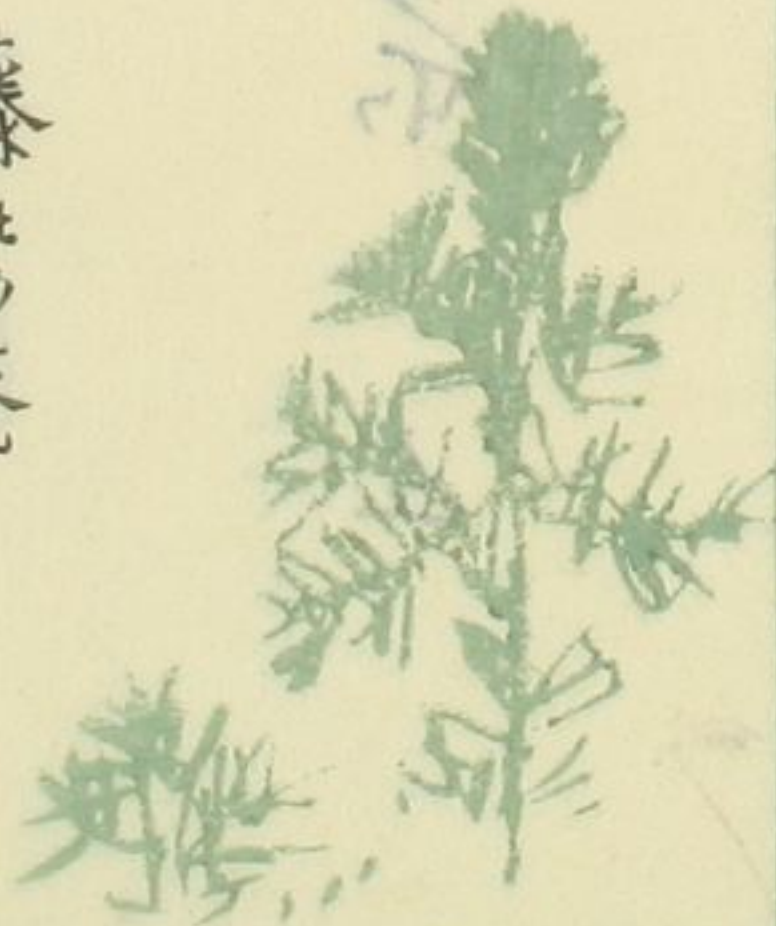
藤紫菴

まはるるを静し四方の春

孤月

牛の鞭もくまうまを粧す

五言



藤天

朝子さきさきおはるる春の風

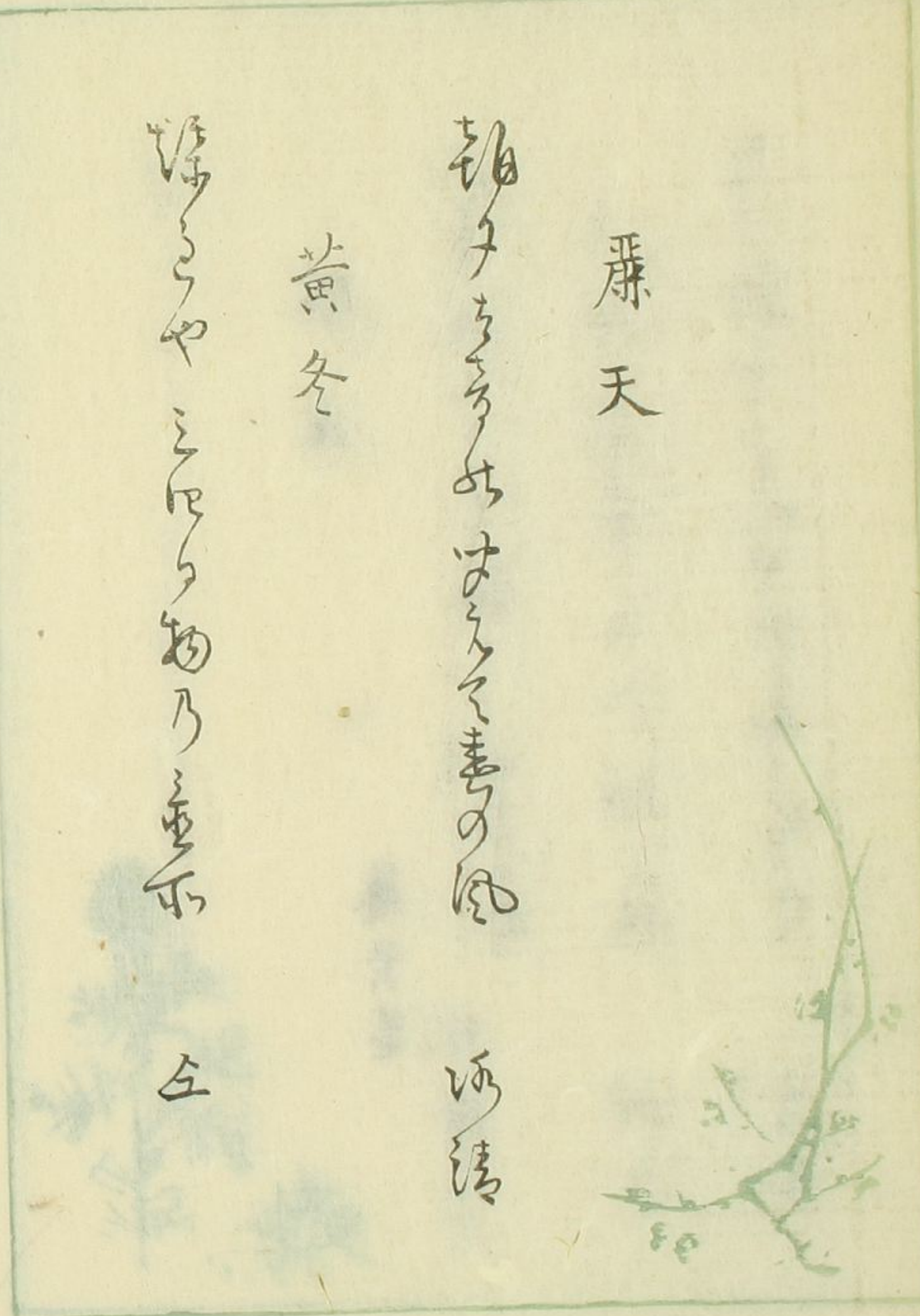
河清



黄冬

清らやとららおるる雪

五



上日

遠列春のしほゆめをちあひ

まはるるさきさきおはるる春の風

蒼園

ゆきとまと抱えさきさきおはるる春の風

一志

さきさきおはるる春の風

如月

大池のさきさきおはるる春の風

概江



和景

仲保娘よまをむらむら山あり 一志

太歳

ふらふらしむのまをむらむら山あり 五

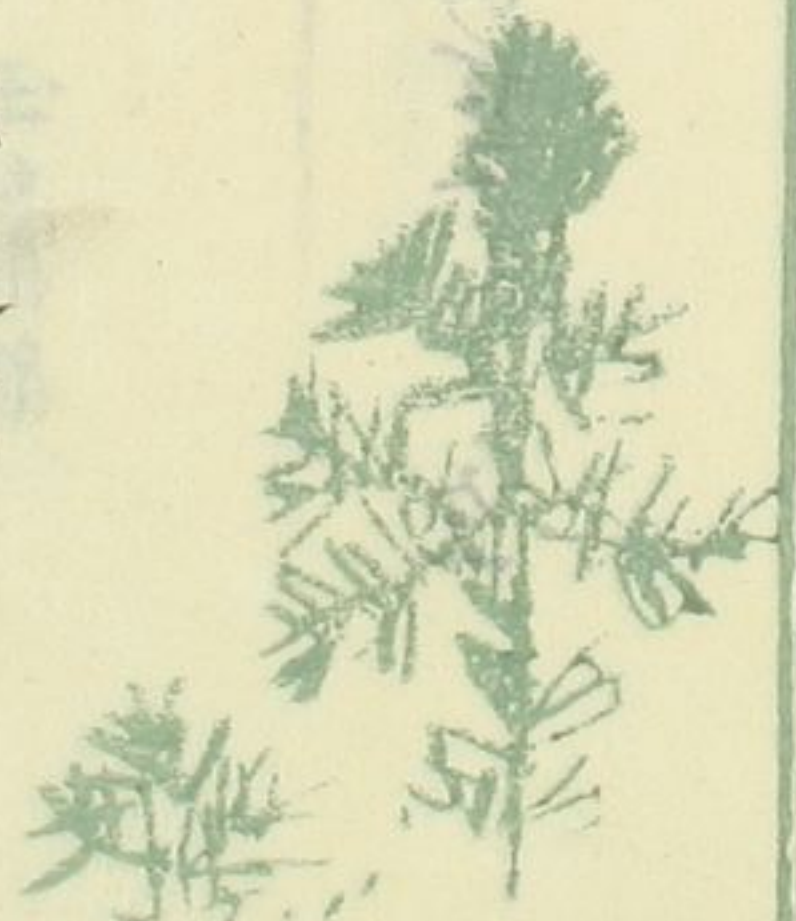


佳節

あけもあけのまをむらむら山あり 谷遊館 鳳聲

あけもあけのまをむらむら山あり 孤月

あけもあけのまをむらむら山あり 白南



芳天

芳々や七りうと連々

風香

曆軸

芳々うまうのちまうの豆

五



十一

三始

玉簫笛

子牙やえり白乃軒雀

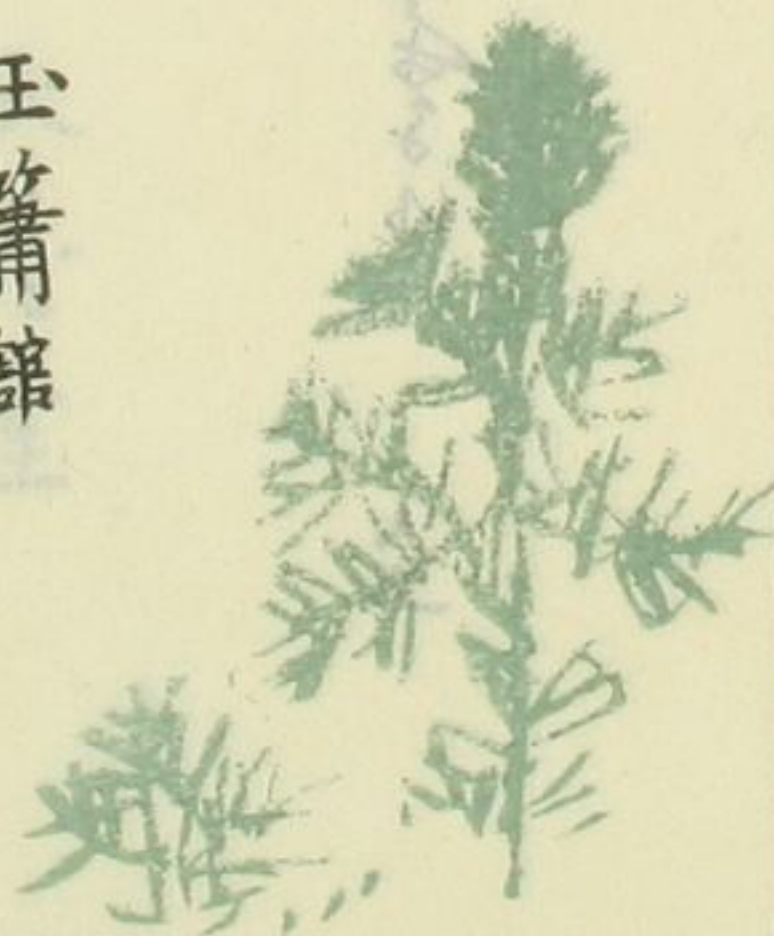
黄鶴

うささくうささく梅のまき

孤月

うささくうささくうささく

静江



三

駘蕩

糸るり如海陸一毒物

芙蓉

・羊尾

子福をん乃の福をん乃の福をん乃

全



改且

乃ち筆の筆をかくる

大晴堂

年阿そよの年阿そよの年阿

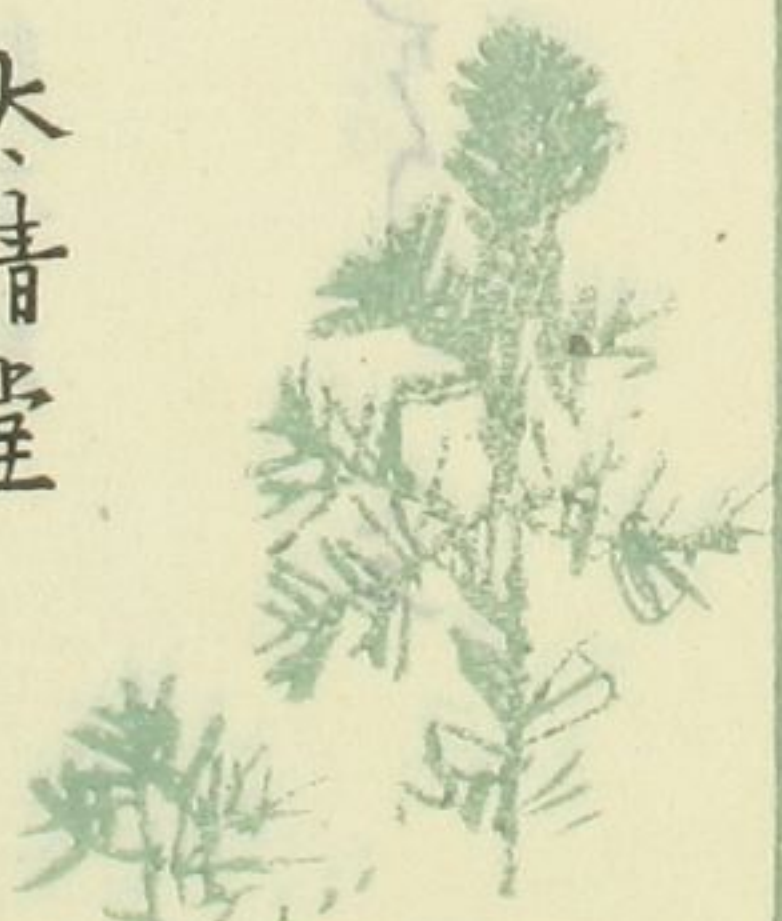
古竹堂

乃方まぬまぬ朝のまぬ

孤月

布ささくやまへくらのまぬ

まぬ



詔光

春のつとむる鳥をねとすうけ

古の

季冬

雪のふりそくする降もあつら

立



十一

迎陽

桂林館

唯今ものあは欲きくまのま

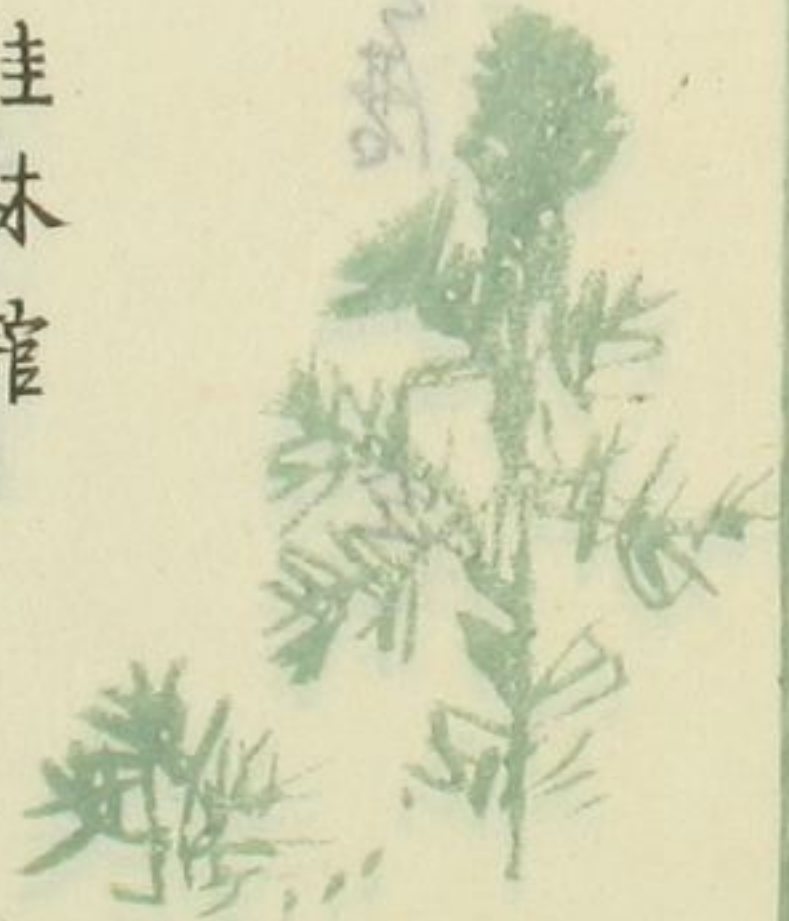
千鶴

雪のふりそくする降もあつら

孤月

まらまら白鳥のまら迎

空月



十四

淑景

松之杪受春之風如於

子清

年備

花之香自之細如也古唐

全



青帝

五井園

くはつと母又白霜之雪

曙雪

年皆其之形如雪

孤自

若翁舟波ハ冬風如雪

知明



春光

まはるくはるの光をよめる 旭 曙色

歳聞

少くも春の光をよめる 梅の光 立



十五

和清

梅知堂

心まはるくはるの光をよめる 梅の光

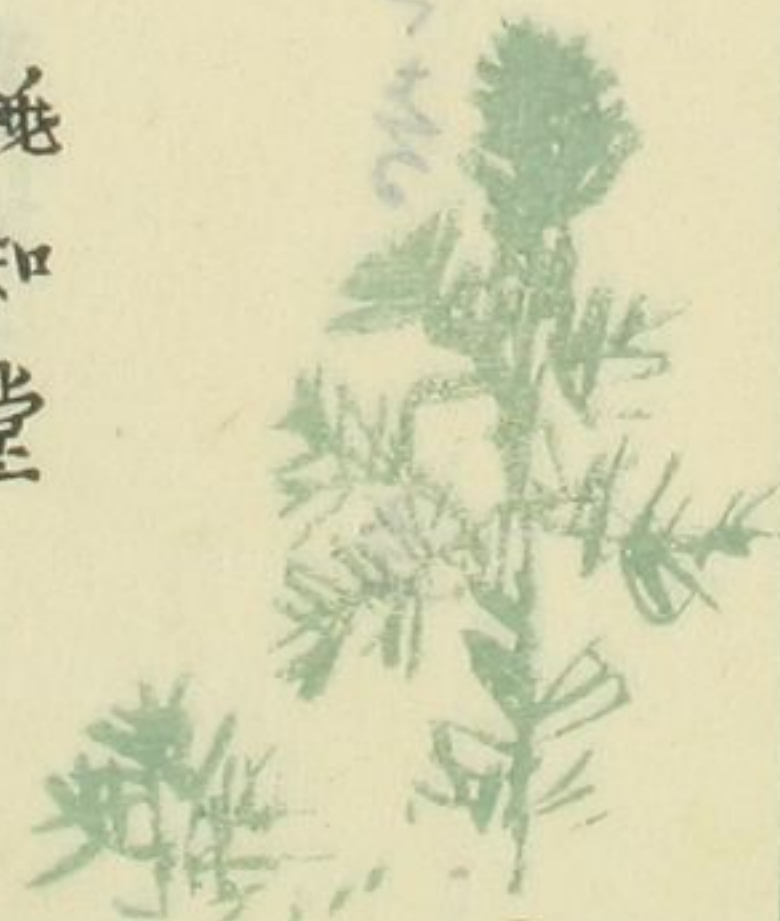
文狂

著るまはるくはるの光をよめる 梅

孤月

鳥の心まはるくはるの光をよめる 梅の光

啄木



藤天

春如山陰ありてさるり

文ね

大歳

新はや水か春のときき

立



十九

淑氣

富樹亭

翠遊

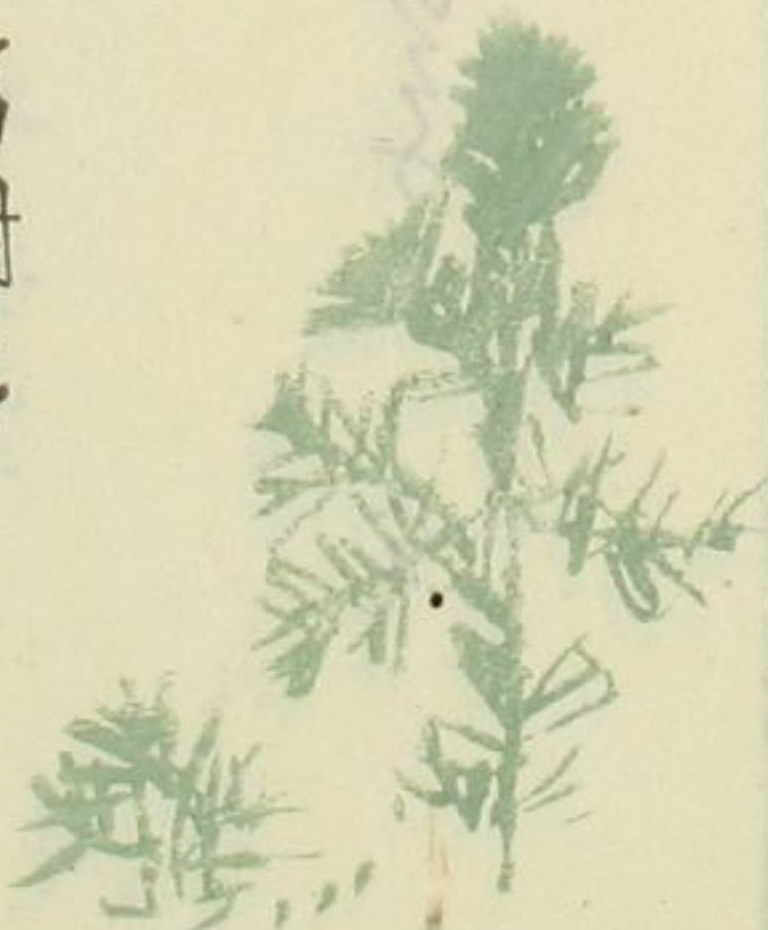
ふゆのけしきもあきけのけしき

雪のけしきもあきけのけしき

孤月

春のけしきもあきけのけしき

春園



駘止湯

草の根を煮たりのつらぬまの山

藤花



黄冬

まきとくまのつらぬまの山

全

十七

聖節

太安堂

朝のつらぬまの山

暗山

海を渡るつらぬまの山

孤月

百人のつらぬまの山

松江



春姿

梅のつぼみは春の娘のこ

晴山

弟月

春のつぼみは春の娘のこ

全



十八

三始

對旭樓

笑山

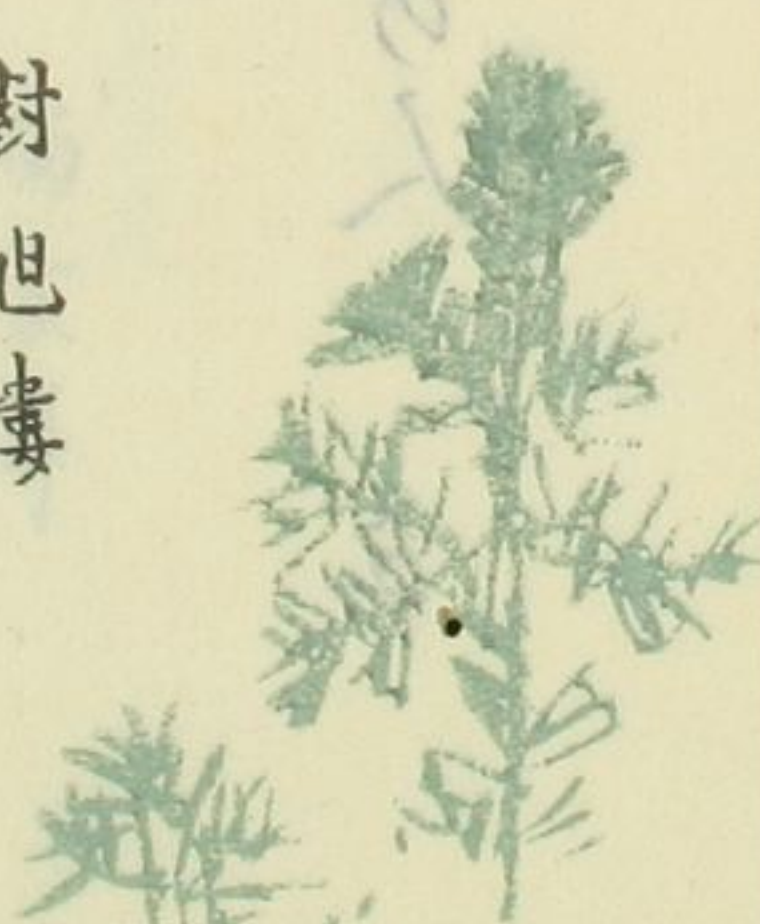
初の新梅のつぼみは春の娘のこ

春のつぼみは春の娘のこ

孤月

春のつぼみは春の娘のこ

支香



一山

春色

丁うさきもあけのちきりきり

葉の



層末

あつらひもよひのちきりきり

土

華始

尚友亭

あつらひもよひのちきりきり

吟雪



あつらひもよひのちきりきり

孤月

あつらひもよひのちきりきり

東之

和景

清のよしのききりひらひら

ゆき



羊尾

春や清のよき枝もあめりき

五

緑天

西藍連
文連齋

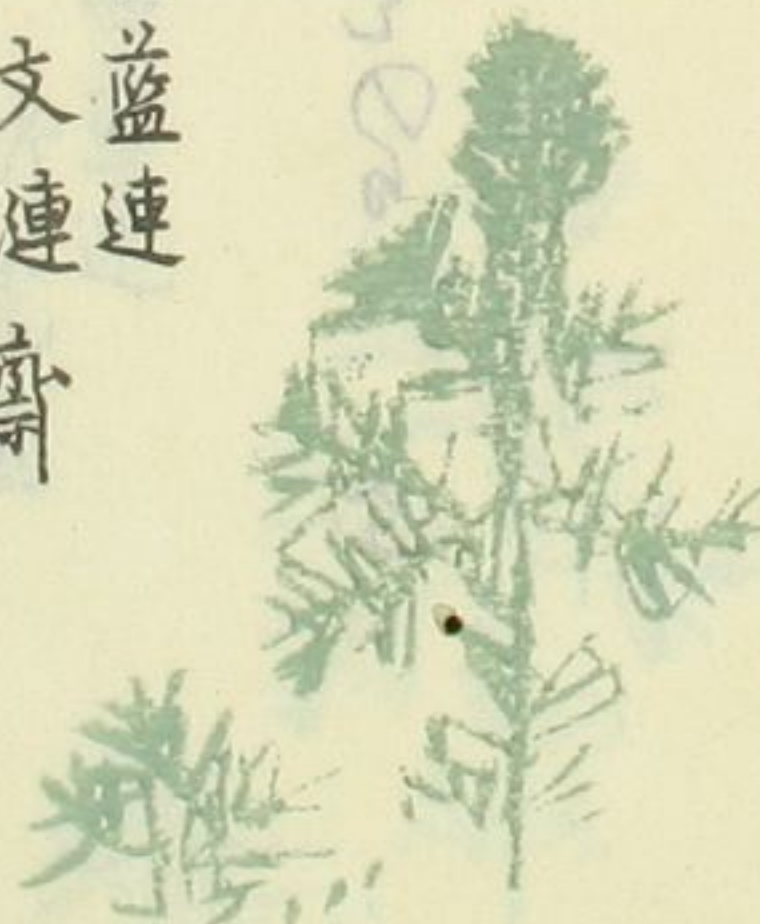
掛のく鈴のききりひらひら

春のよき枝もあめりき

孤月

花より人よりあめりき

白南



藤水

詔光

春の如く霞をよみあはす地の花

三冬

解を授けふはたしむるは雪の白

五



迎陽

西藍連

竹光園

門をくぐりて玉乃壽

水壽

隈をくぐりて光る大江戸

孤月

旅人の噂をききあはせえ

新江



春光

るの月夜はを詠む

永壽女

大呂

考くも清くも

全



和清

西益連

不言齋

里長女

るるるるるるるるるる

極もるるるるるるるる

孤月

のるるるるるるるるるる

空月



春色

梅をく知りぬ 名りまの流

里長女

季冬

雪あふとそくや 山まのまき枝

立



花晨

まきのまきのひん

静山堂

春のまきのまきのひん

湖柳

梅をく知りぬ 名りまの流

孤月

春興 年備

まきのまきのひん

湖柳

おひのまきのまきのひん

立



三始

吉書をいしりは梅のちりぬを
いしりぬのくくくくく

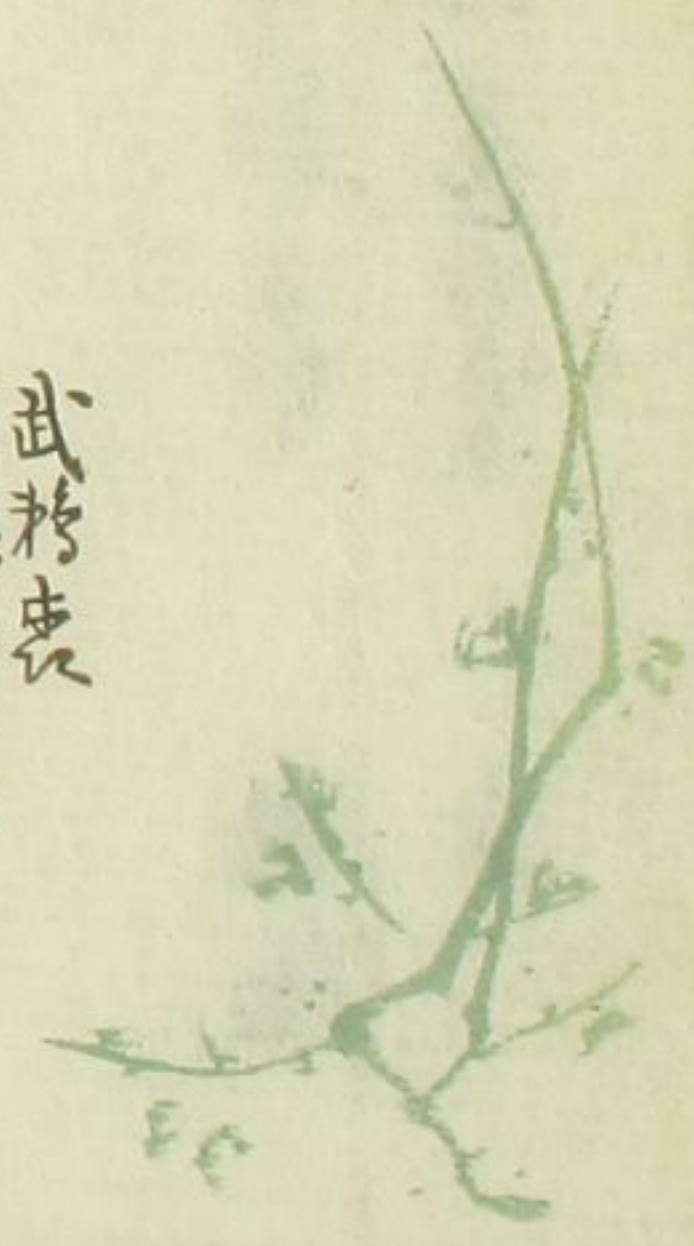
武松表
権右堂

編竹
如月

春興 季冬

春興のくくくくく
季の寄めくくくくく

編竹
立



花始

えんり門より白くくく人せ入
白くくくくくくくく

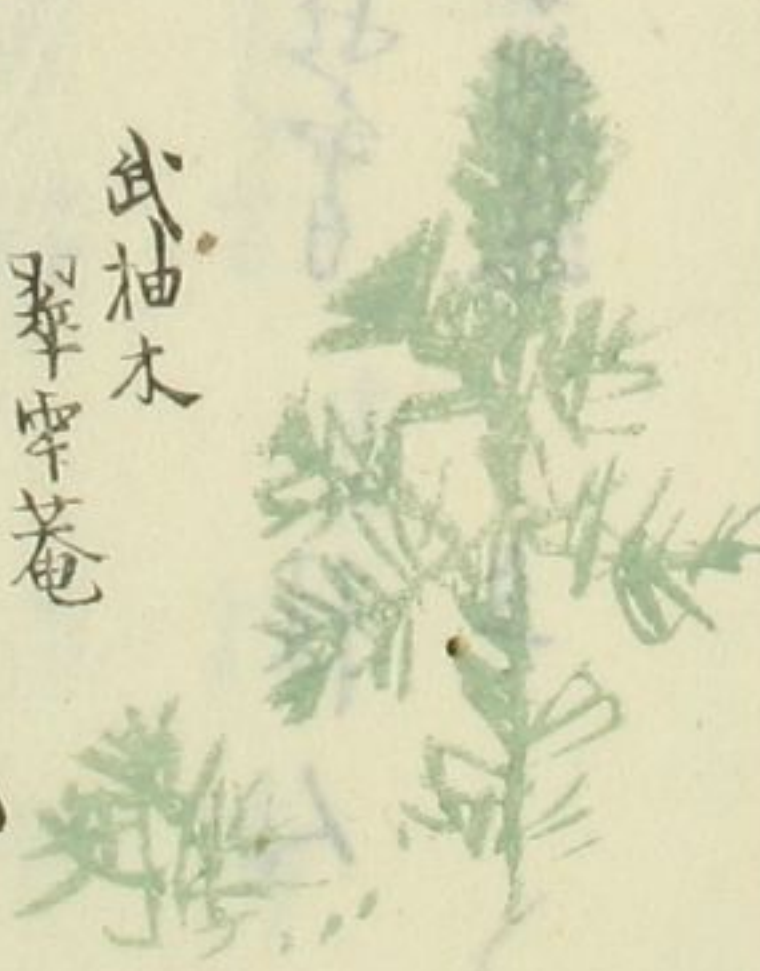
武松表
翠翠庵

壽暁
如月

春興 弟月

春興のくくくくく
弟月のくくくくく

壽暁
立



梅ら〜花の世才と世の角々
 仙の伎ふ好や〜のちあら
 えりもえりせそのさ〜はう南 全 午日
 耕作らぶ〜〜物や花のさ
 七たよの〜〜物や花を〜
 えりやも〜のさ〜はうら 全 品好
 雨ら〜〜ら鳥と〜ら
 梅ら〜茶籠の中〜氣の子
 歳旦建春春興

梅ら〜花の世才と世の角々
 仙の伎ふ好や〜のちあら
 えりもえりせそのさ〜はう南 全 午日
 耕作らぶ〜〜物や花のさ
 七たよの〜〜物や花を〜
 えりやも〜のさ〜はうら 全 品好
 雨ら〜〜ら鳥と〜ら
 梅ら〜茶籠の中〜氣の子
 歳旦建春春興

とて山を是の海より年始 裁雪

梅の白く雪の如くあつたが

除雪の事とていふ由の如く

しる事もあつたは代やしらぬ 不封

ふりしつと厚も眠るやあつた自

付まき雪のむし海も年の暮 於春

ふ二筑波のあつたあつたあつた

程秋とまき雪のあつたあつた

晴るるか減るるるあつたあつた

枕をぬくは通うをきききき 子曾

あつたあつたあつたあつたあつた

人よりあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 上中太郎 礎壽

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた 立

あつたあつたあつたあつたあつた 林旭

あつたあつたあつたあつたあつた

静かなるも昔もあはれや叶はぬ

全 壽旭

少少川舟の古き風もあは

ねるもあはれも清きあはれ

戸を叩くはるるもあはれ

りあはれもあはれもあはれ

佐藤氏 里 曉

むしあはれもあはれもあはれ

年あはれもあはれもあはれ

我 珠

新くあはれもあはれもあはれ

清 鶴

あはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれ

全 珠 定

あはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれ

全 燕 枝

あはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれ

丹 舟

かゝる程きさしめくもき叶のほ

ちそくもくもくもくもくもく

はあはくもくもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもく

き剣乃き徳くもくもくもく

きもあきもくもくもくもくもく

あもくもくもくもくもくもくもく

きもくもくもくもくもくもくもく

はくもくもくもくもくもくもく

上原

徂陵

桂山

山童

里

きもくもくもくもくもくもくもく

あもくもくもくもくもくもくもく

えりやもくもくもくもくもくもく

はくもくもくもくもくもくもく

江下もくもくもくもくもくもくもく

ゆもくもくもくもくもくもくもく

ゆもくもくもくもくもくもくもく

きもくもくもくもくもくもくもく

休

聖

久

寒掃

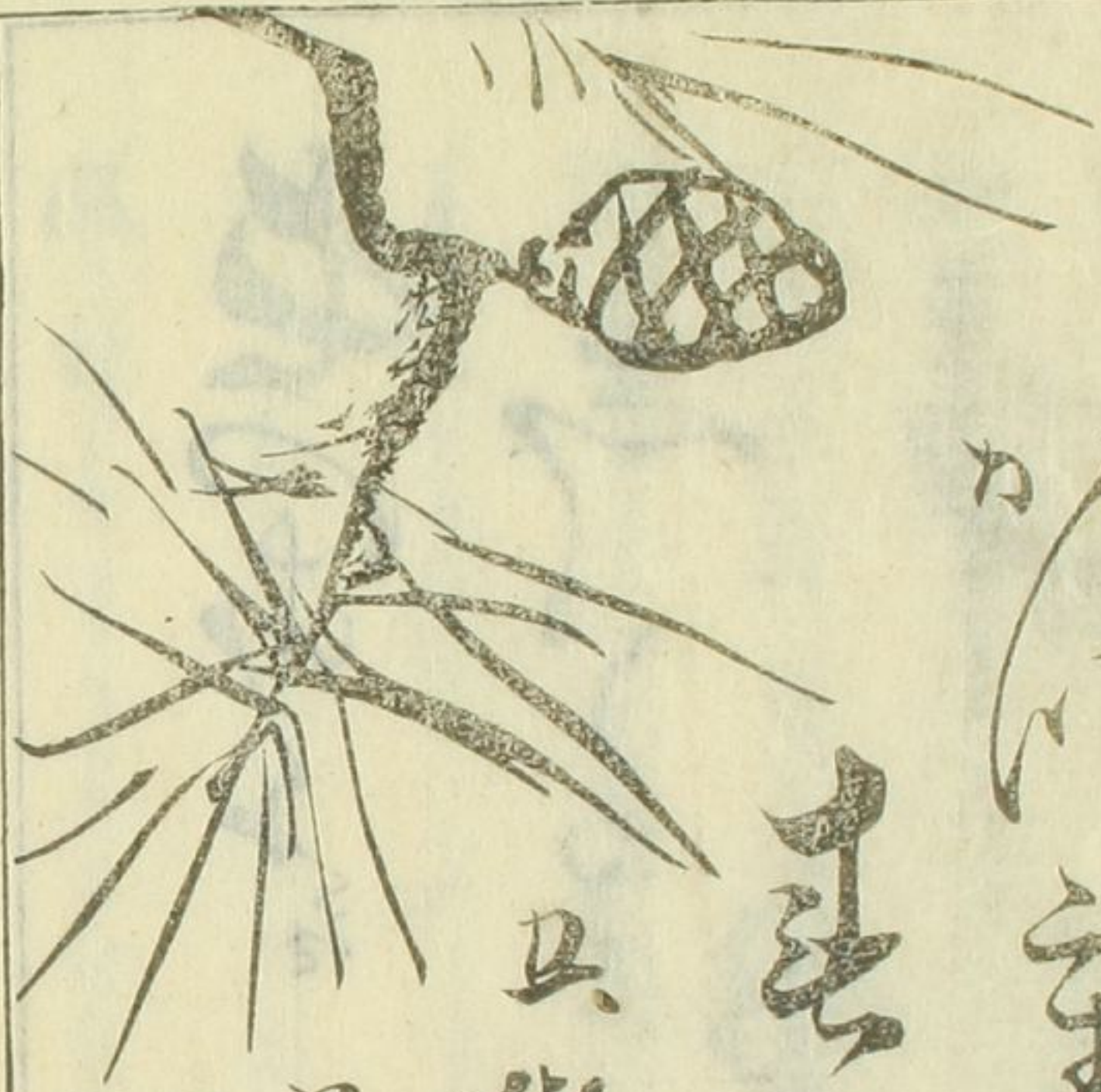
かへりてまらぬ

春日の那

只物居茶婦

花月堂

孝別



寒の

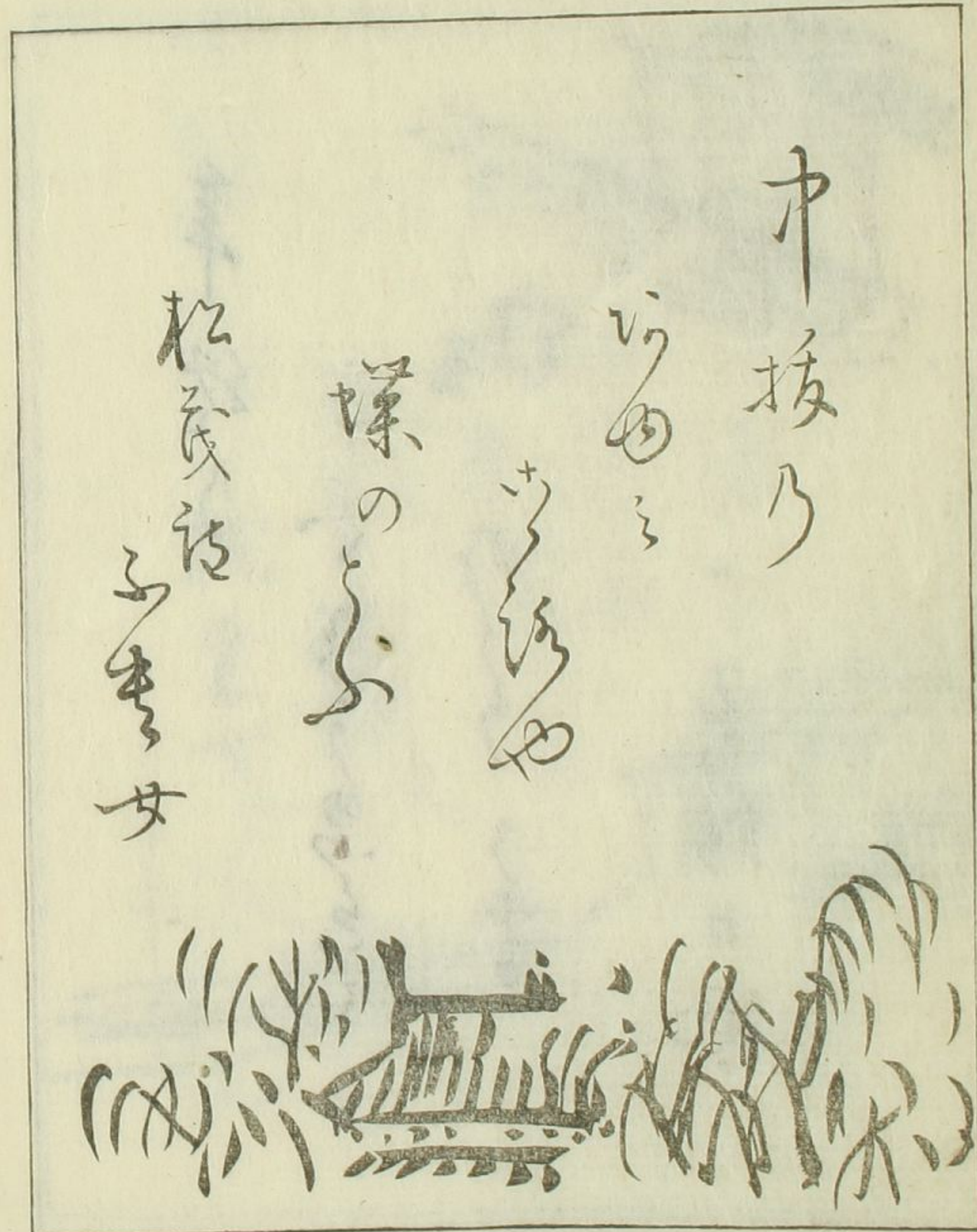
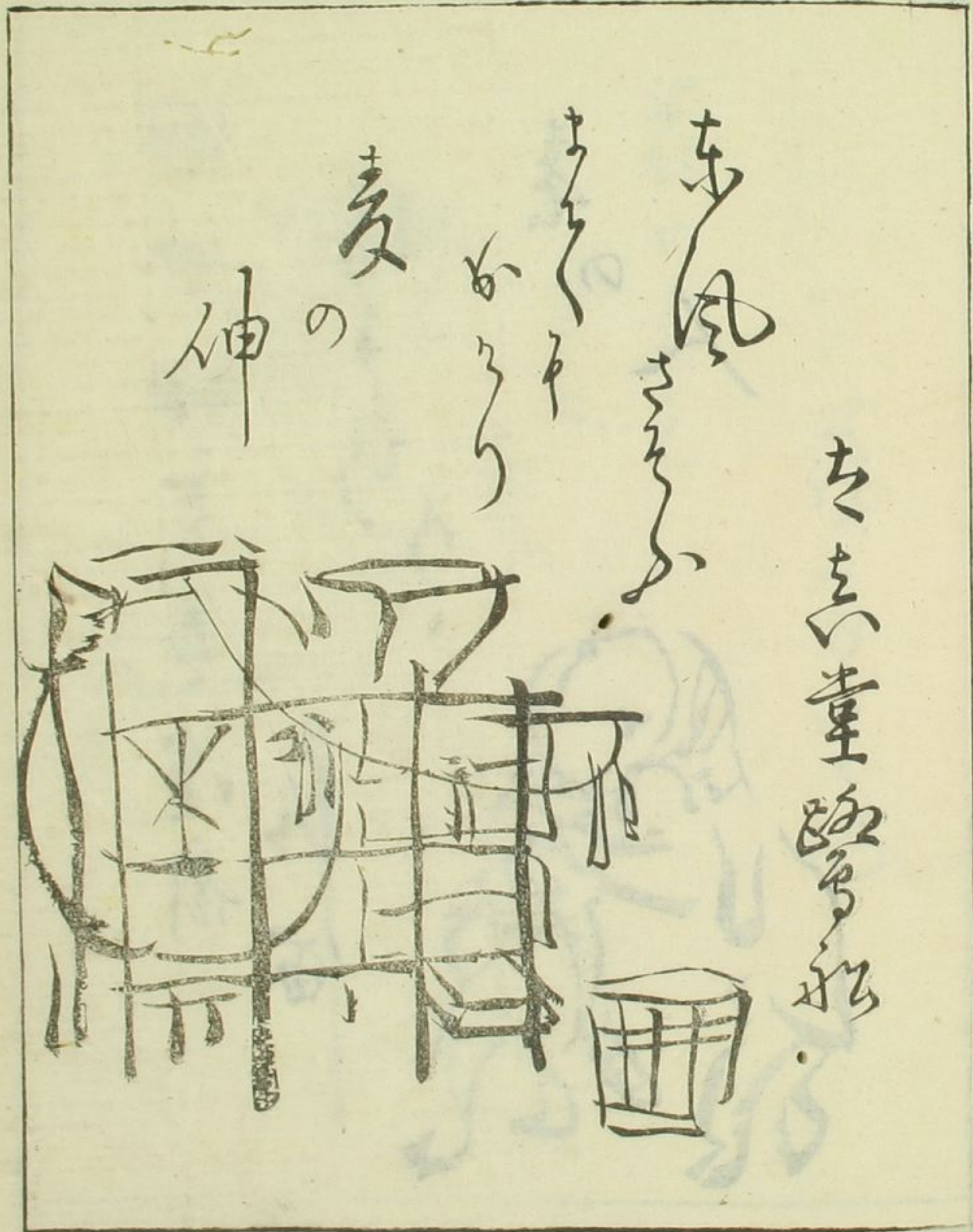
君の

雛

雛

五梅居茶婦

花月堂



田や畑を去る者

横手

妻の人



笛

二深高里地

花の

香

梅

枝



早稲日
乃



三十五

松平重四郎

妻如左

醉夢間

本録

ふりきりおきや

少松のしきわさ

松倉青波女

三十五

喜風のしるし
女波男波の好

湖丈菴虎松



多具の須通

形のしるし

しるしの好

左長堂

虎和



新江也神毛
長心くく魚

月白橋

枕花女



新江也神毛
妻々々々々々々々々々
一宣可

蒼園連

如光橋

心くくくくくくくく
作忘

山
志山

新江也神毛

新江也神毛

妻務

新川女



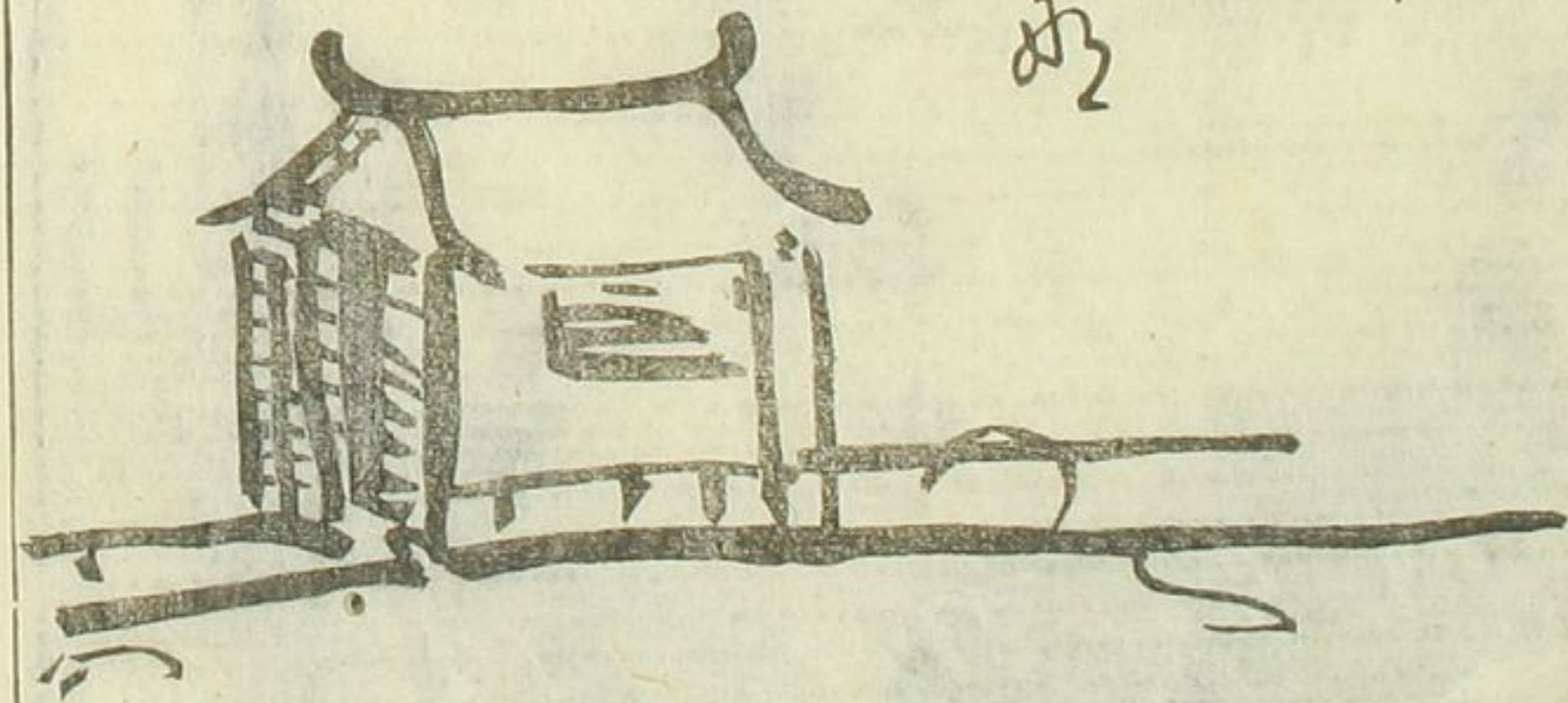
雲風十の

今少梅乃自心

茶園連

長松亭

碧氷



三十七

蝶の影流竹の

田細る子

法如

茶園連

志麻子

振旦

吟みそ中や吟蛙

善中志友

春自りふ

や牛乃枝

圓全志之



三十八



日精堂
映月。

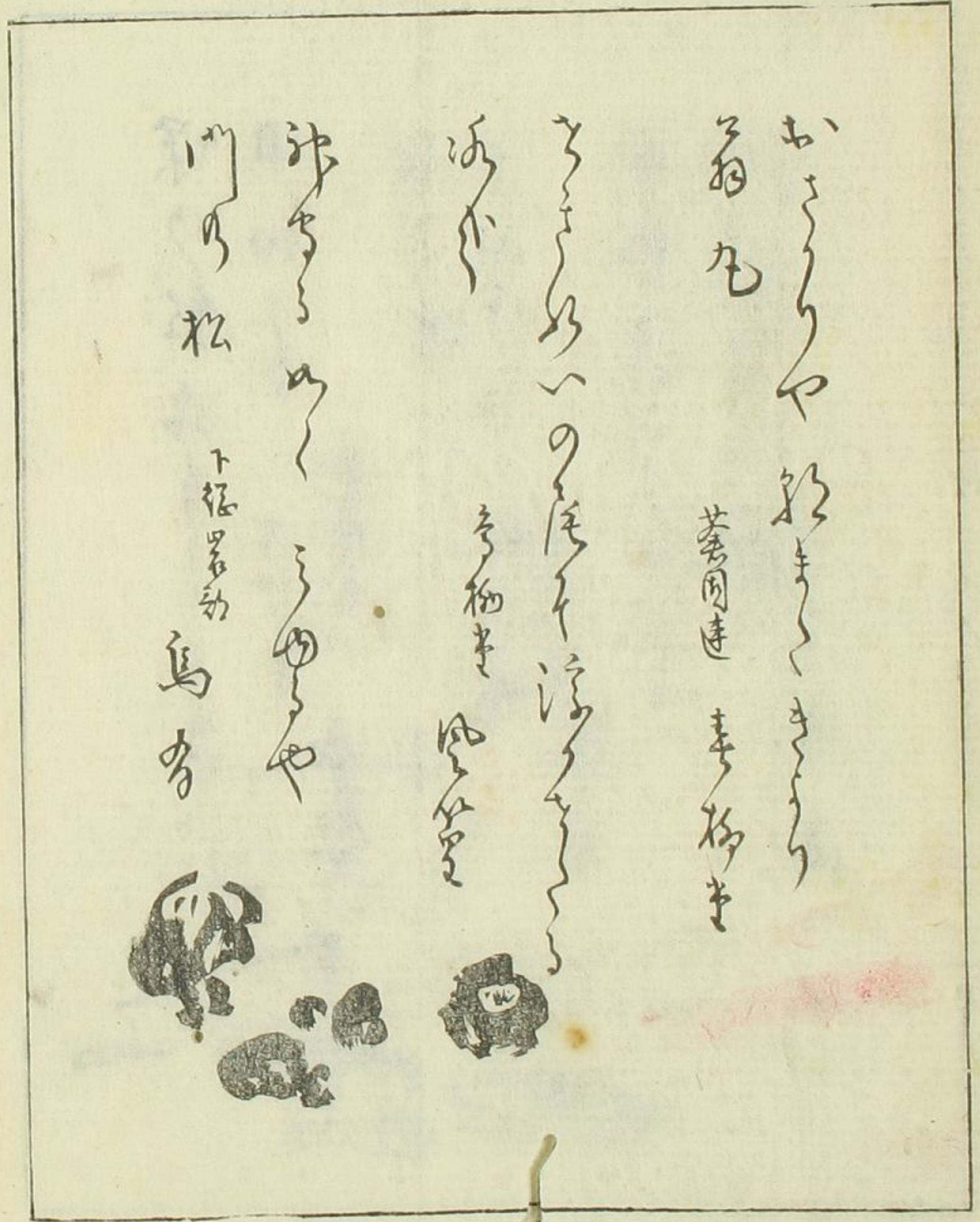
梅の影

甲

知り

あり

味

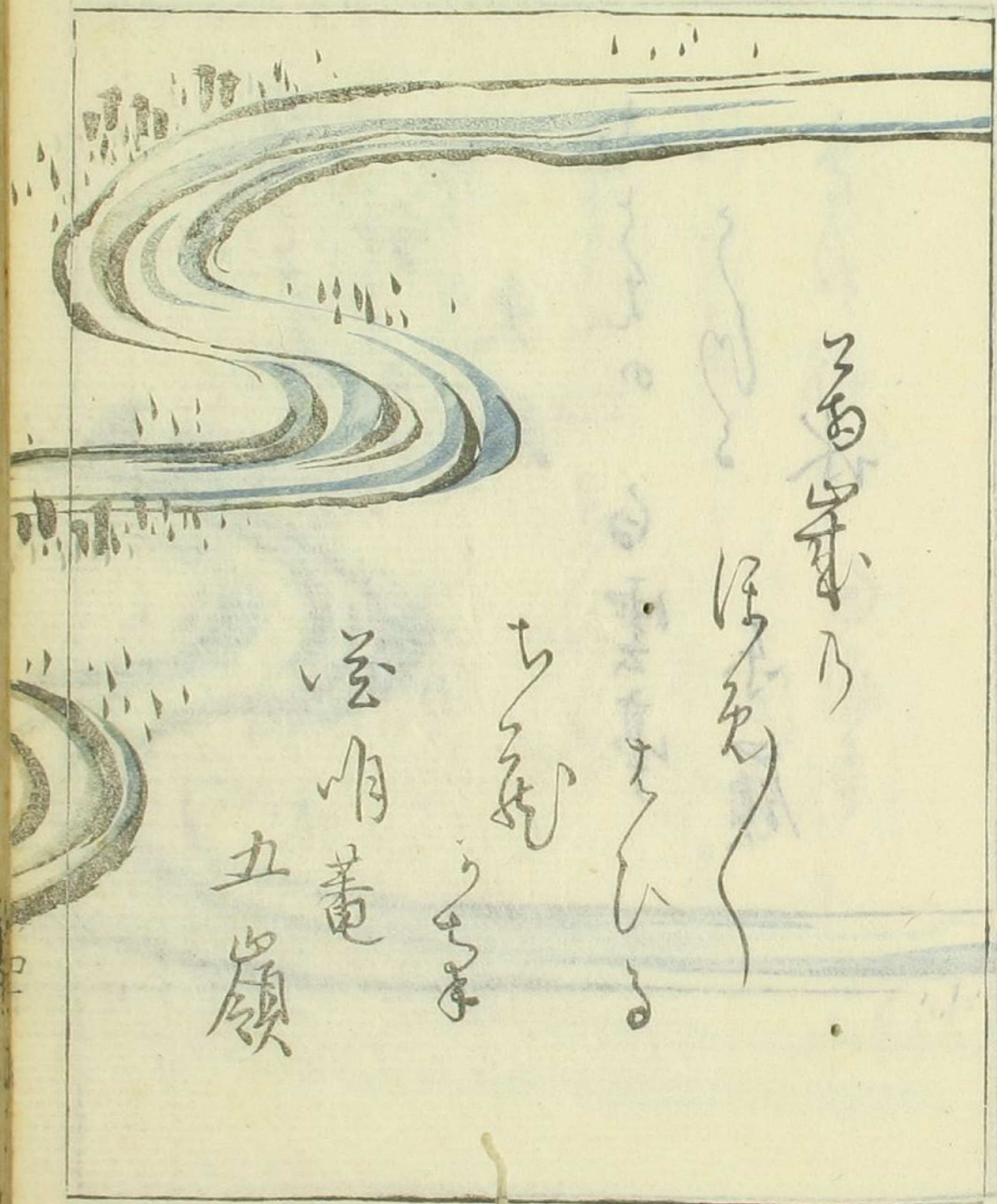


おろろりや 新ま〜き〜り
菊丸 芸園連 幸柳堂

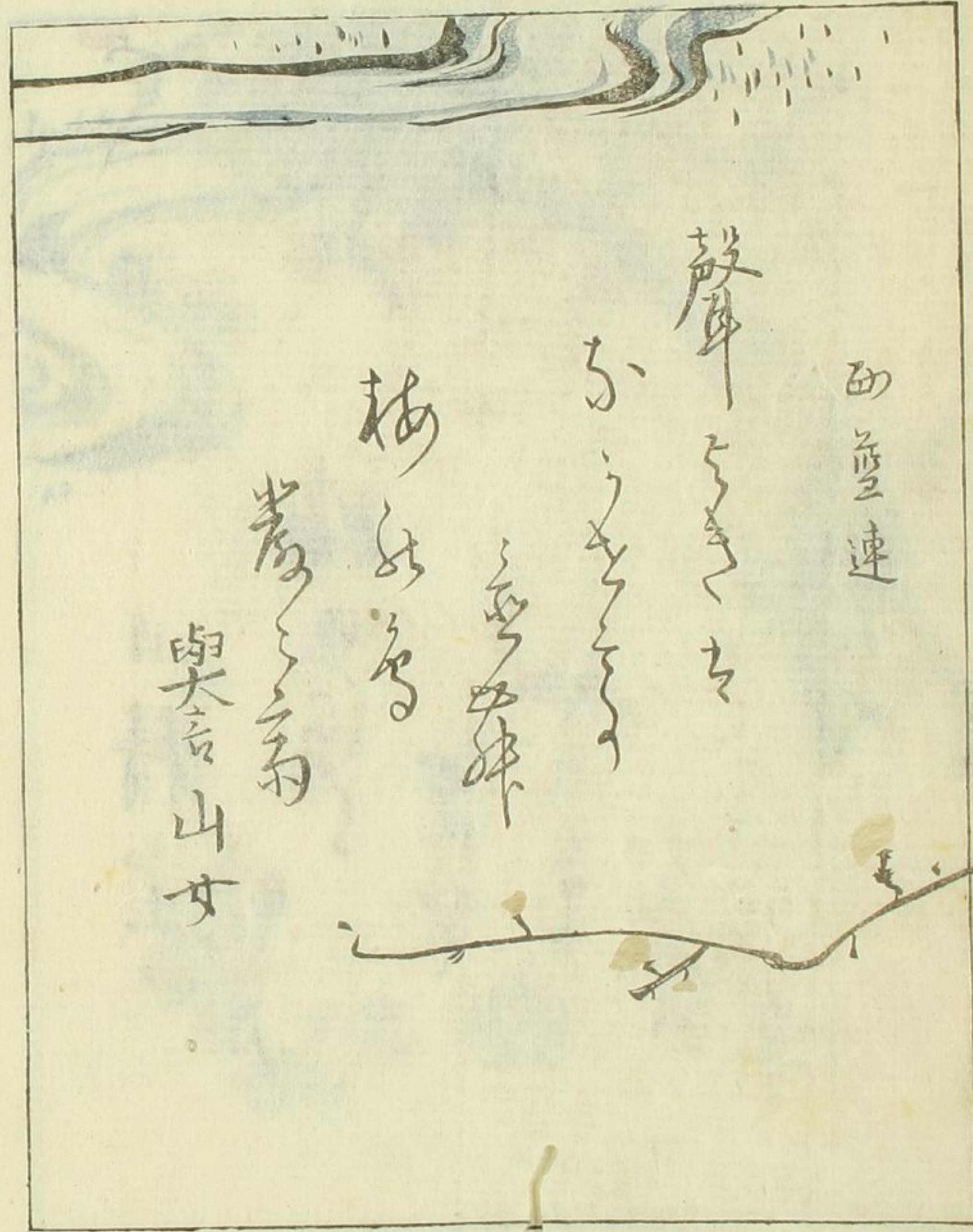
さ〜り〜の 尾を流〜り〜
海小 幸柳堂 風

津さ〜り〜の 尾を流〜り〜
門の松 下徳屋 鳥有





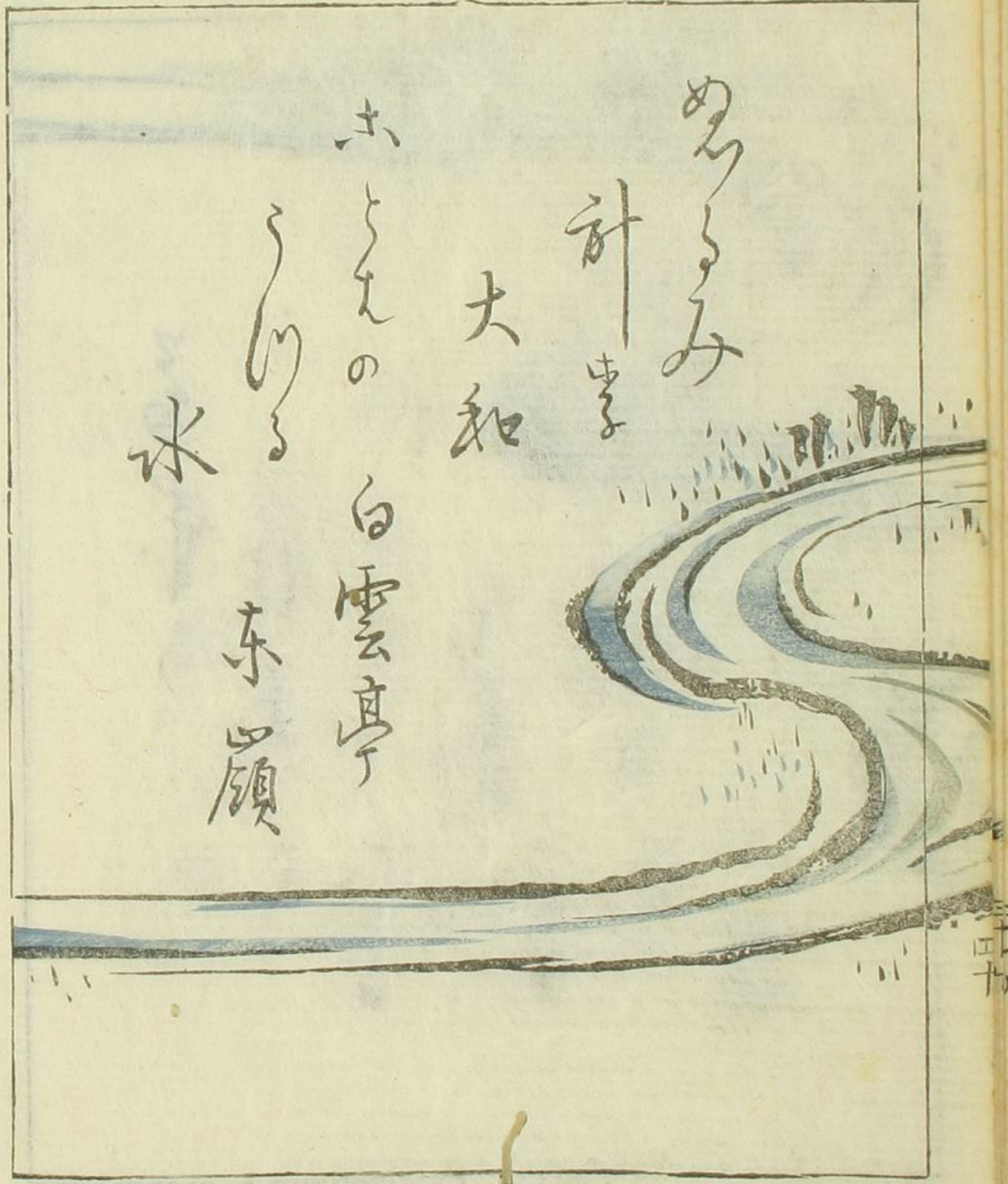
福来乃
河内
ちん
五嶺
五嶺

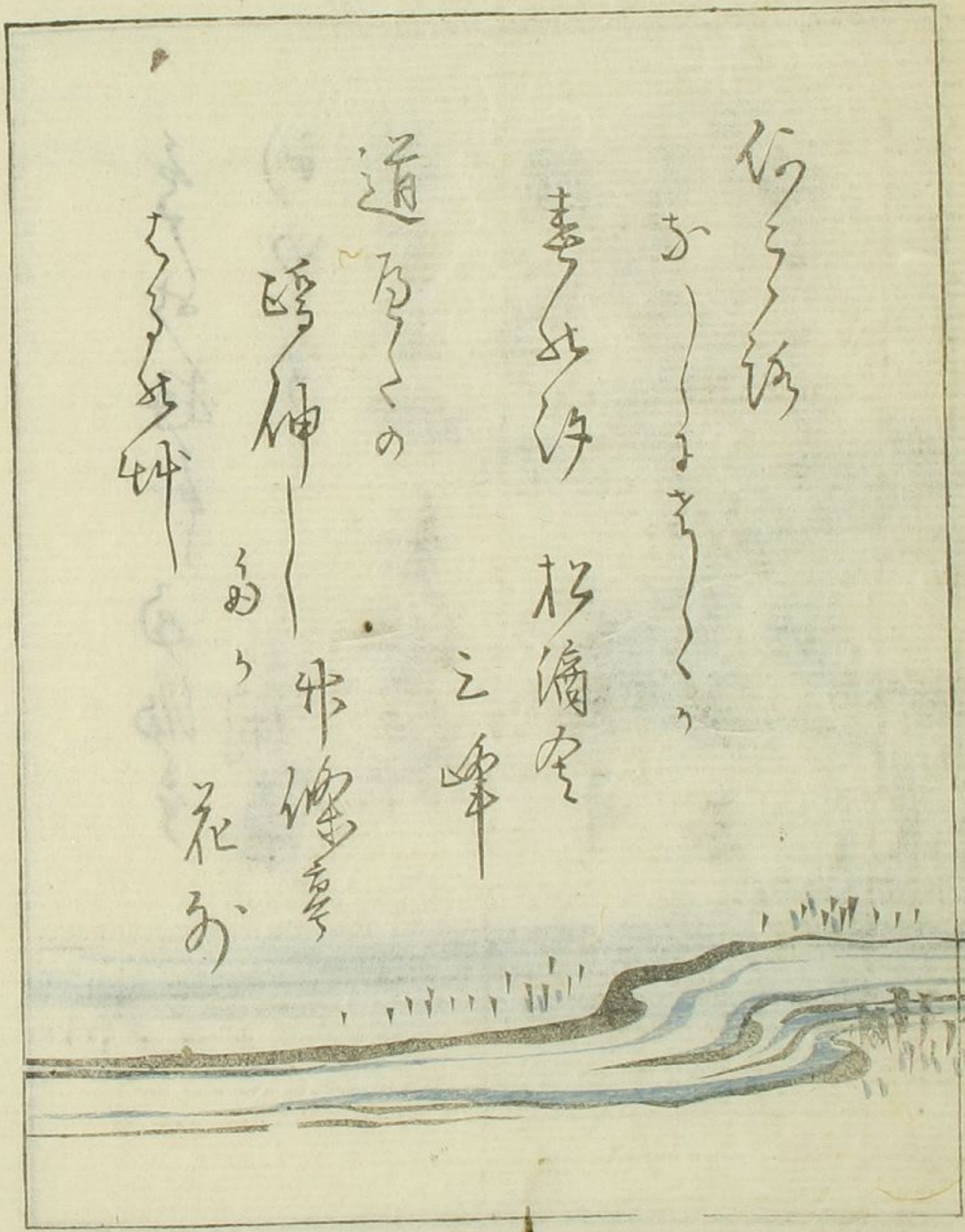


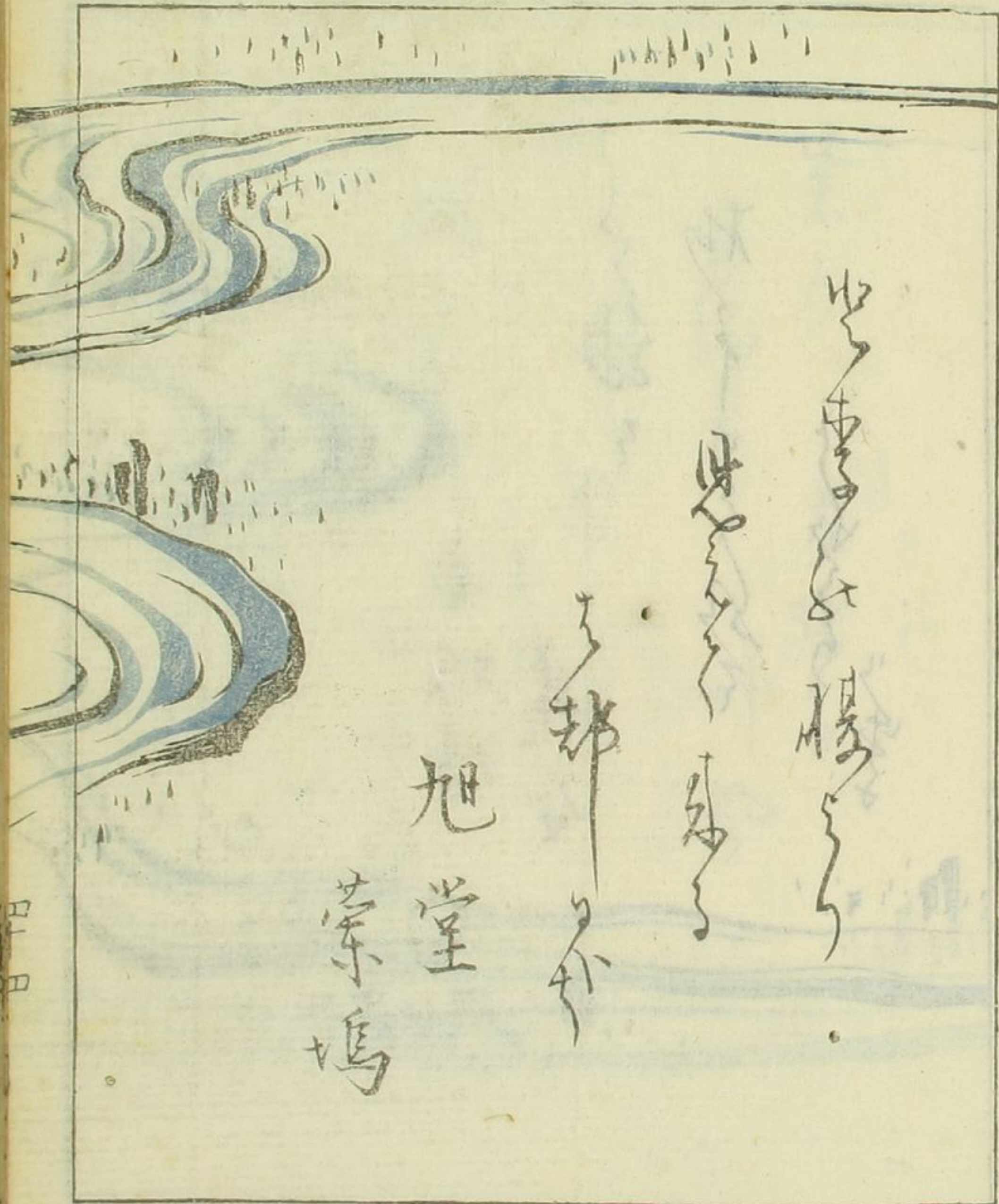
西遊連
聲
梅
若
與言山女

海老の志
 方志
 海老の志
 方志
 海老の志
 方志
 海老の志
 方志

大和
 白雲亭
 東嶺
 氷







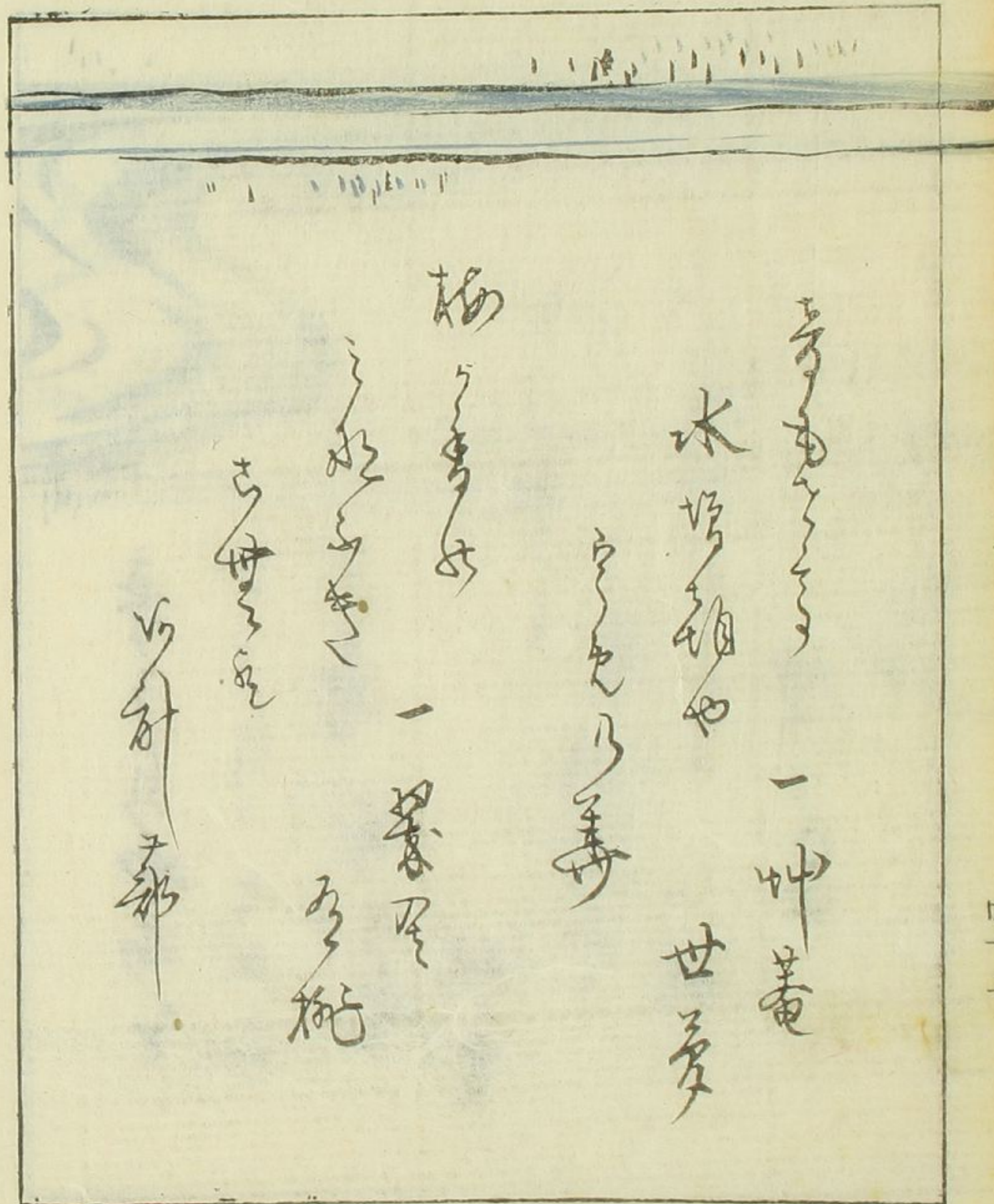
崇鳩

旭堂

三都

世

世



一 中 菴

水 塔 韻 也 世 友

一 世 友

梅

一 葉 只

一 世 友

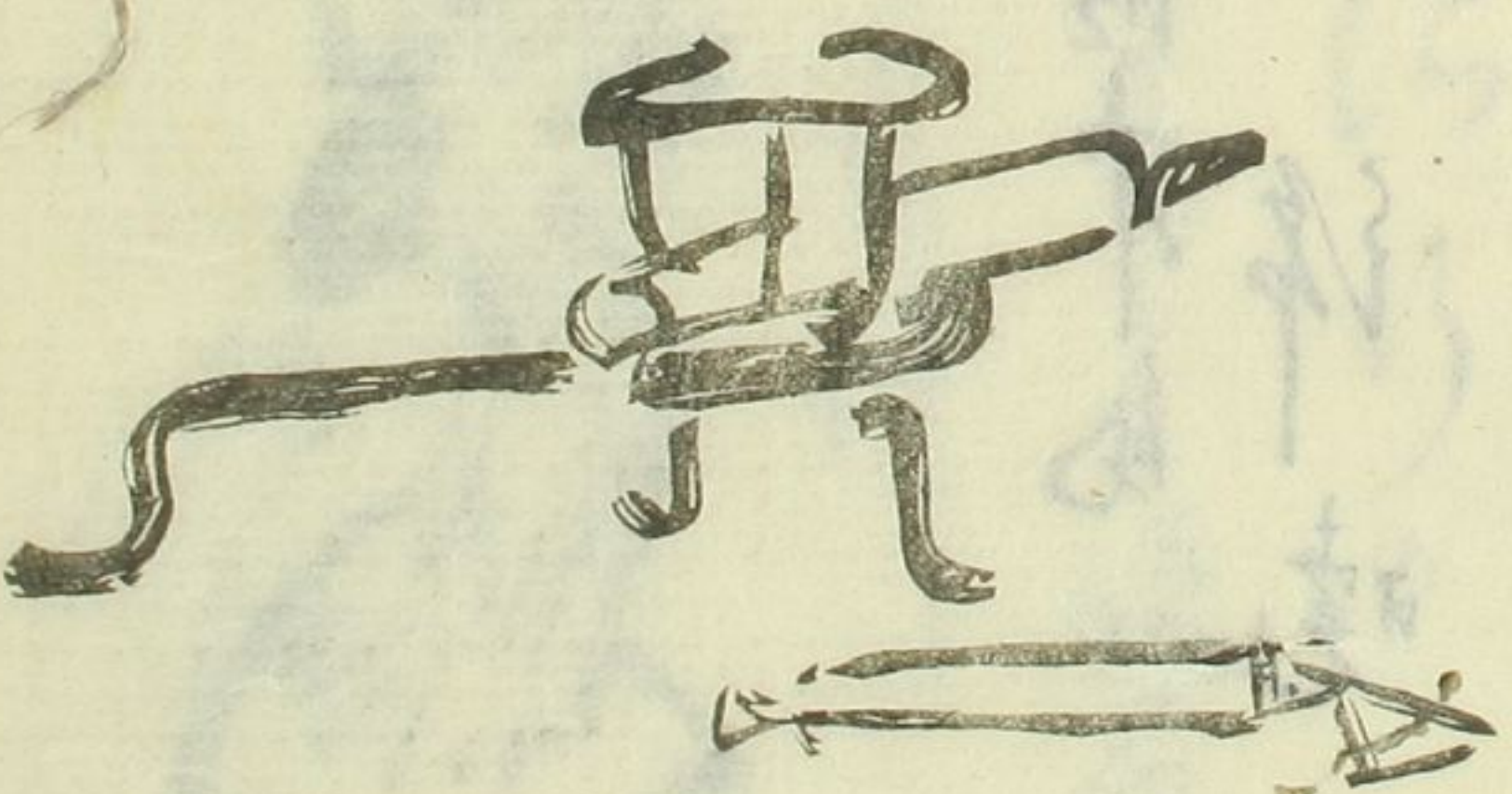
一 世 友

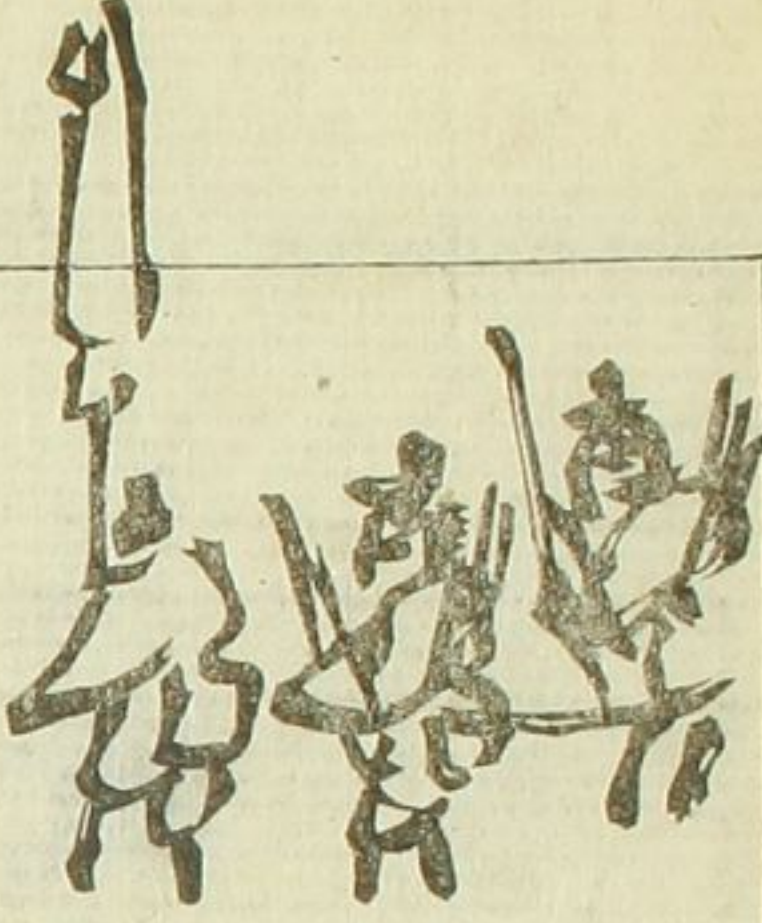
一 世 友

春のう
 杉のう
 少袖のう
 枕のう
 我

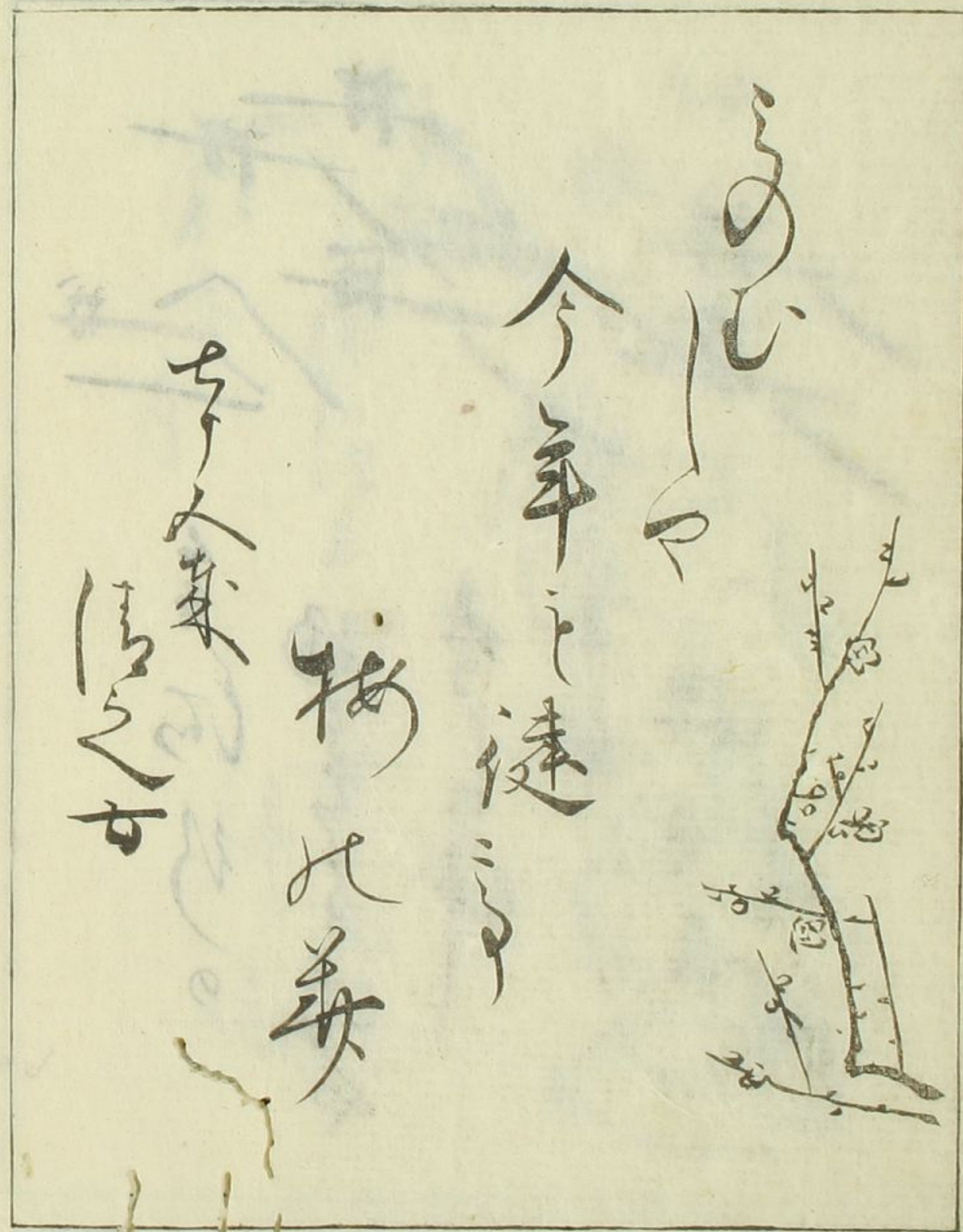
一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



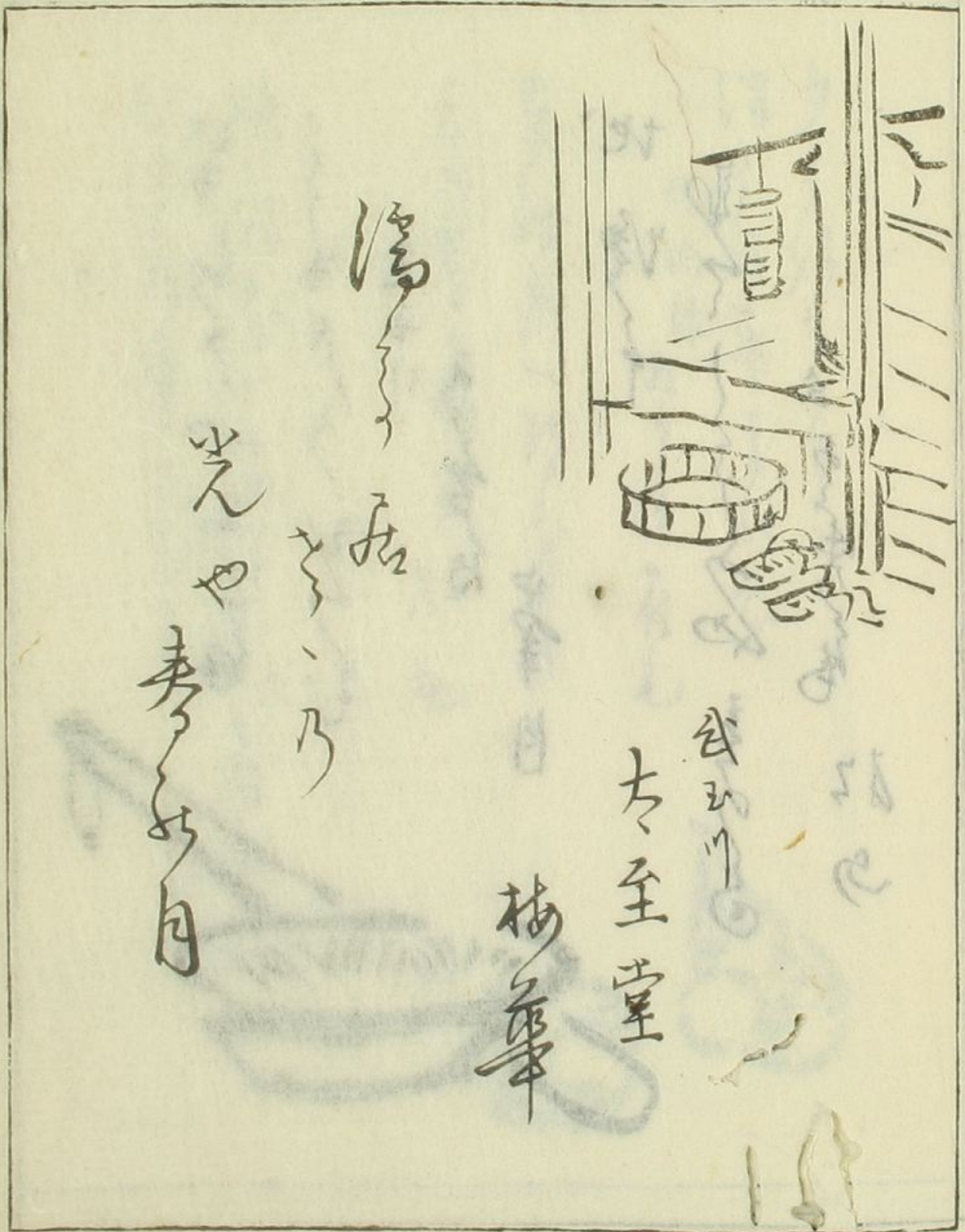
梳之堂
 牙水
 梳之目
 子
 梳之目
 梳之目



 梳之堂
 梳之目
 梳之目
 梳之目
 梳之目
 梳之目
 梳之目
 梳之目

仕掛



七



廿一

うんく

うんくと隆子の

うんくや 梅華

癸亥積山下

大蛇のうた美

霞より上漕

全 瑞初女

沖のやまうた

春目

一二編

うんくも 梅の

全 うんくも

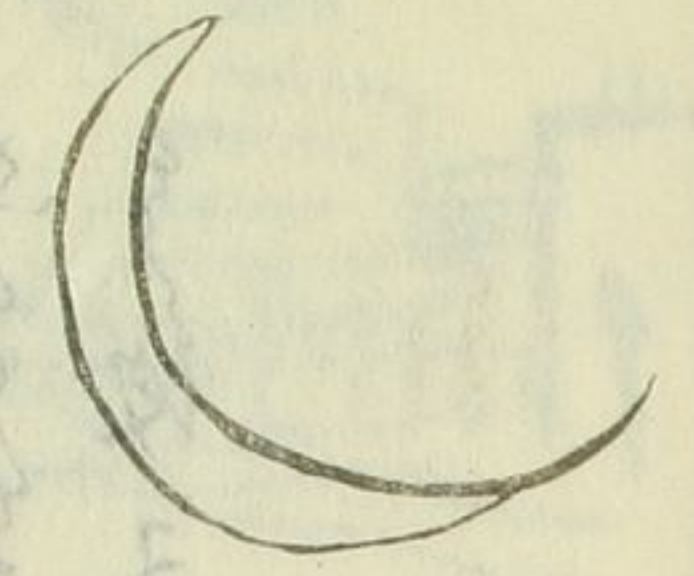
白うま

観目



上

うんく



うんくの中

上 梅原

うんくも

うんくも

うんくも

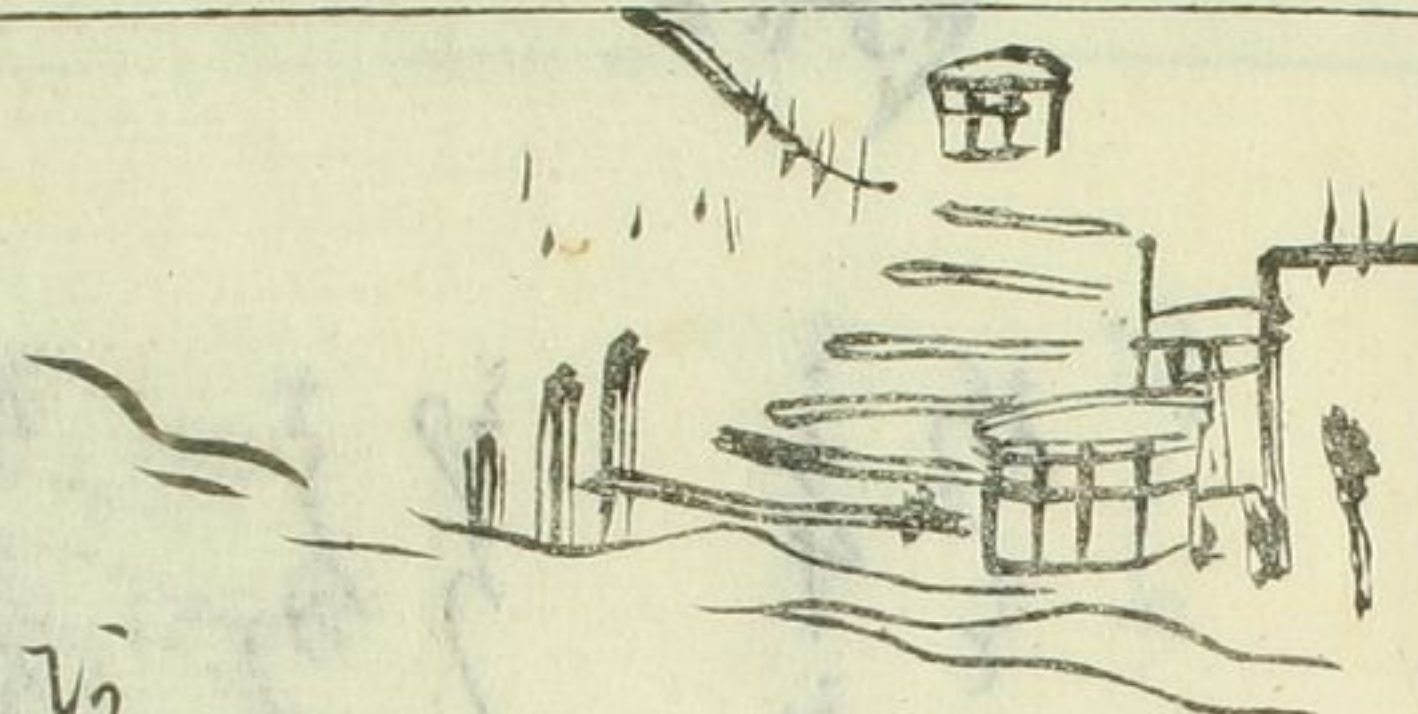
全 梅原

うんくの中

全 梅原


雲

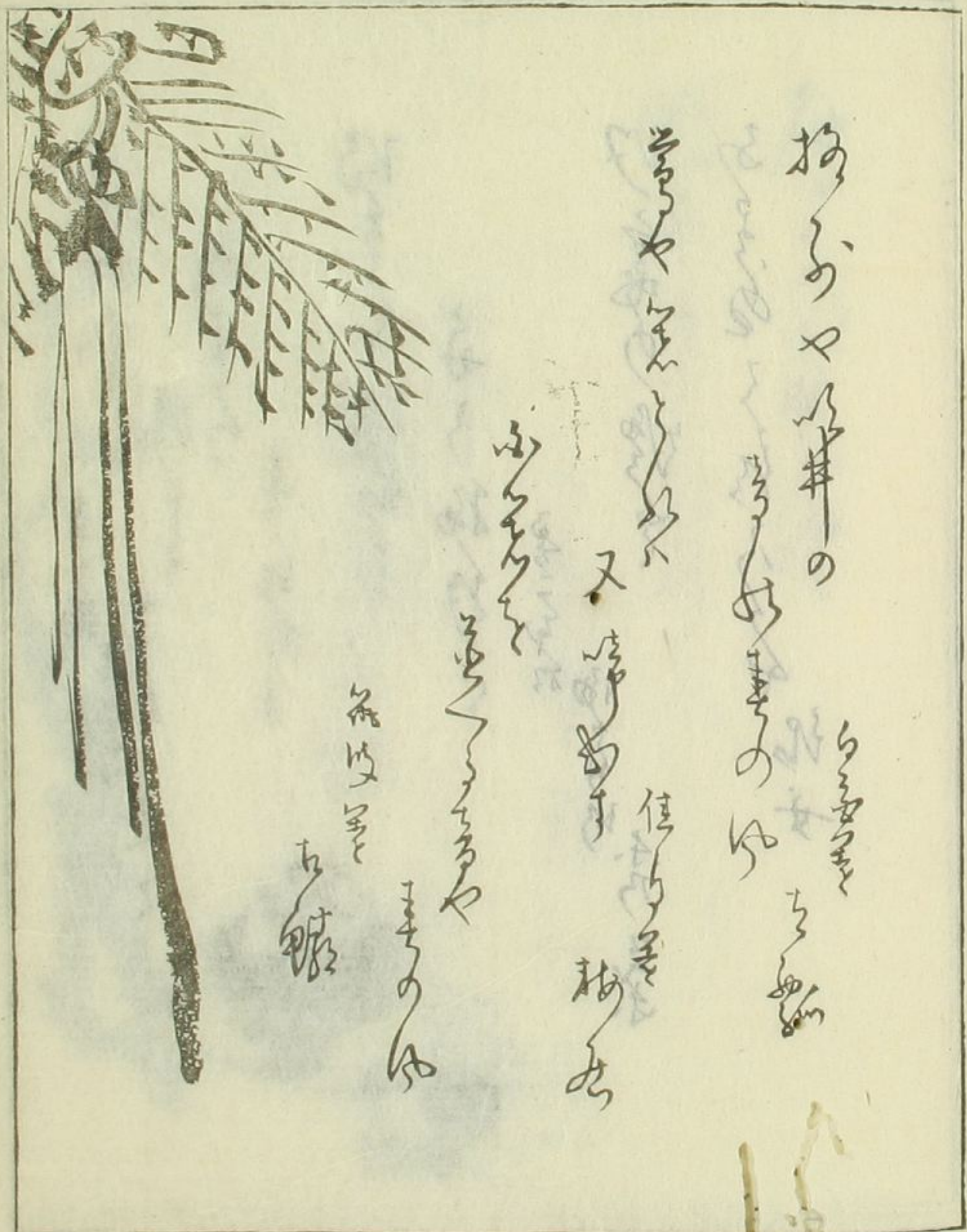
上

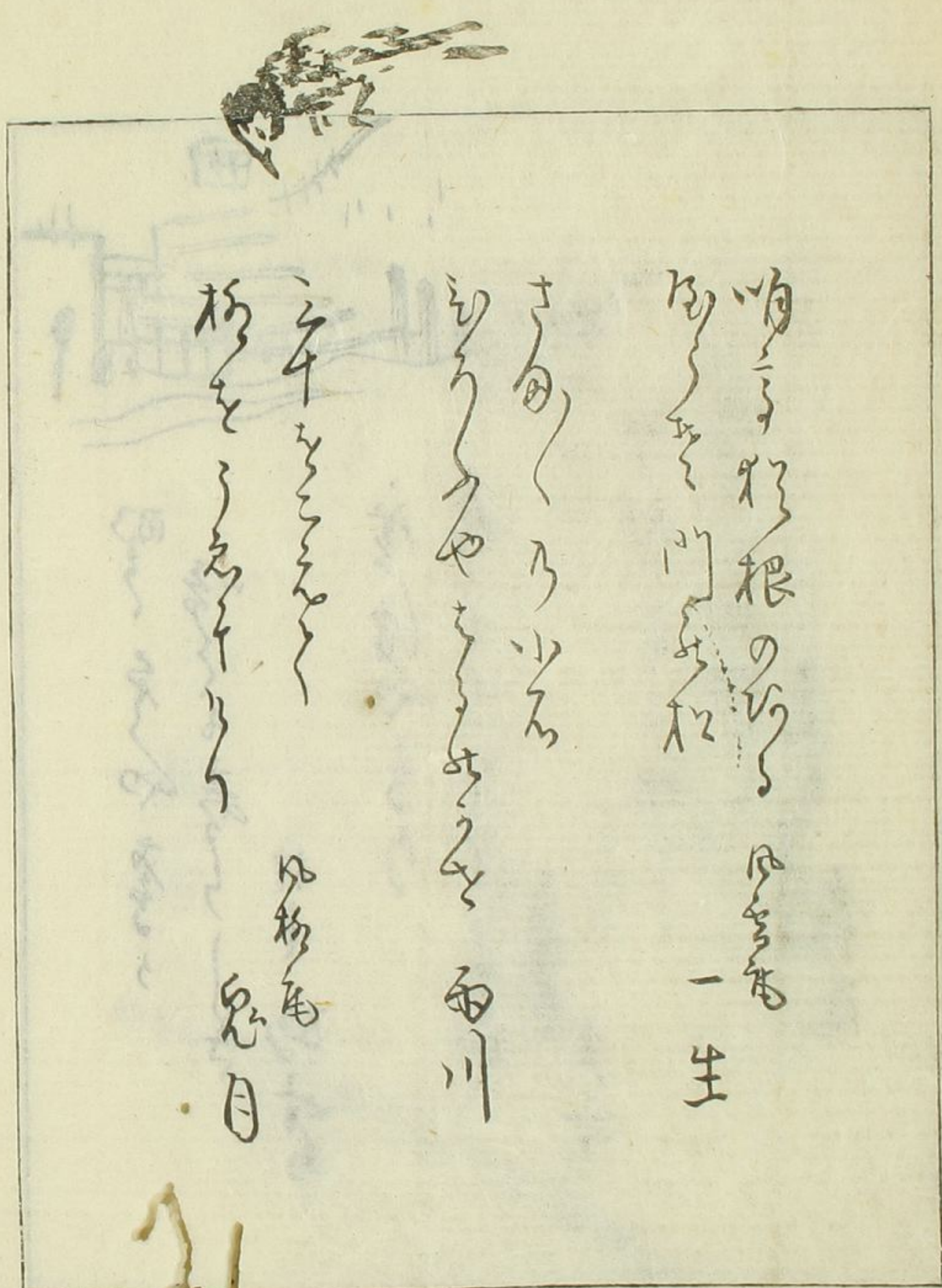
那々々々々々々々々々
 長々々々々々々々々々
 左
 右
 尾

文
 楯
 指
 目

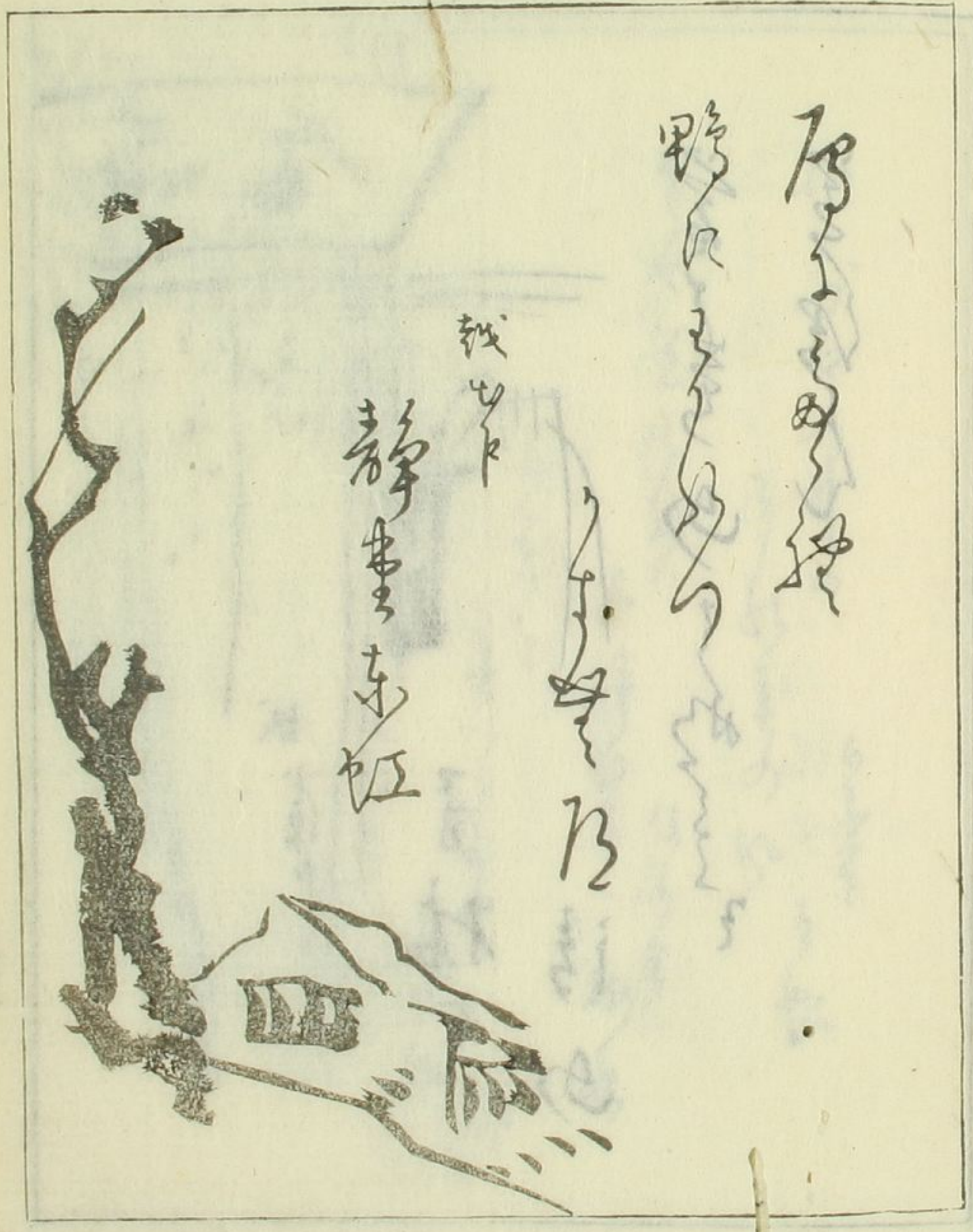




おふりや井の
 さかやまの
 又さかやま
 信の
 梅の
 梅の
 梅の
 梅の



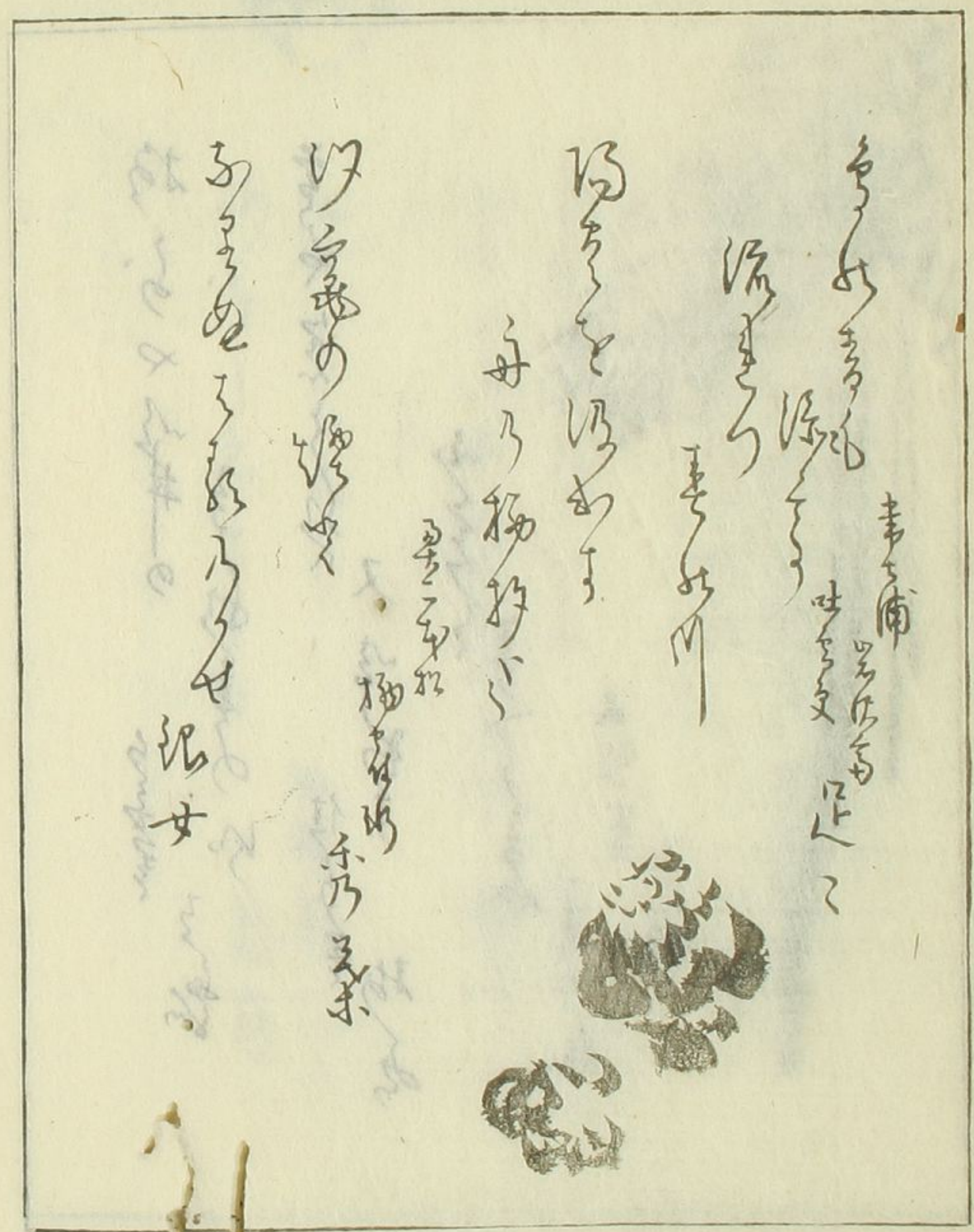
梅の根の
 一生
 さかやまの
 さかやまの
 さかやまの
 さかやまの
 さかやまの
 さかやまの



静書
東丘

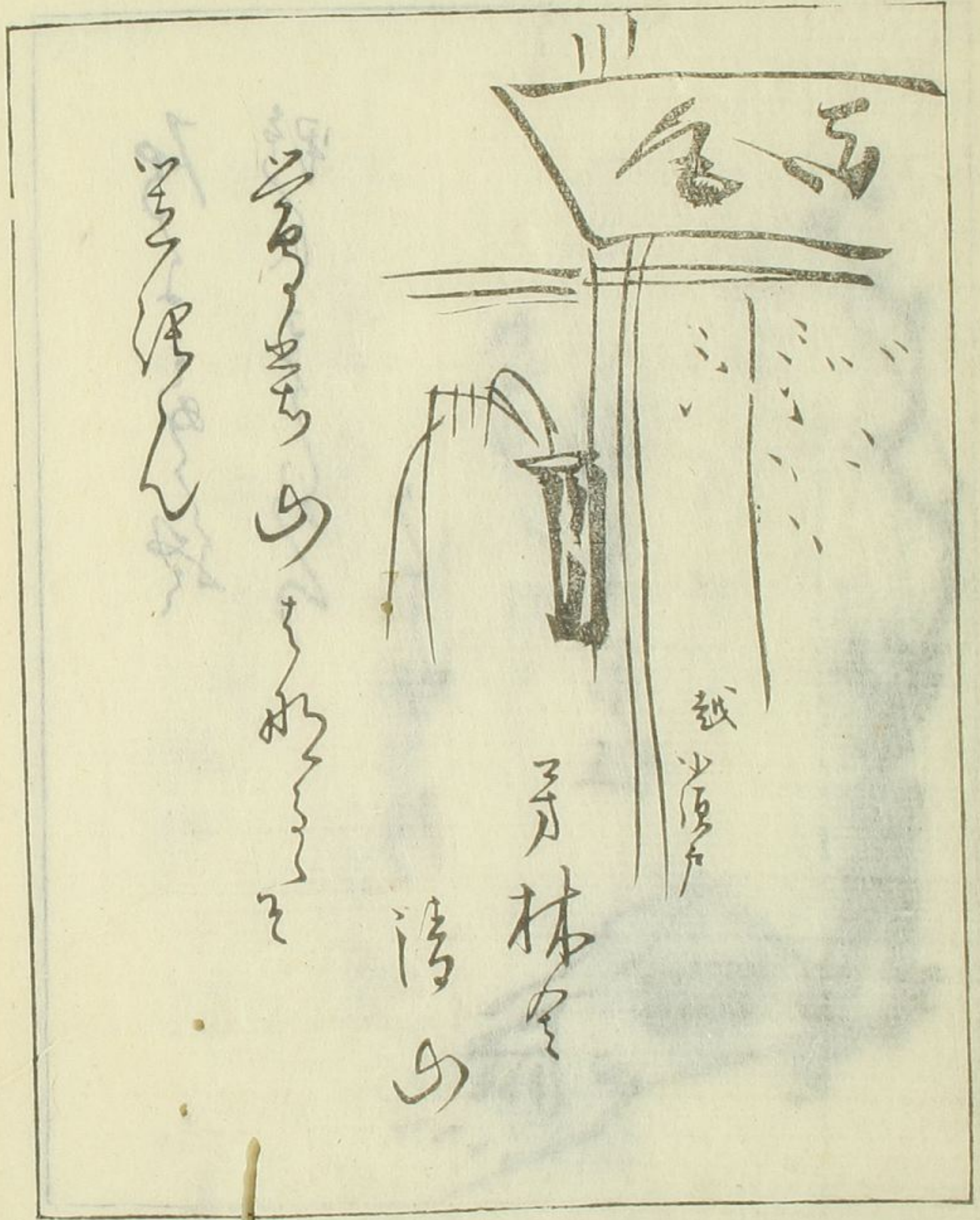
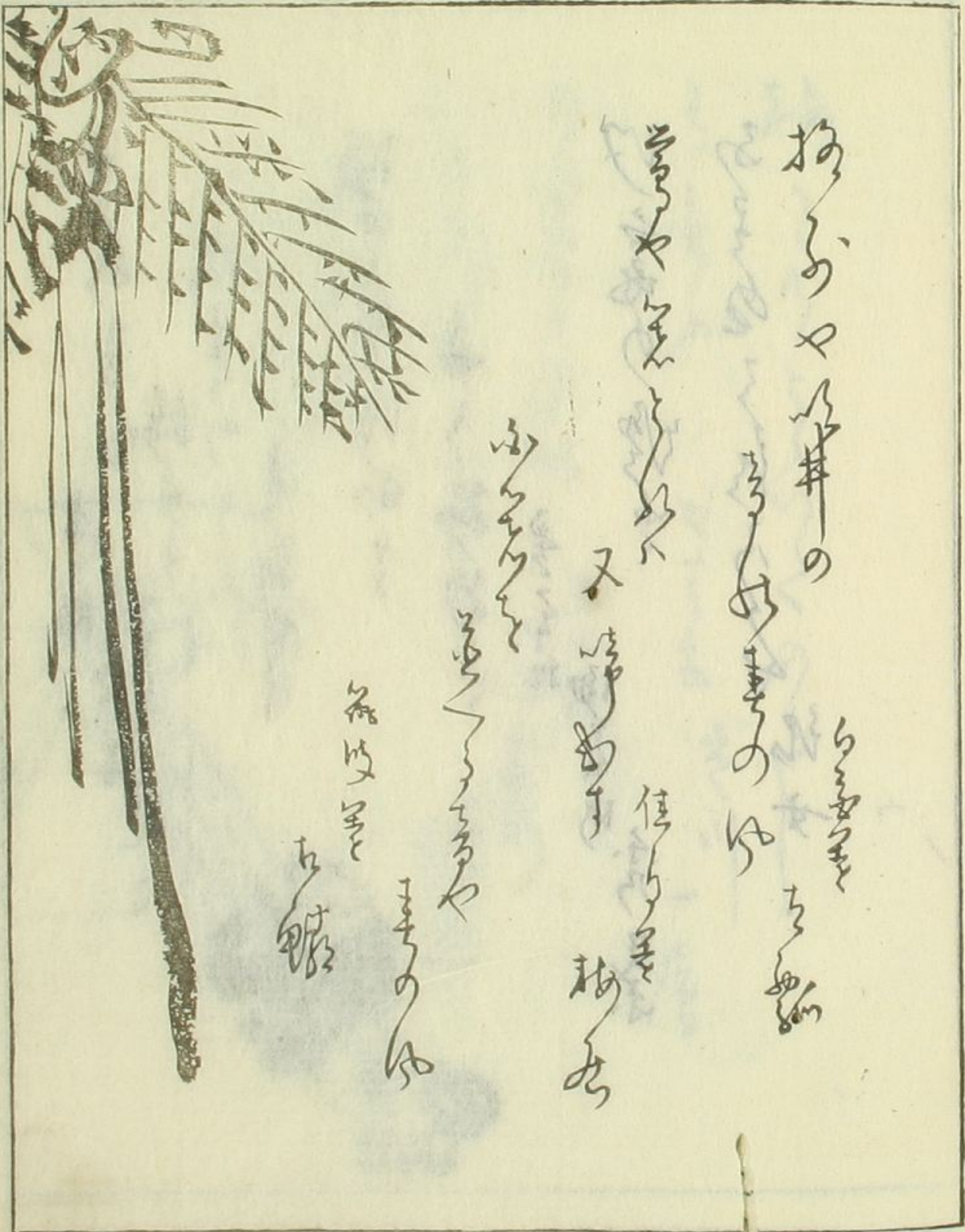
静書
東丘

静書
東丘

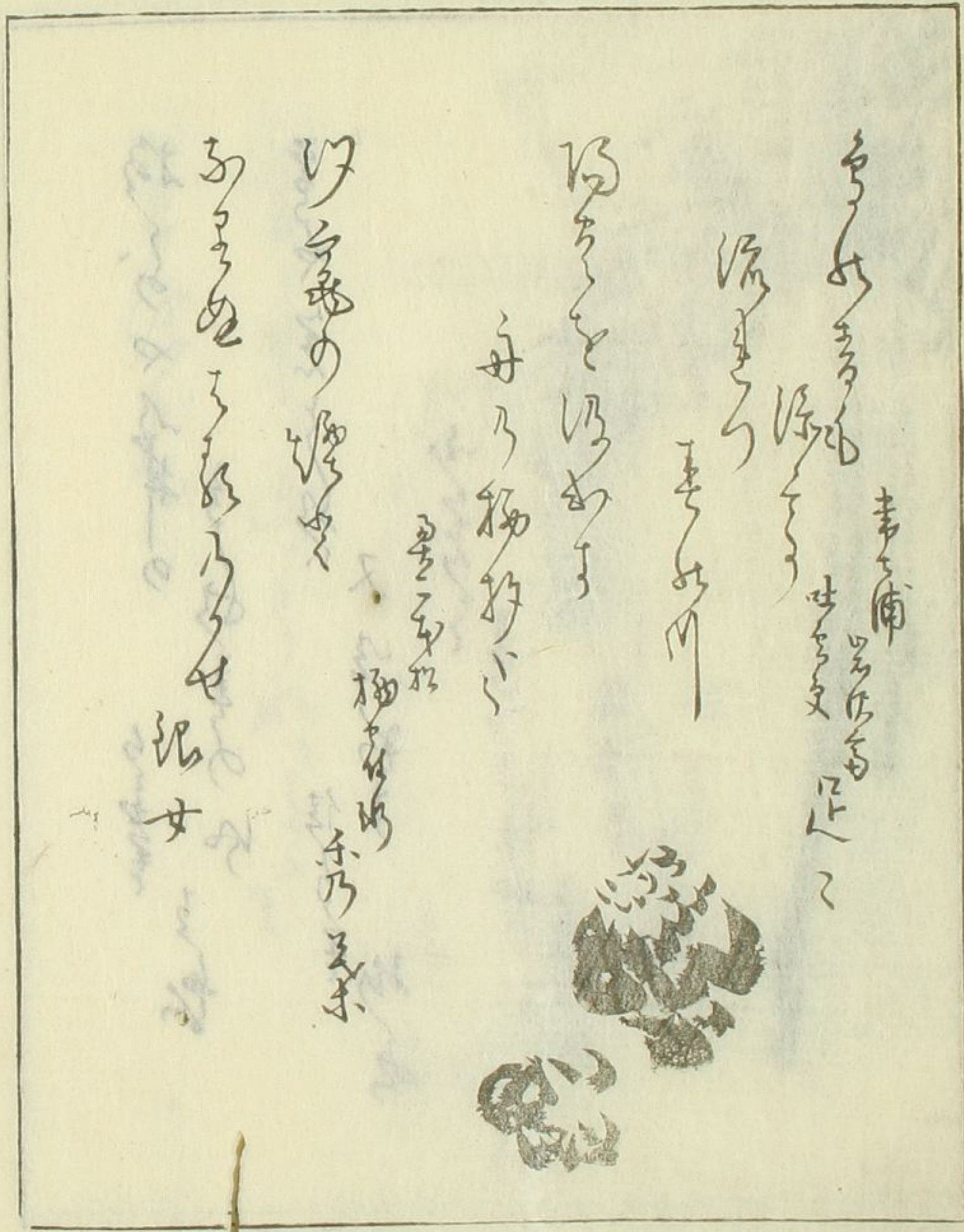
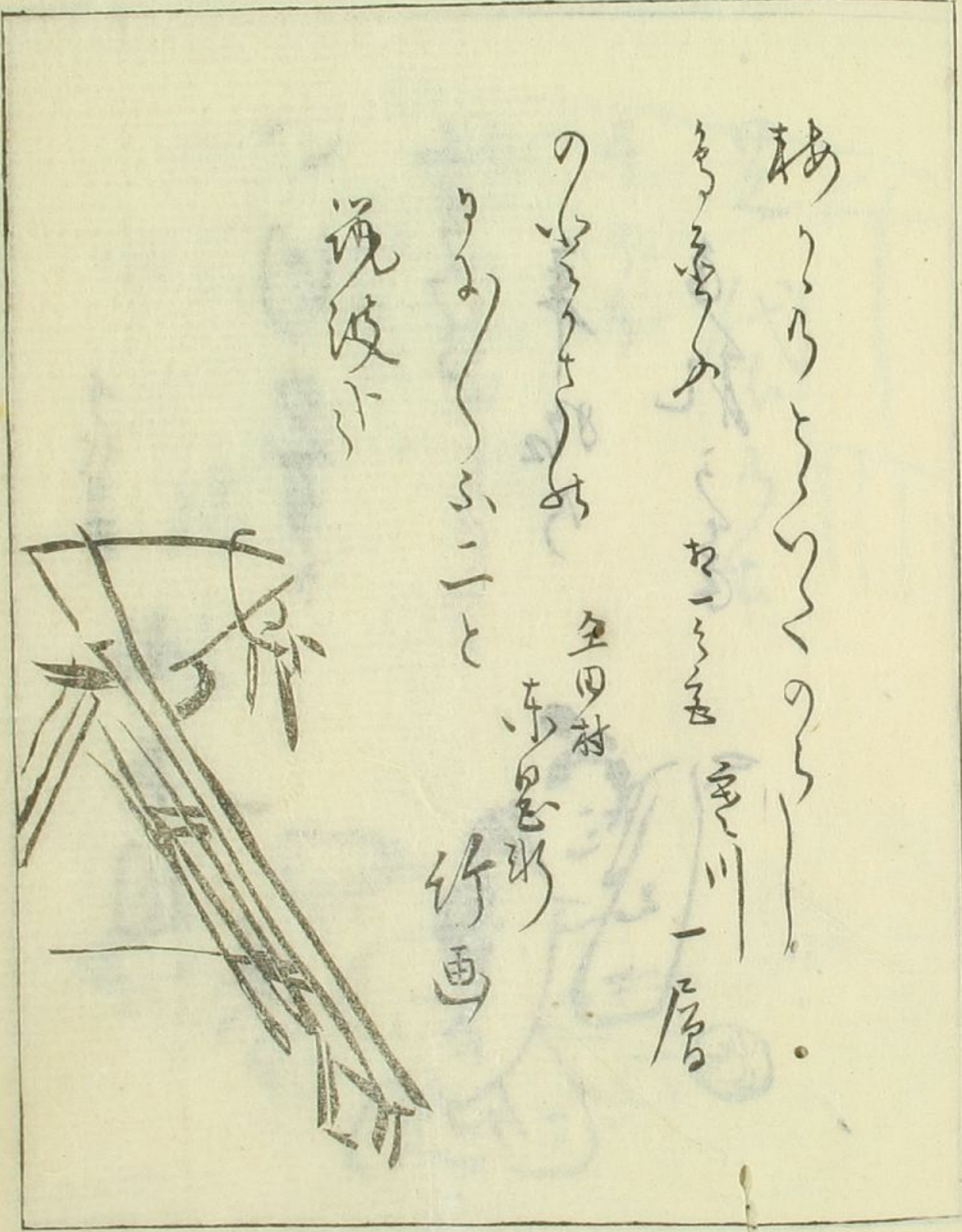


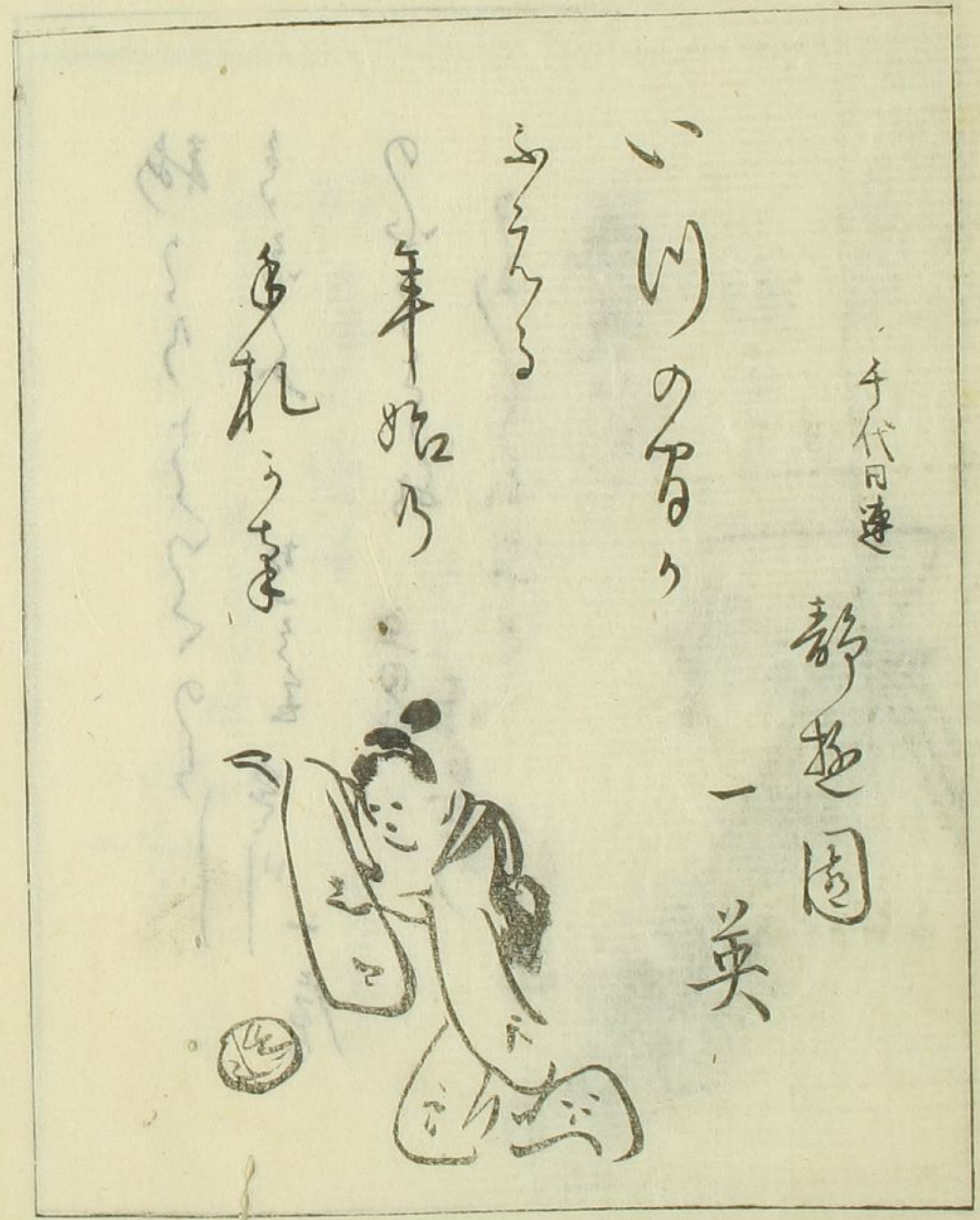
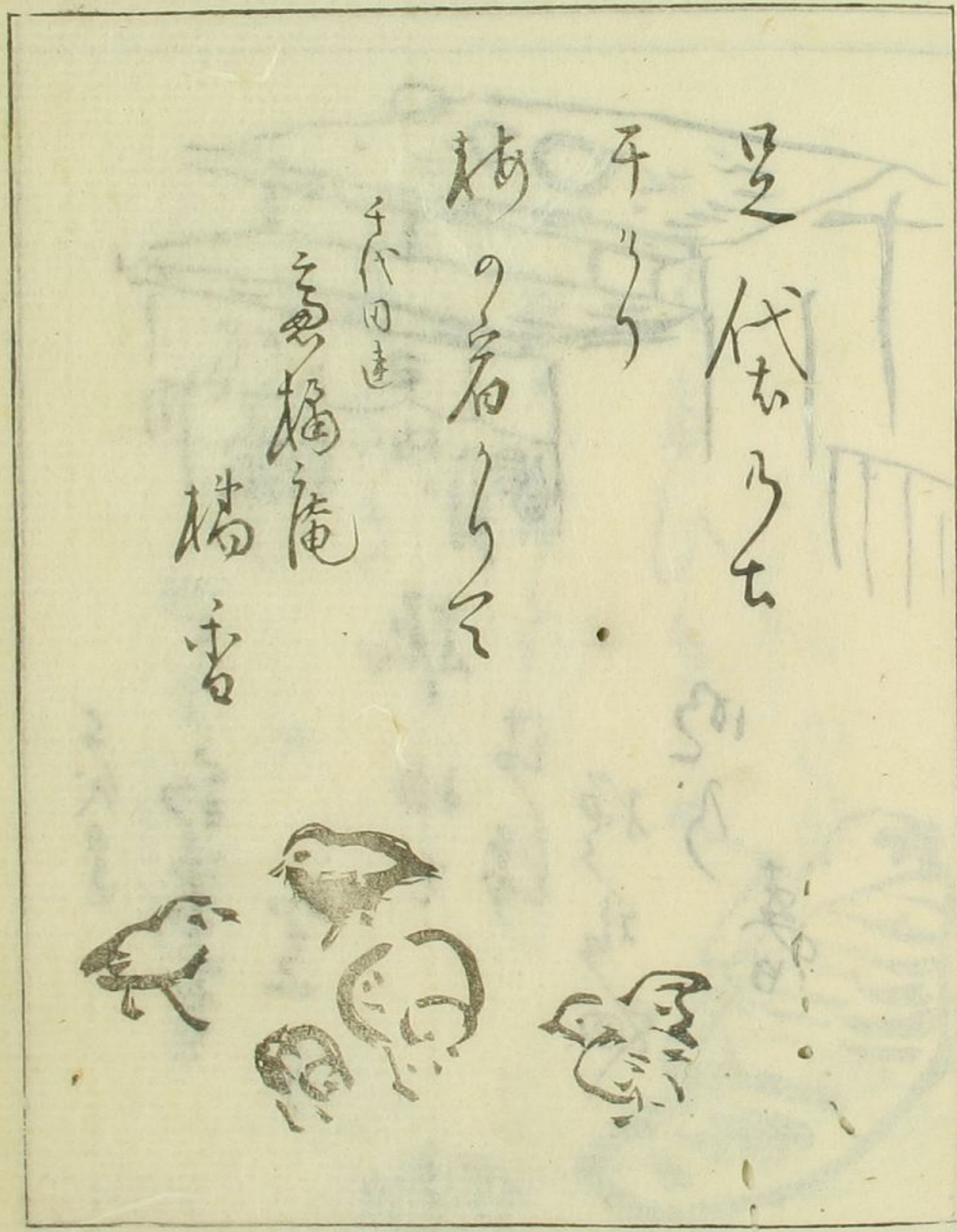
静書
東丘

静書
東丘



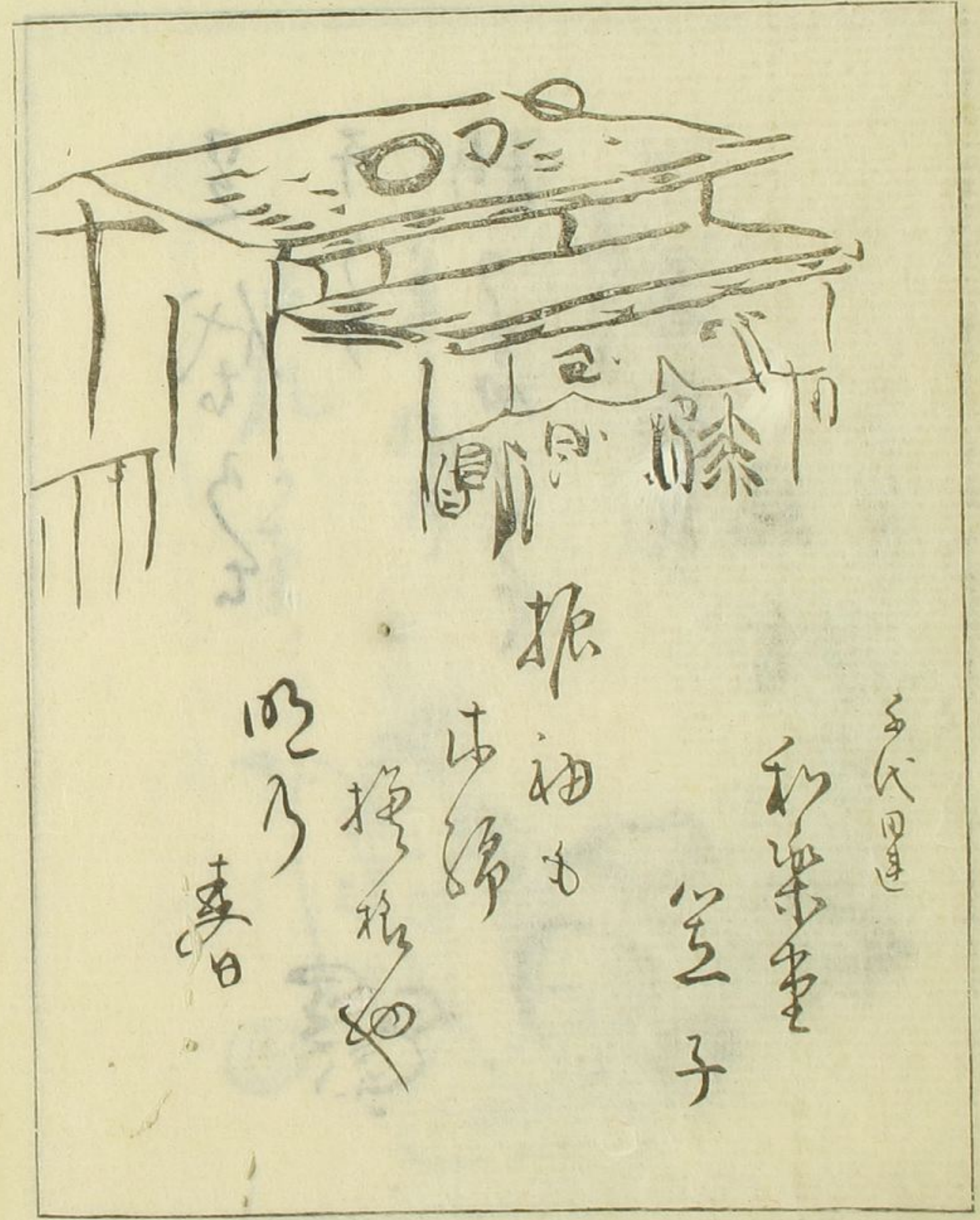
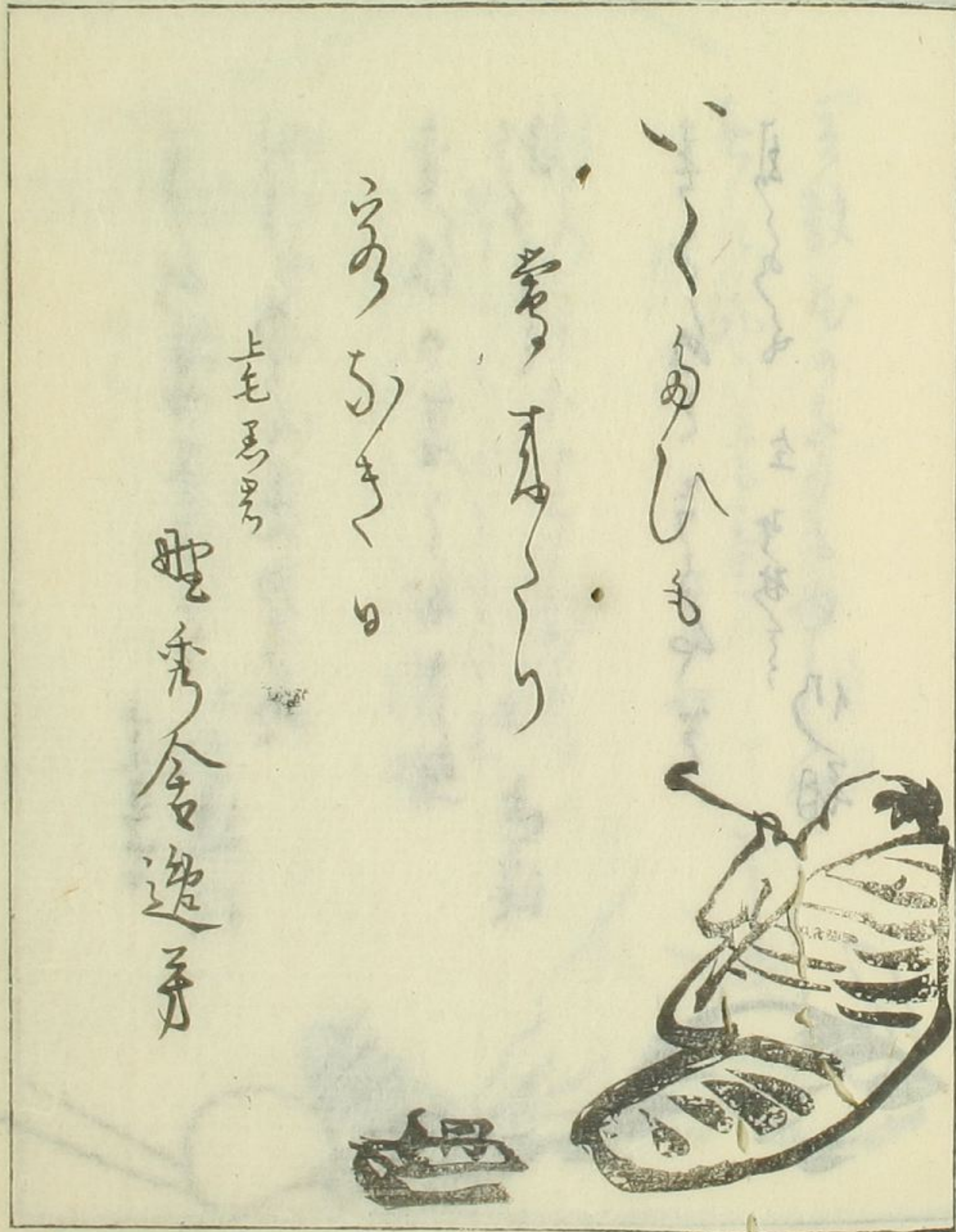
五七





二二二

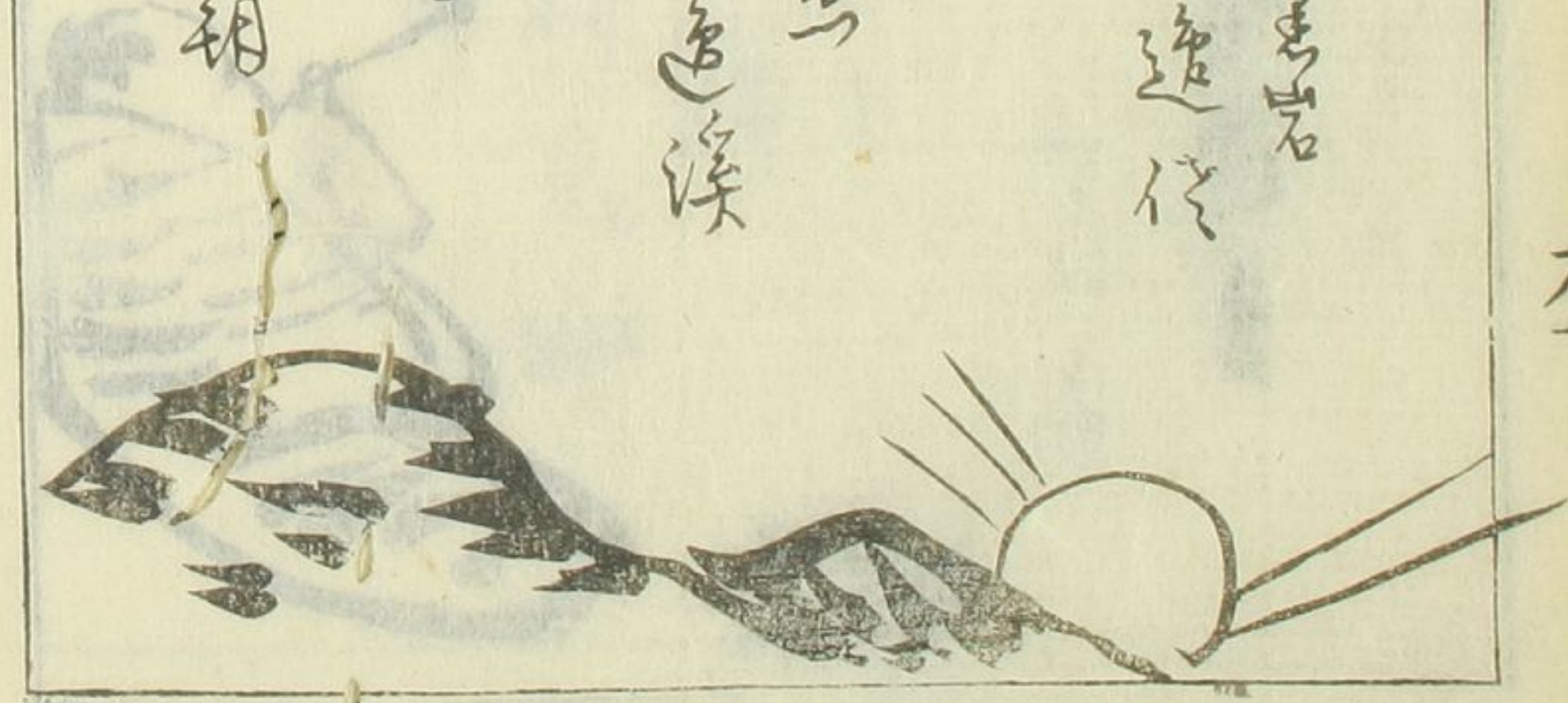
三三三



上毛馬岩
逸作
多岐のまてささや
くさくさくさのささや

五 色 溪
新のまてささや
まてささや

仍朝
まてささや
まてささや



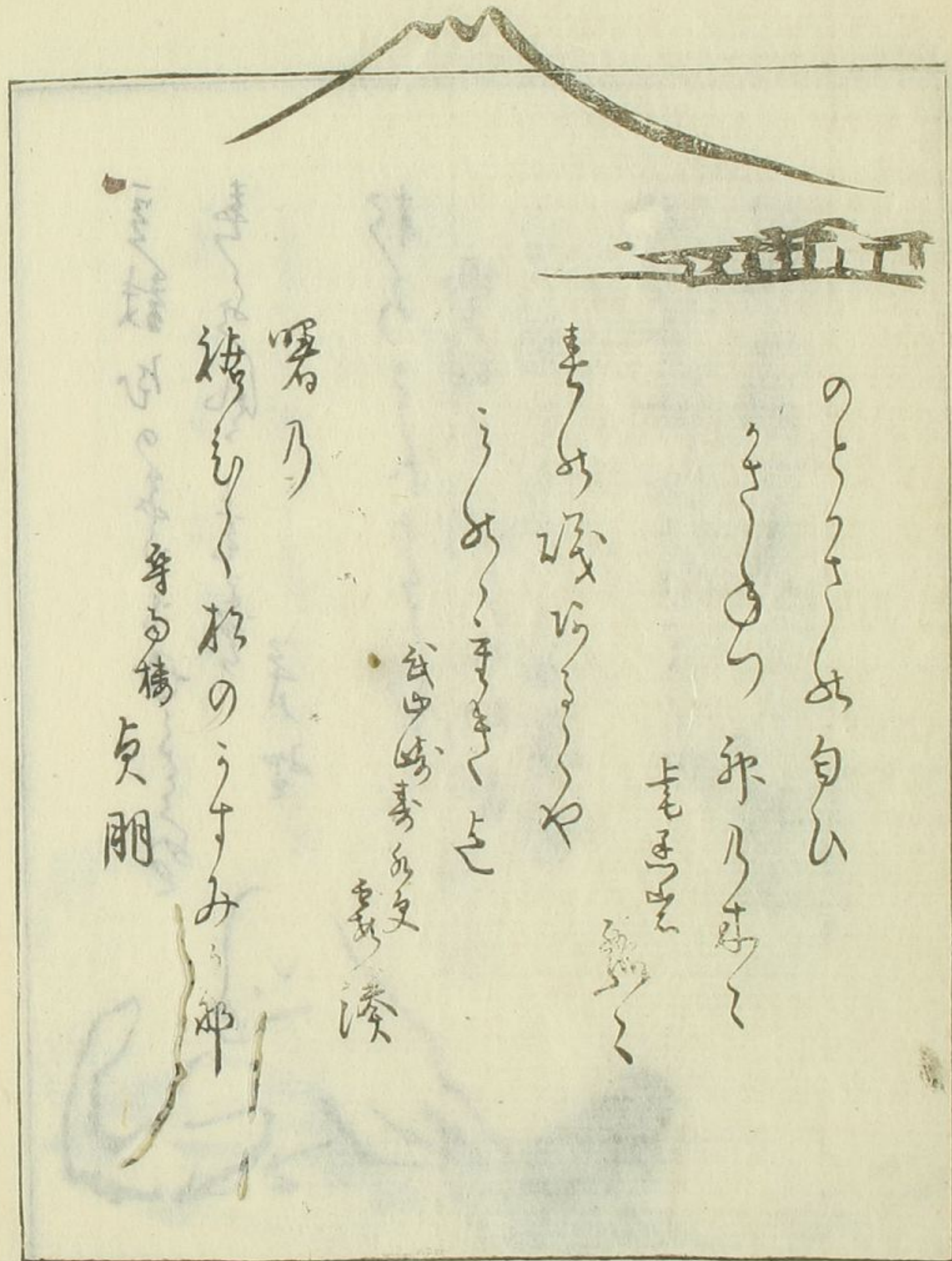
五 鼓 石
まてささや
まてささや

杉
まてささや

五 溪 池
まてささや

五 鼓 石
まてささや
まてささや





款々々々々々々々

ちつと梅の香

後府 杉本 碧山

さうけえ

卯の梅と

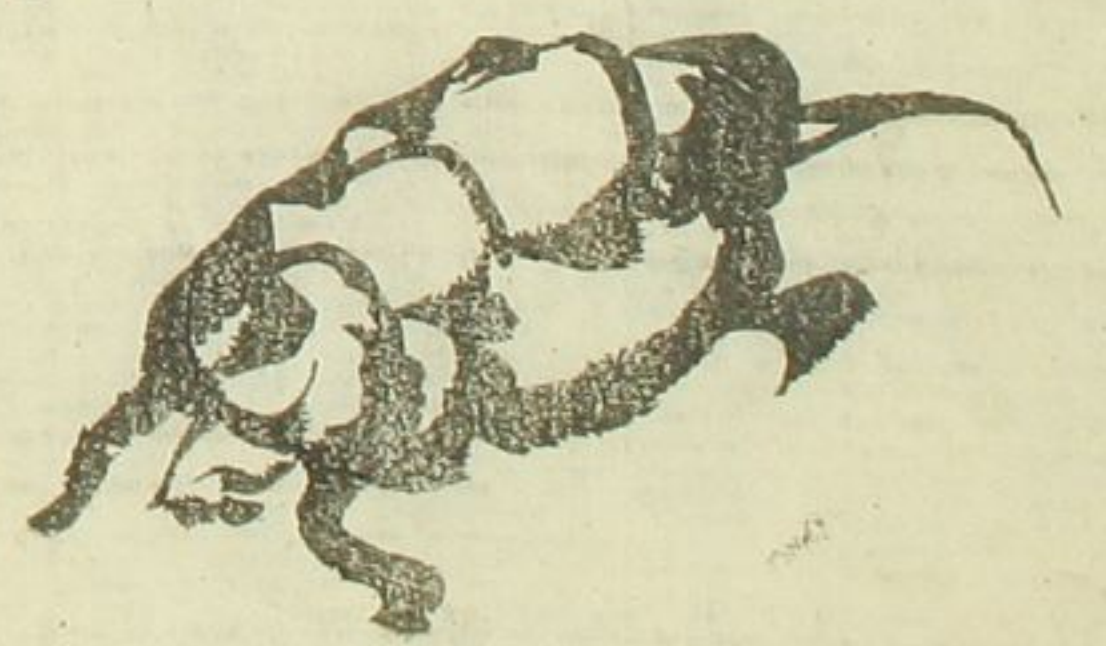
五 一仙堂 慶の

ゆきゆき

全 子かき

さき健う

三六 曲



六三

梅も黄連

市徳山達

園松橋

梅よるも

うきうき

ゆき

梅うきも

あき

まの目

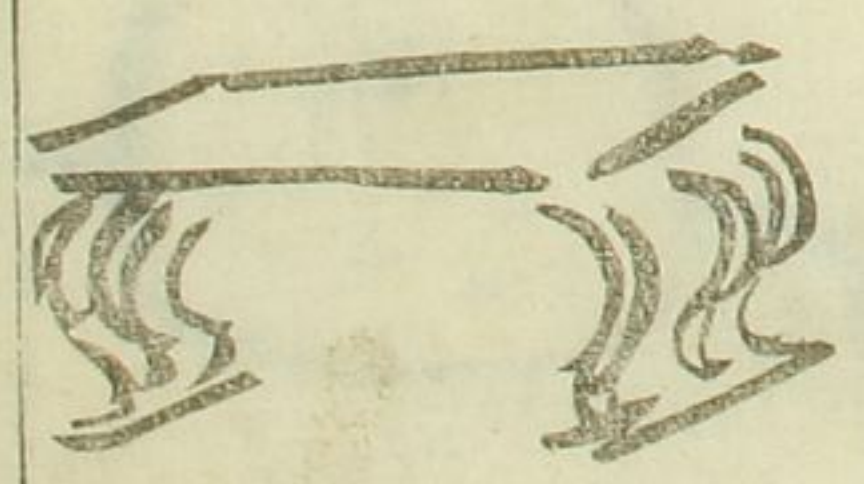
梅きり

杉本

ゆきゆき

秋

うきうき



六三

きりぎりす

きりぎりす

武蔵守 花見女

松竹

きりぎりす

松竹 花見女

きりぎりす

きりぎりす 花見女



厚野のきりぎりす

武蔵守 花見女

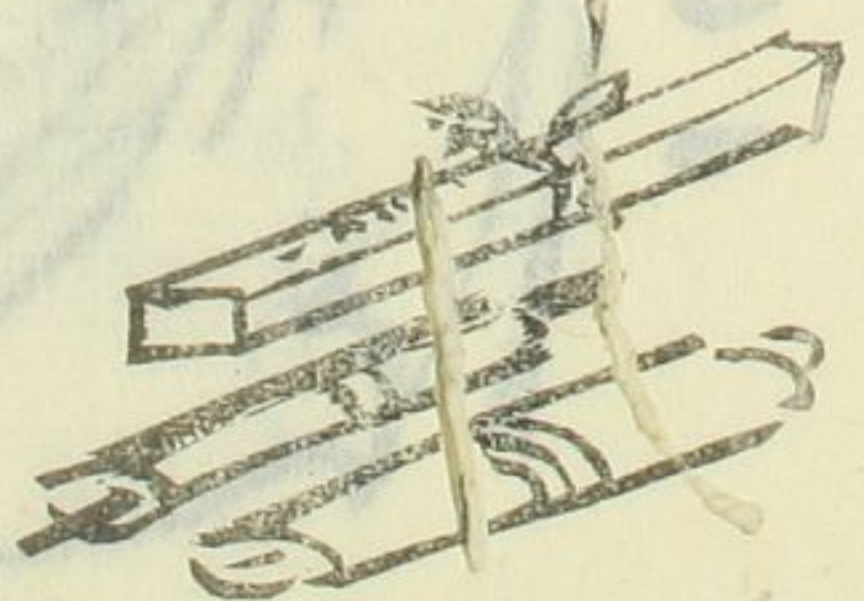
きりぎりす

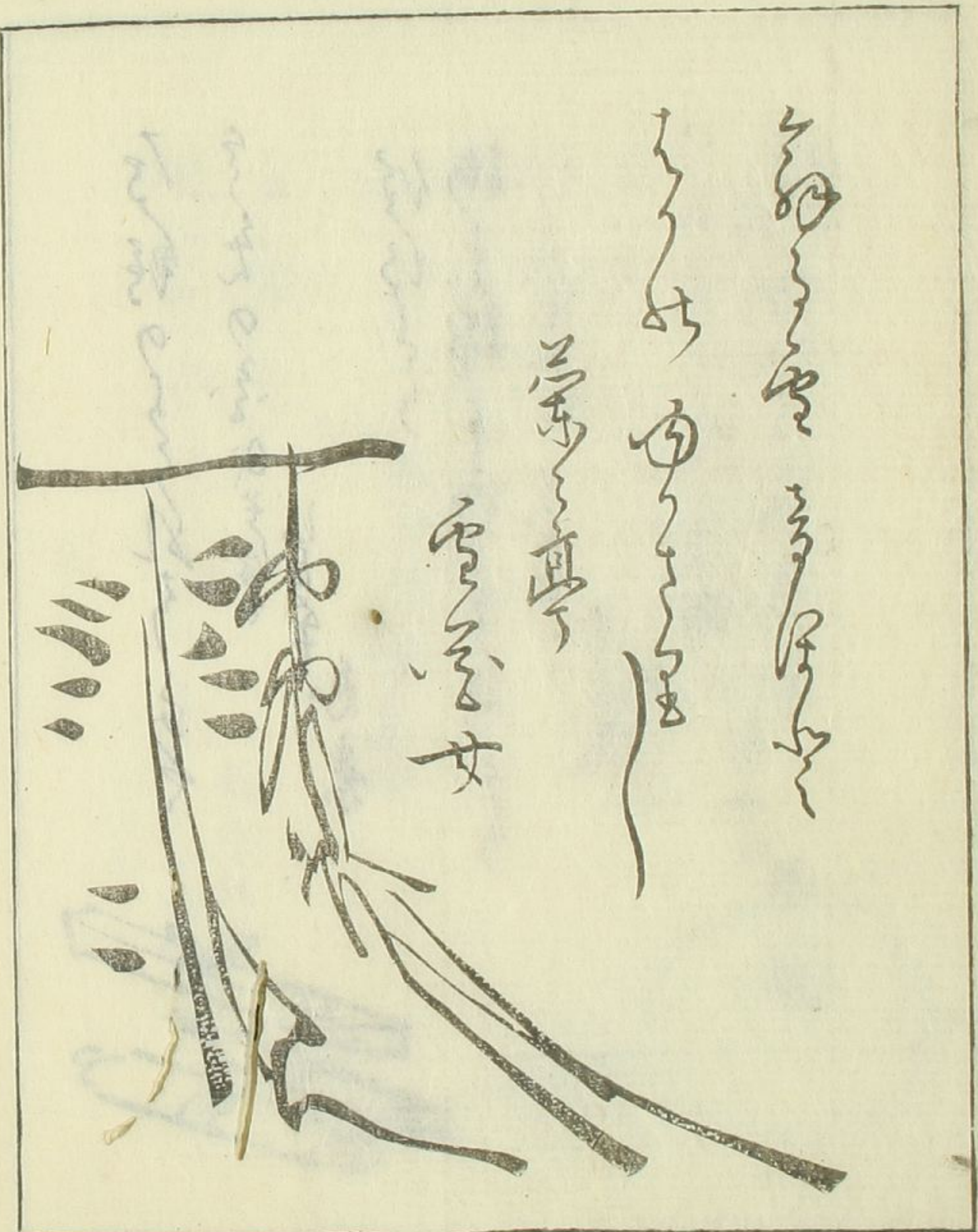
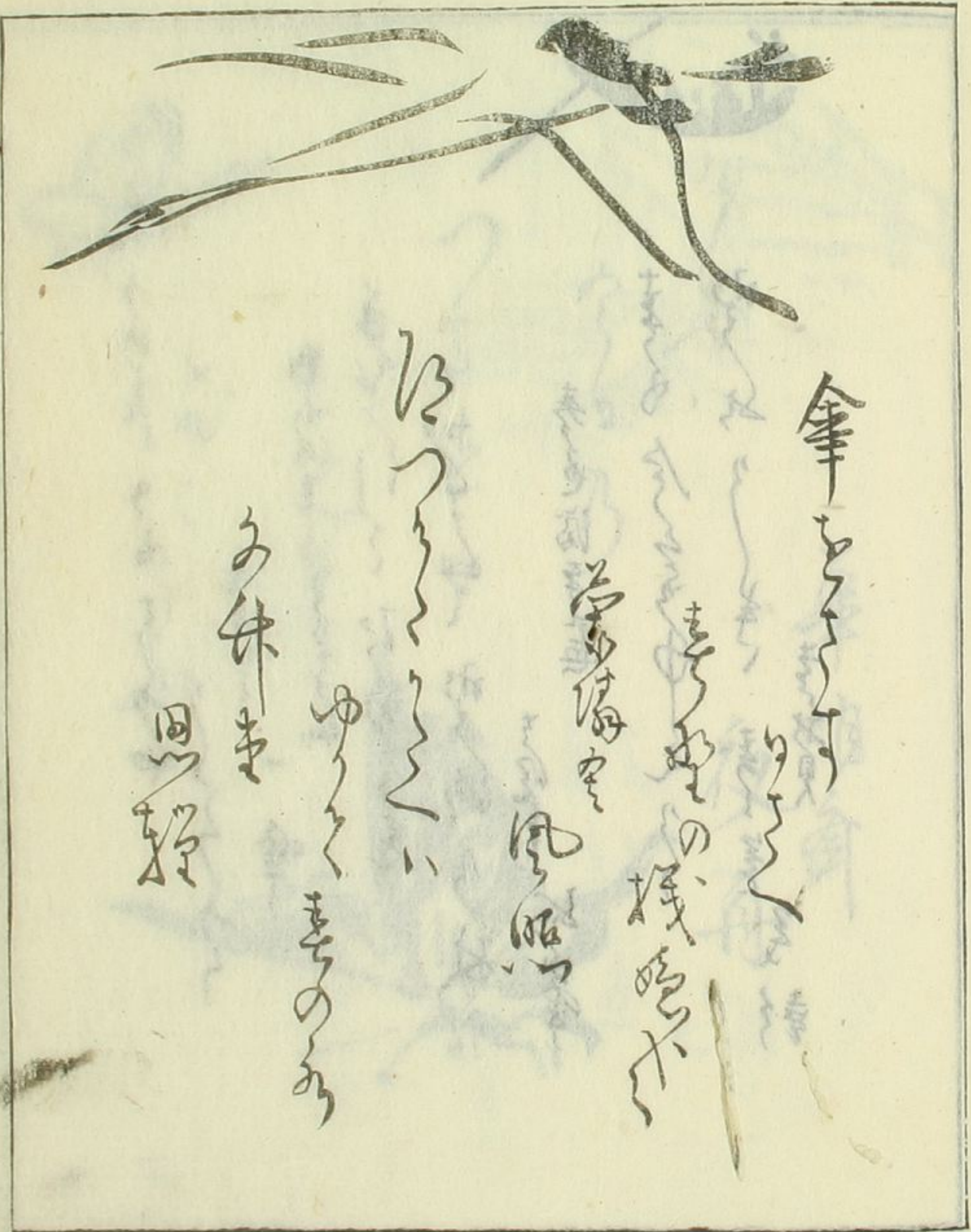
きりぎりす

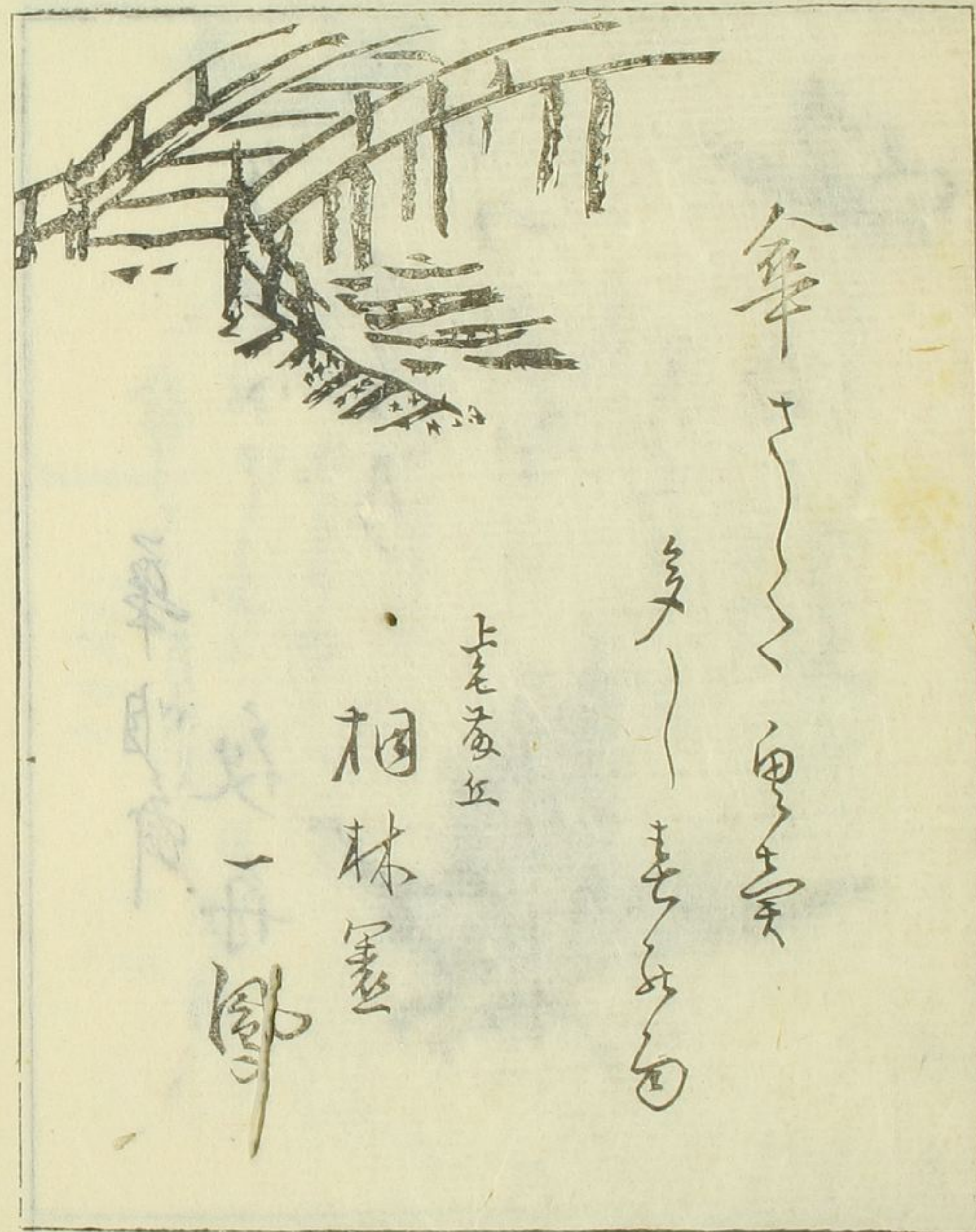
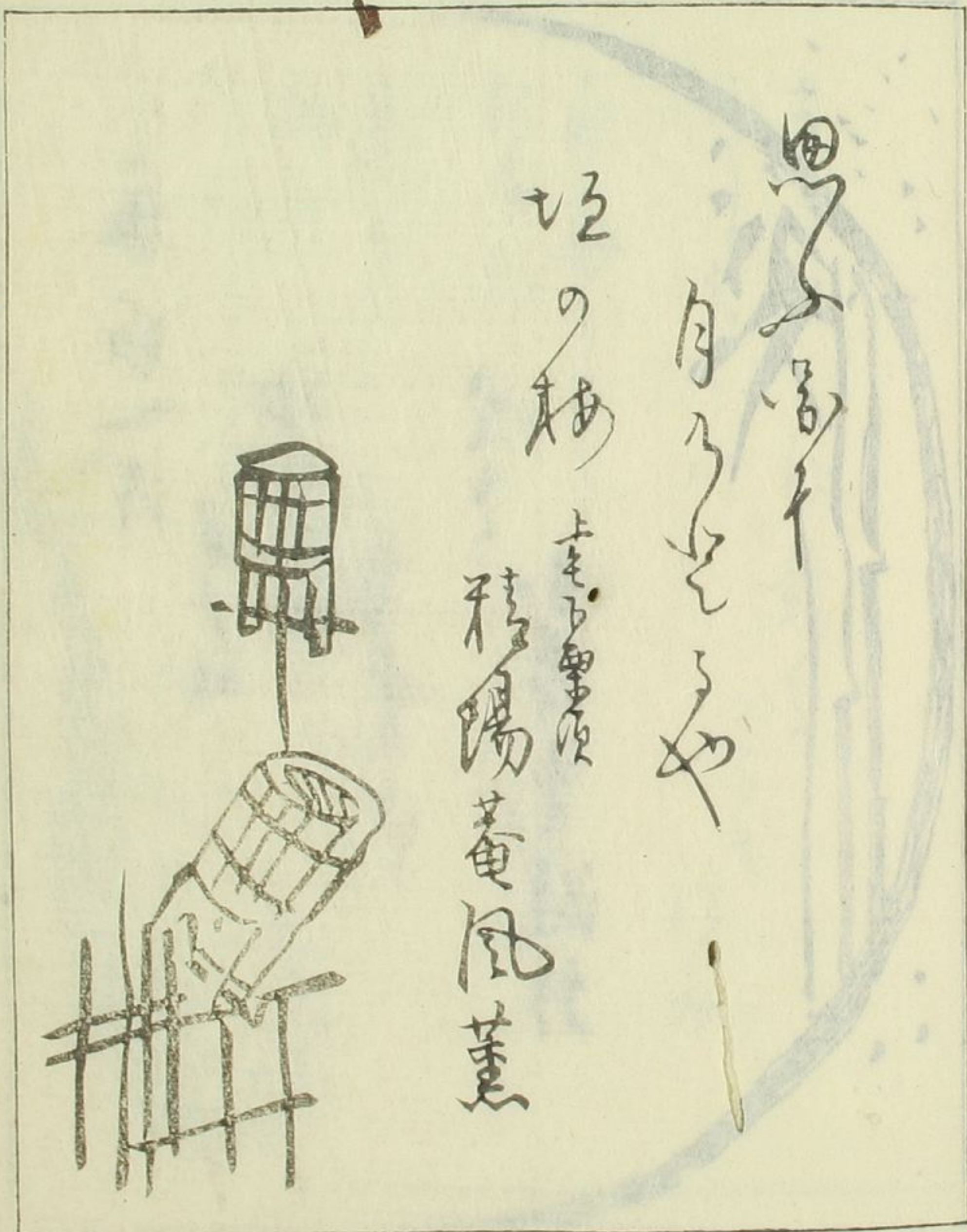
武蔵守 花見女

きりぎりす

きりぎりす 花見女







蓬萊や海山
里々々々

上毛路也

長谷川
二局



心ゆくも
おもしろ

五
光如

我多由
りりり

りりり
五
一

る中
るん

上毛路所

りりり

るの
る

五
一島市

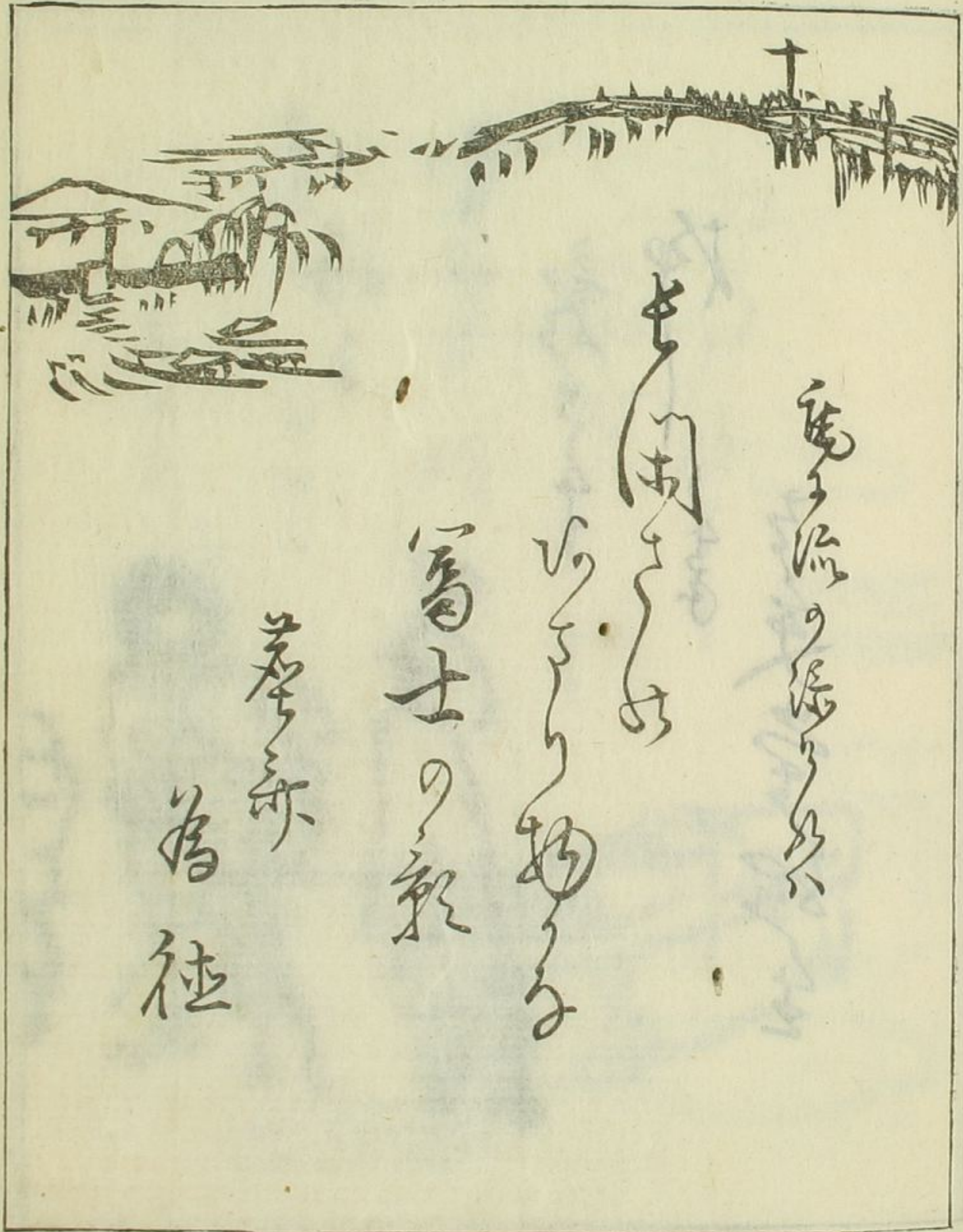
る
る

る

るの柳



上毛



富士の麓の松

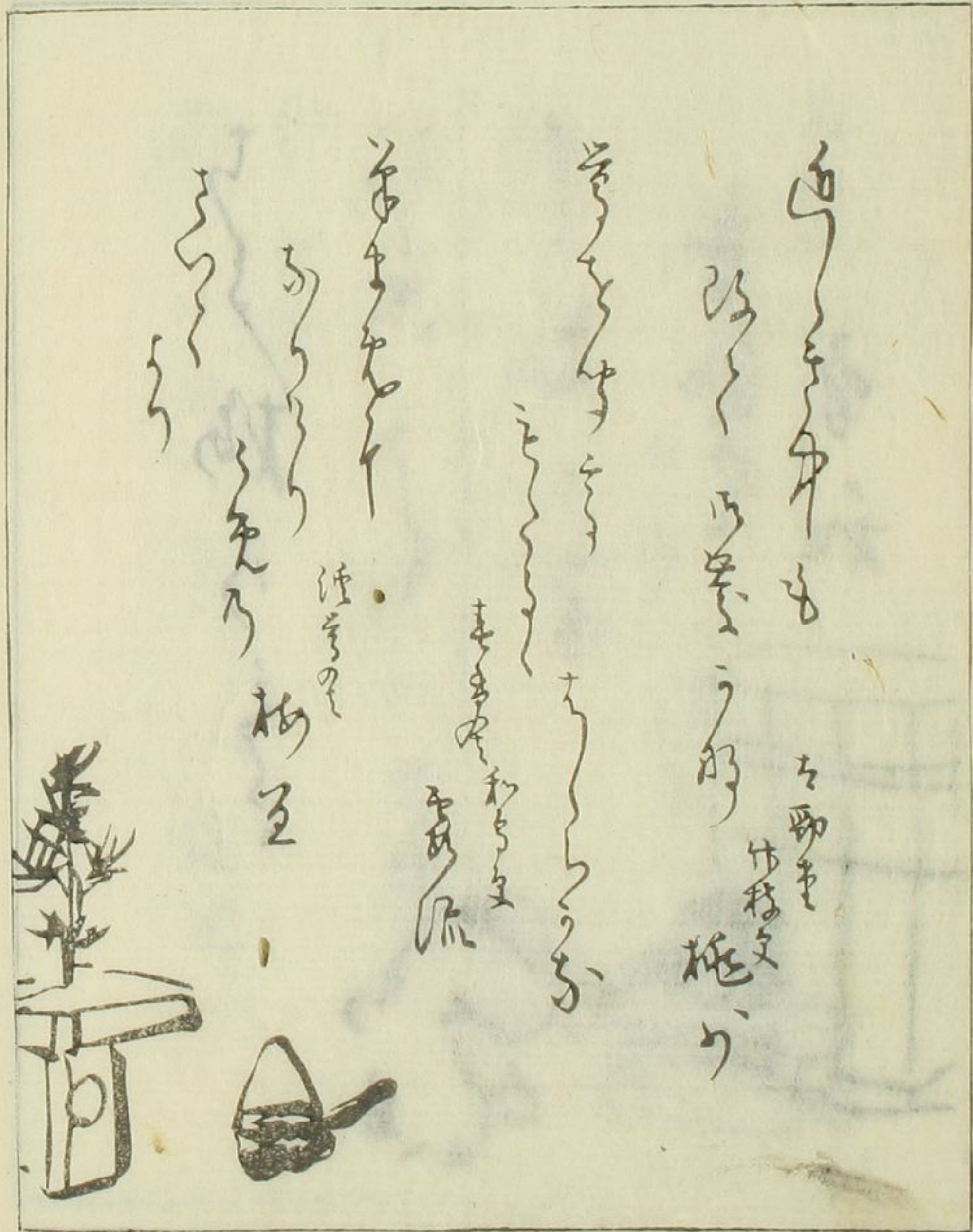
中園

富士の松

富士の松

富士

徳



色

改

色

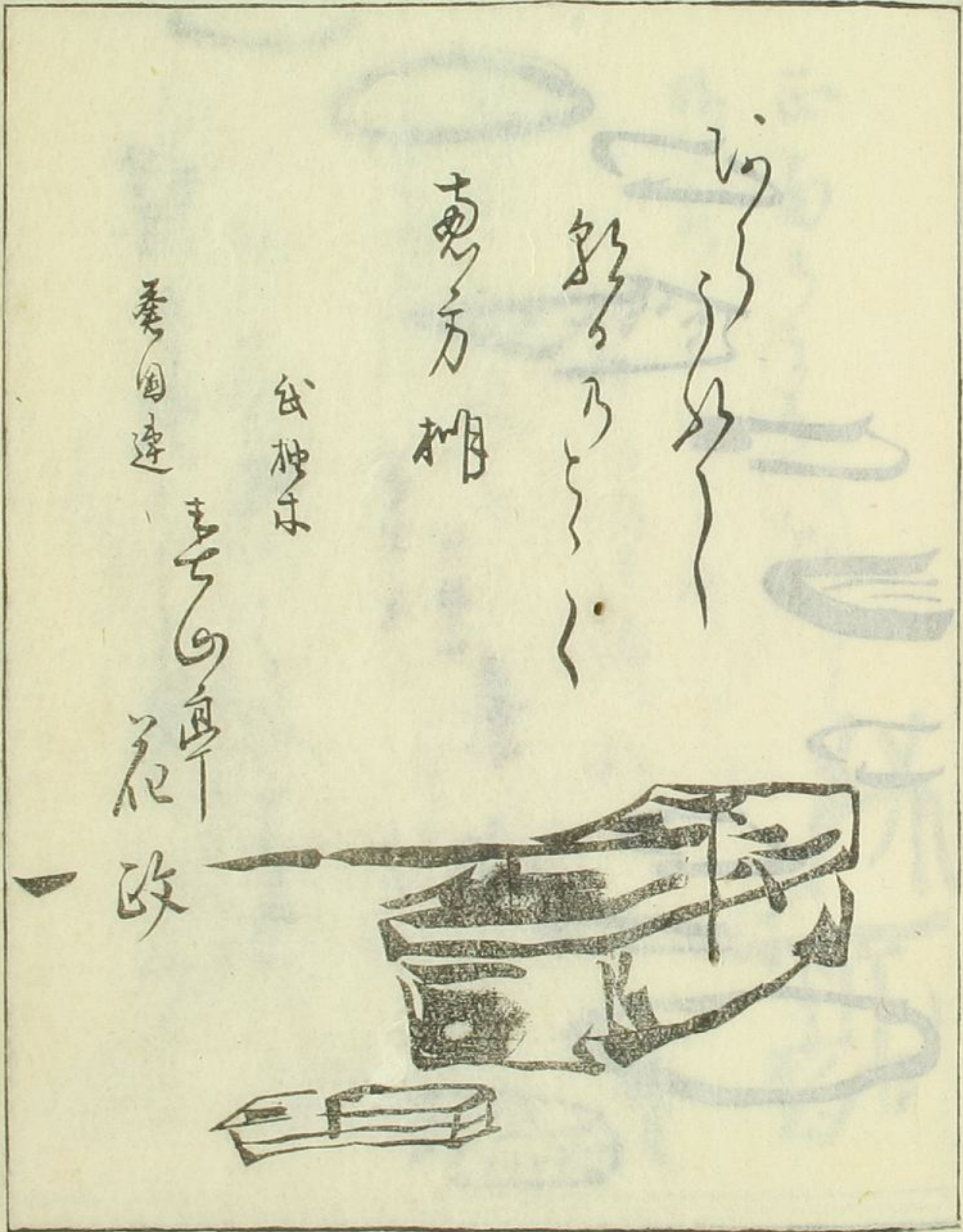
色

色

色

色





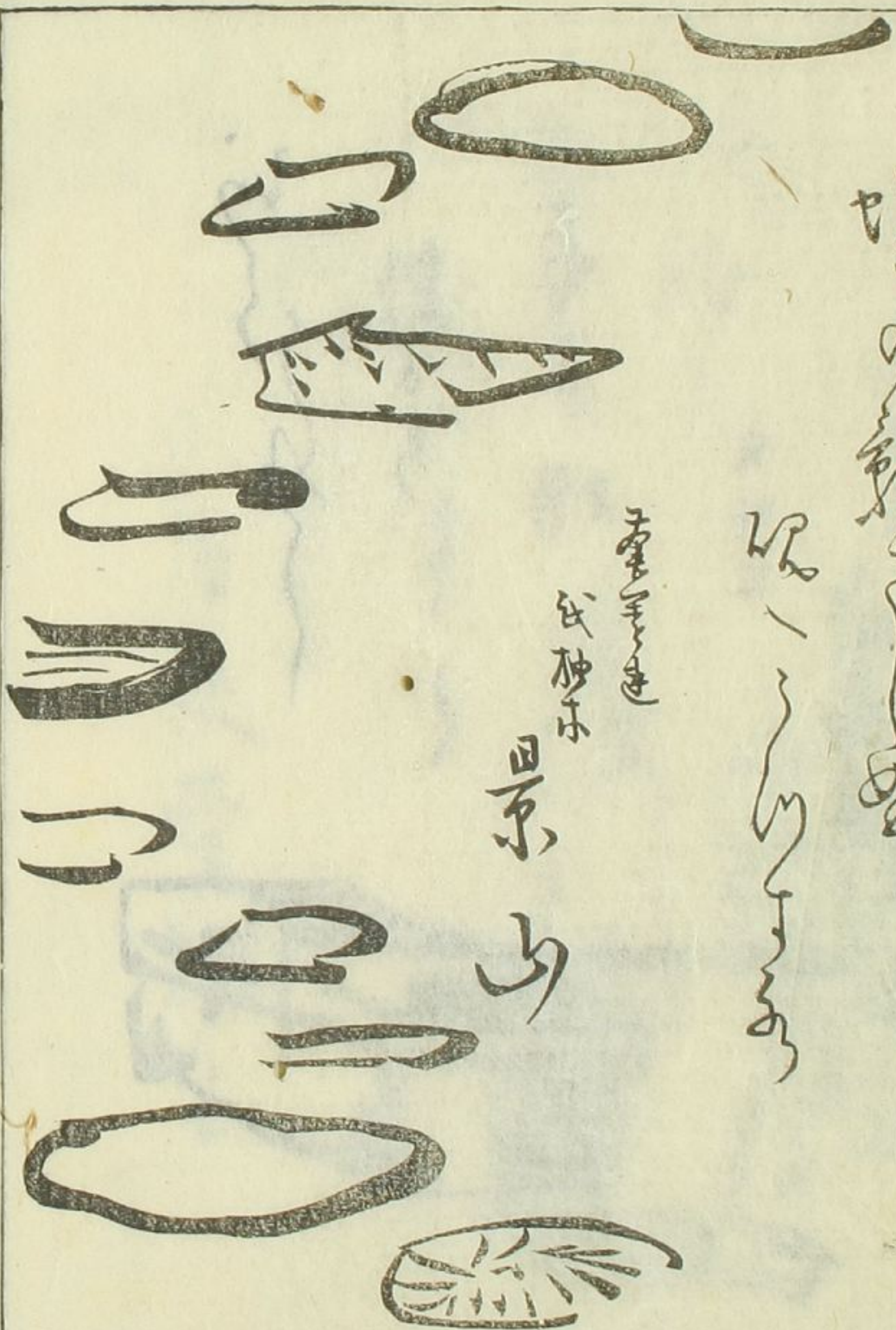
蝶の歌

ひらひら

五葉

氏神

景山



正面より

梅子

甲府 寄松

新なる

くまの

立

喜柳

梅子 楊梅 月と梅

全横

高枝の音

甲府 松本

梅田

高枝

~~~~~

高枝の音

~~~~~

全株丹

高枝

~~~~~

~~~~~

全株丹

~~~~~

湖子



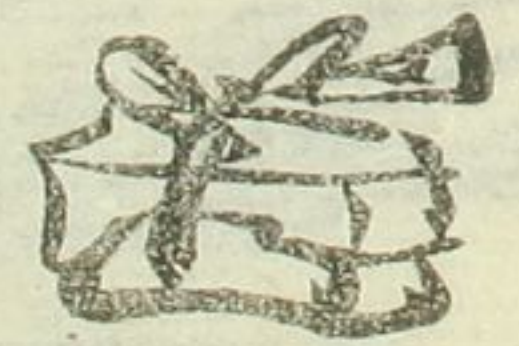
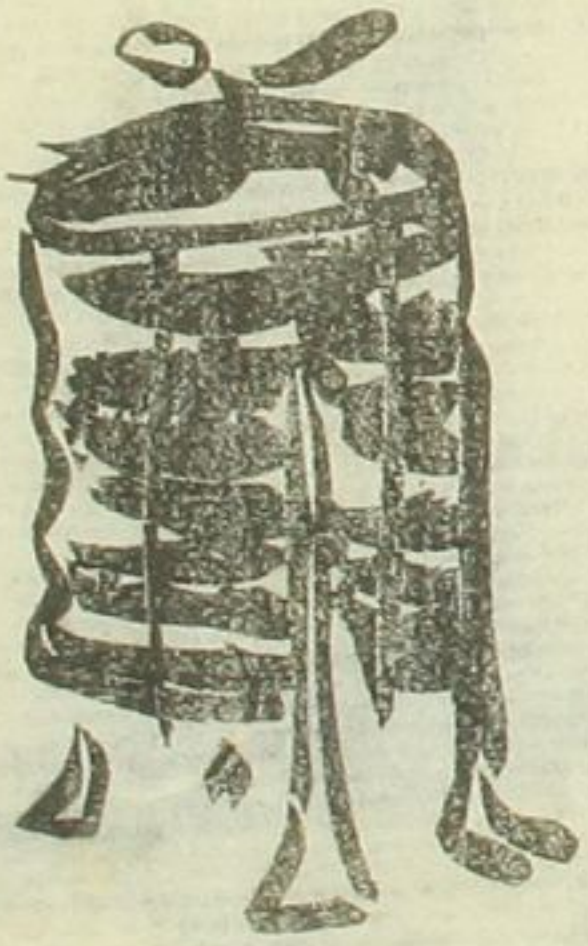
う 杖の上

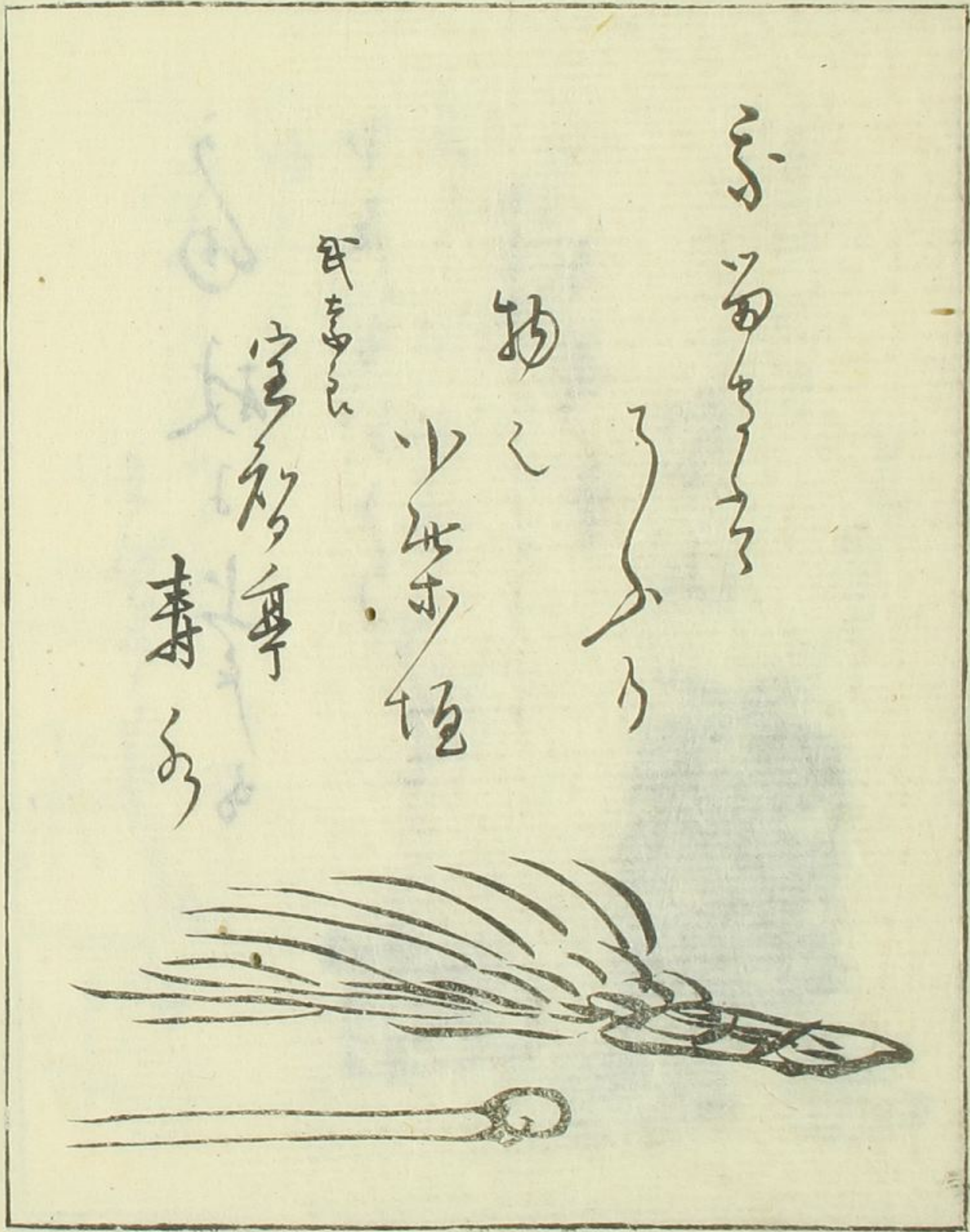
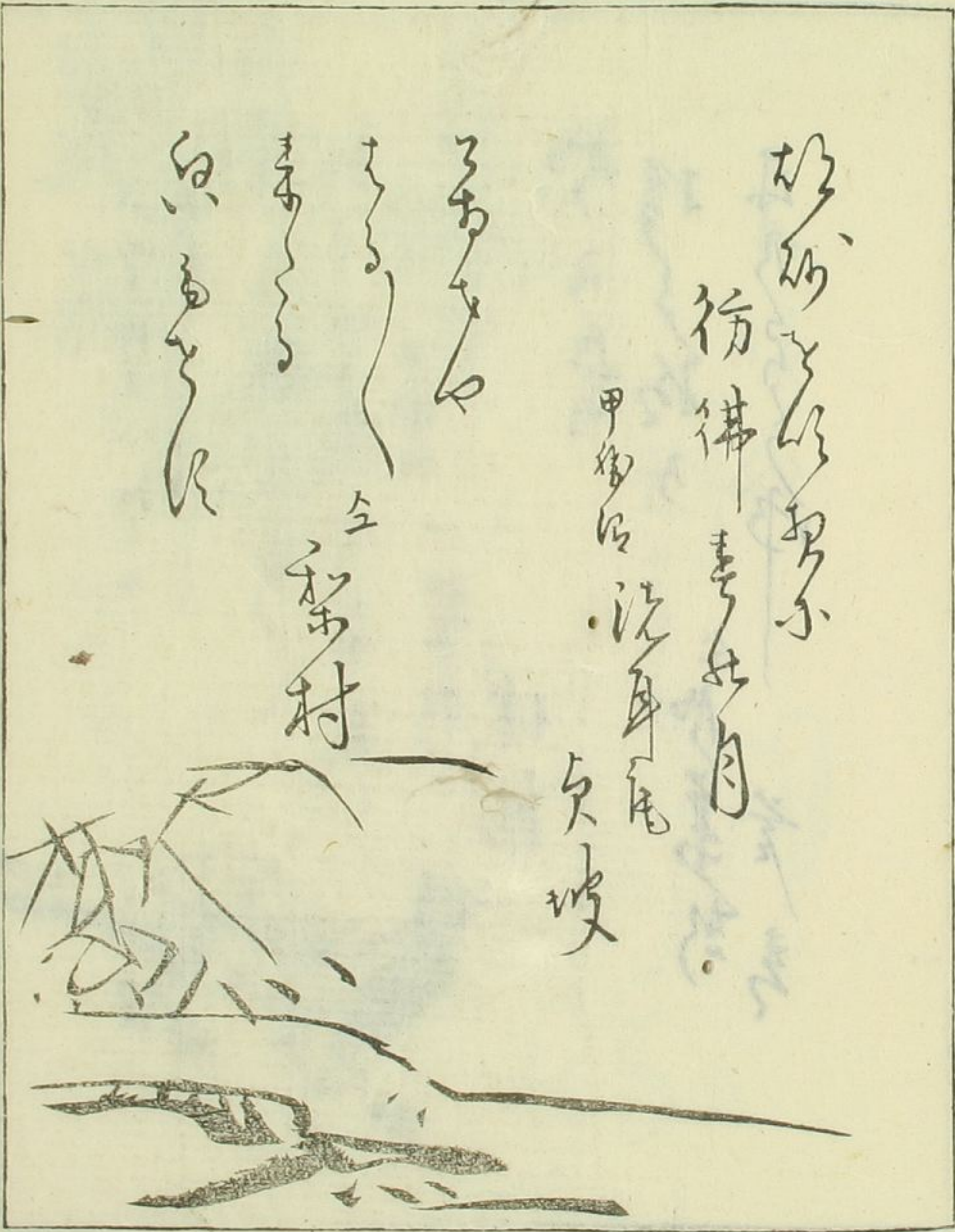
~~~~~

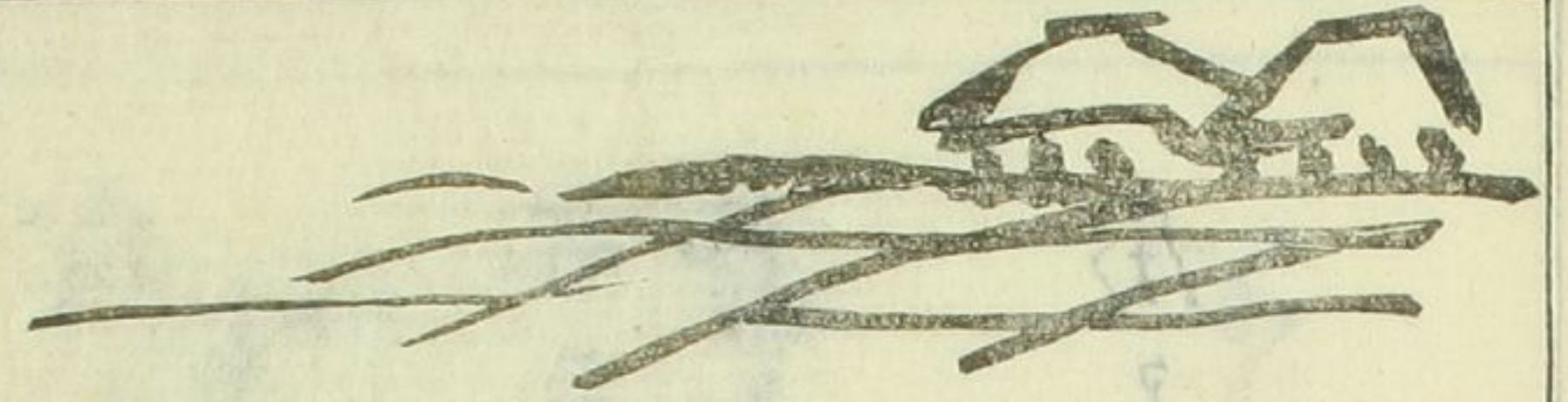
武田

高枝

智山







武吉下
 小澤
 梅
 山
 林
 花
 全
 柳
 川

武吉下
 千
 梅
 山
 林
 花
 全
 柳
 川



後夜やまは

~~~~~ 斤 於 戸

奇 奇 破 山 溪

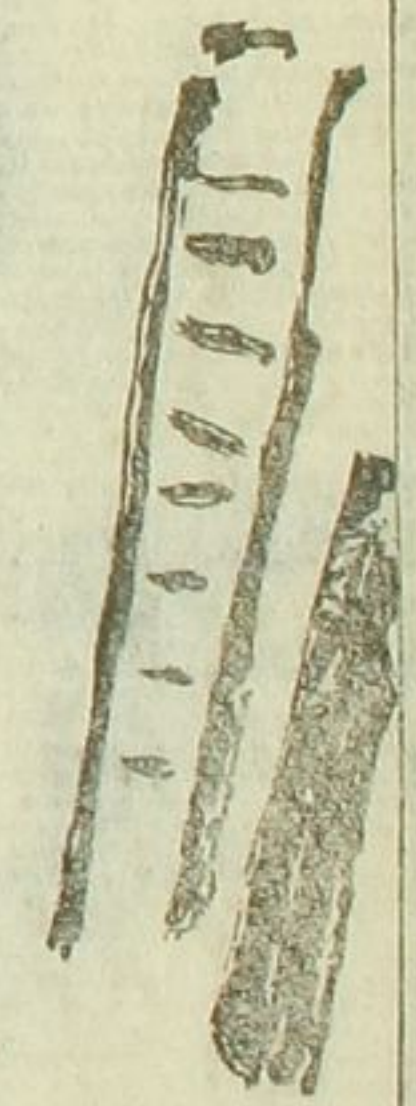
此の~~~~~ 丈 丈

~~~~~ 喜 喜 喜

吉 吉 吉 吉 川

~~~~~ 山 山 山 山 山

甲 甲 田 土 壘 田



半一

~~~~~ 山 山 山

~~~~~ 山 山 山

吉 吉 吉 巴 静

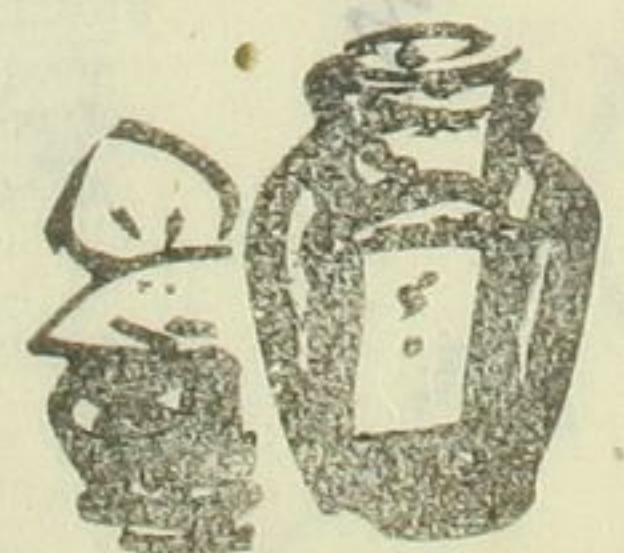
~~~~~ 山 山 山

~~~~~ 山 山 山 物 浦

~~~~~ 山 山 山

~~~~~ 山 山 山 吉 吉 吉

~~~~~ 山 山 山 山 川



半一

位とて

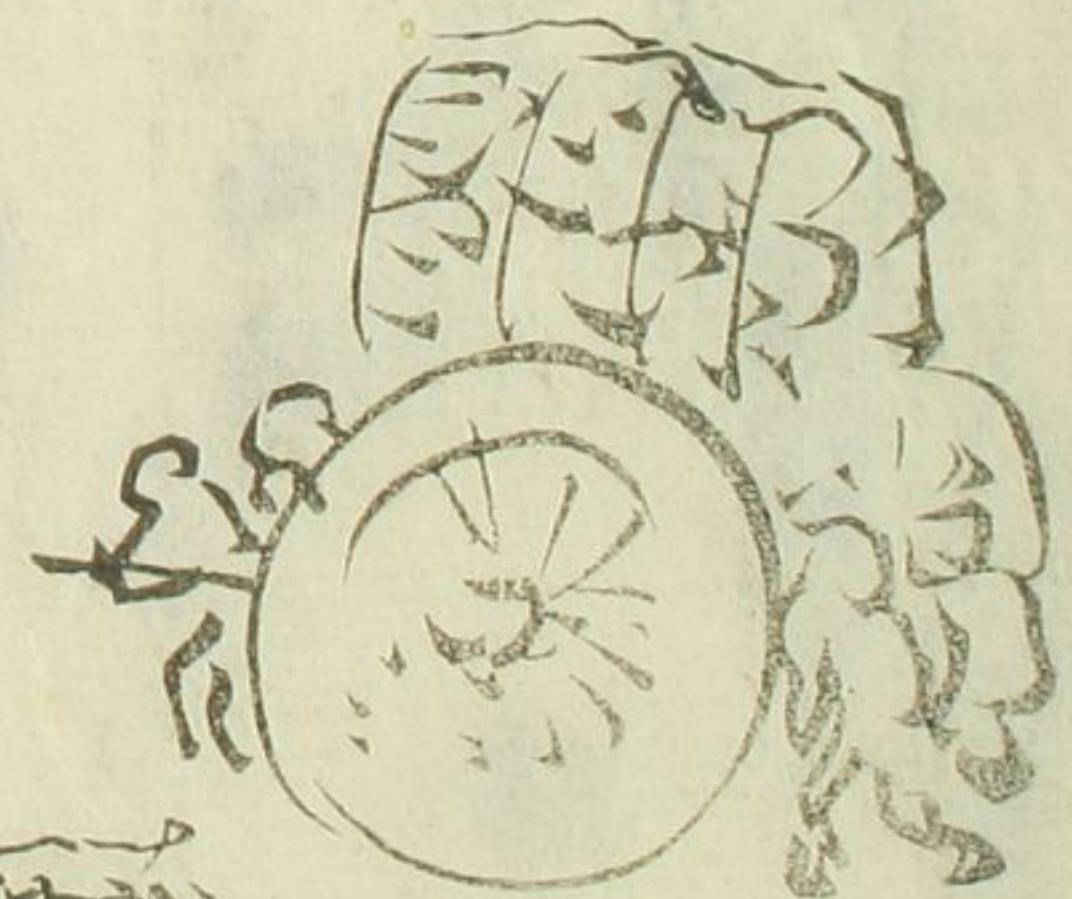
~~~~~

~~~~~

~~~~~

上毛野田

忘言堂得意



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~





何れも八里の故  
後うらやまの子

或る日 玉の空

月

あやめ

春乃るる

全ち影

仙菓

そら月を

さよふりぬるさきさきさき

上る空

山

はたけ

藤子もさう 舟也

杖とさきさき

遠慮ねえ

さきさき

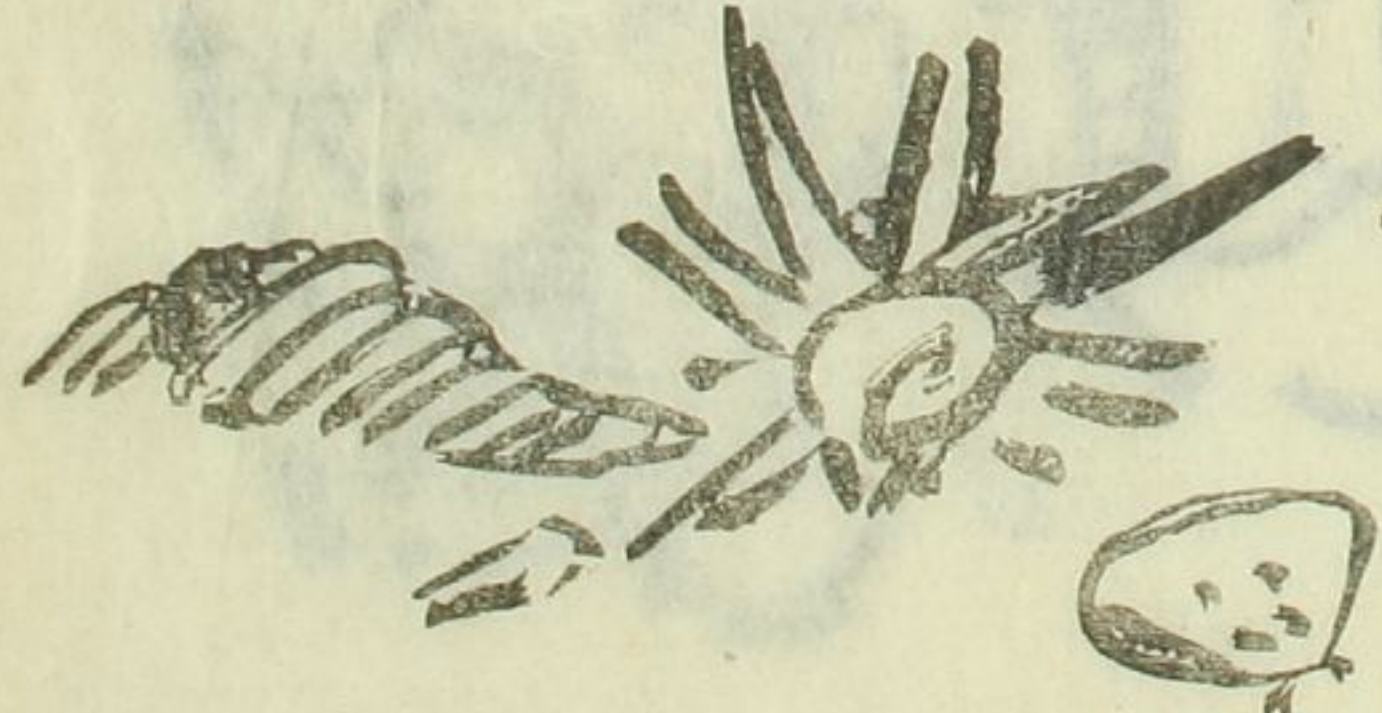
枕通

能ふや

梅のさきさきを

かんさきさき

如出空 玉の空





遠居杉連

布袋菴

友見

六十のまを  
送る

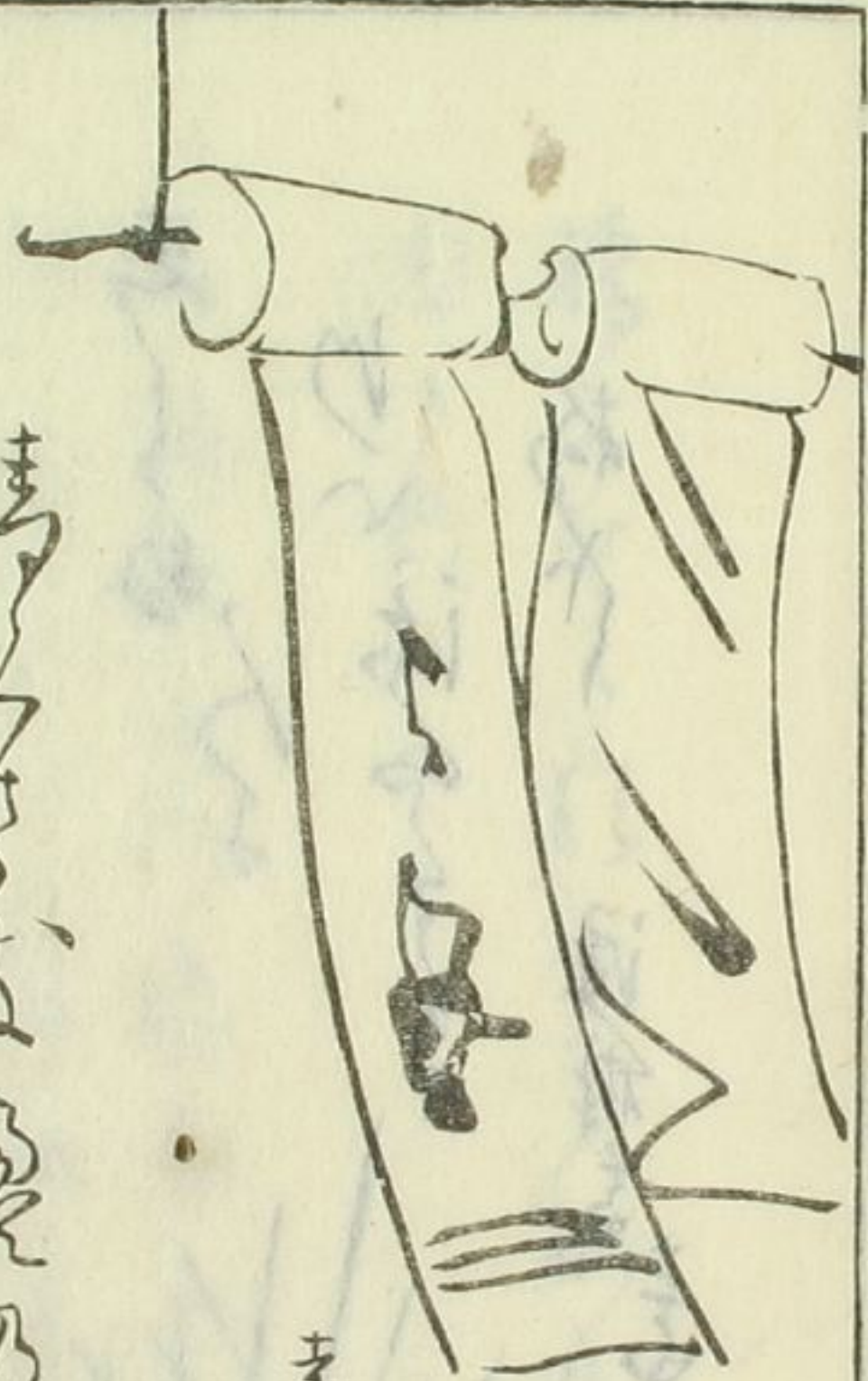
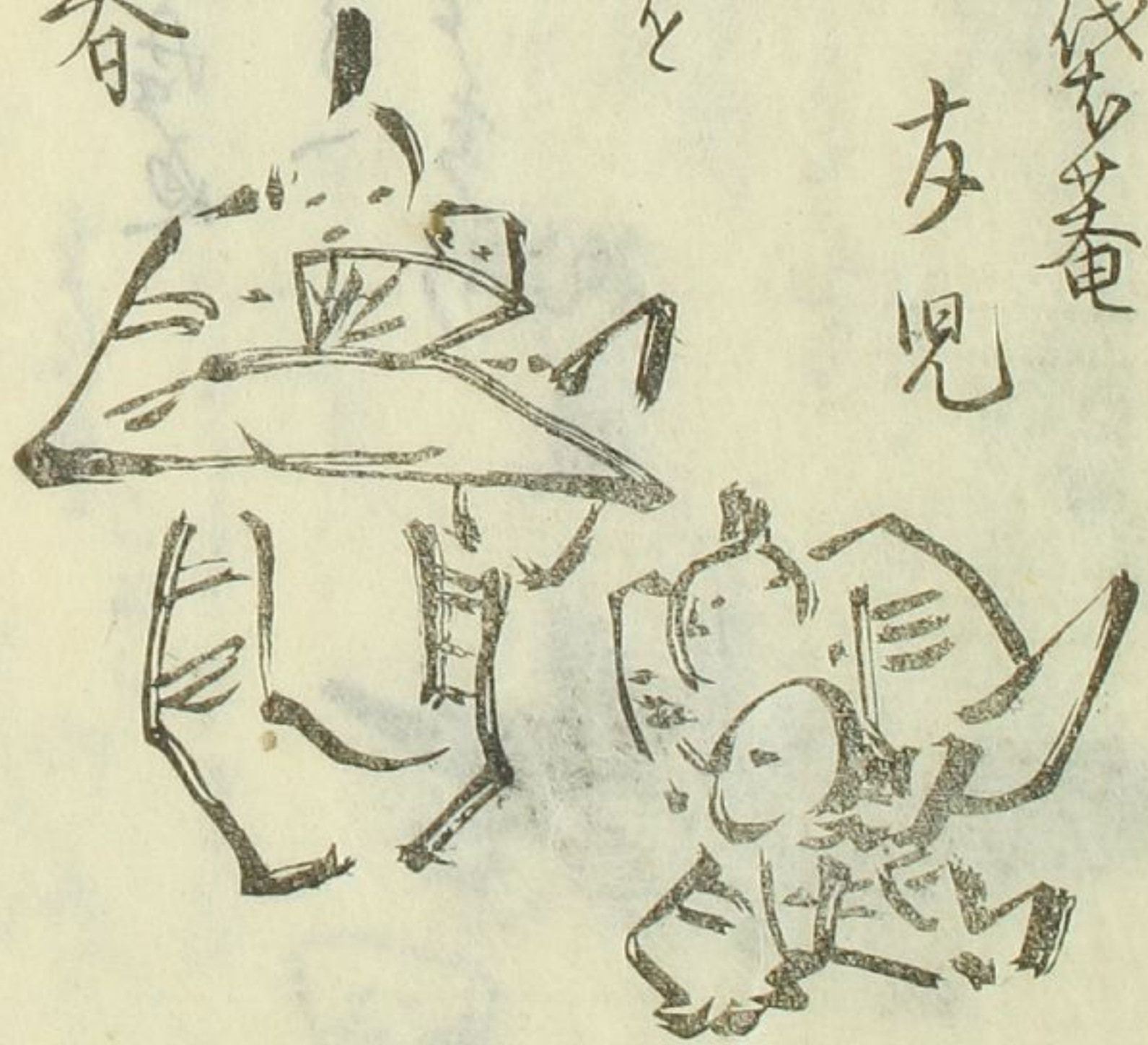
移りぬを

杉子

吹くせ

て

充る春



遠居杉連

玉の橋

分名

ま〜〜〜ま〜〜

よやまの歌

ま〜〜〜ま〜〜

杉舟

ま〜〜〜ま〜〜

梅呂



のくまや松子既乃 松子既乃  
 阿久きくも 松子既乃  
 松子

つねをくま 松子既乃  
 うまきくも 松子既乃  
 松子

志 松子既乃  
 阿久 松子既乃  
 松子



松子 松子既乃  
 松子 松子既乃  
 松子

橋をせく松 松子既乃  
 白松 松子既乃  
 松子

白松 松子既乃  
 松子 松子既乃  
 松子

先照 松子既乃  
 松子 松子既乃  
 松子

松子

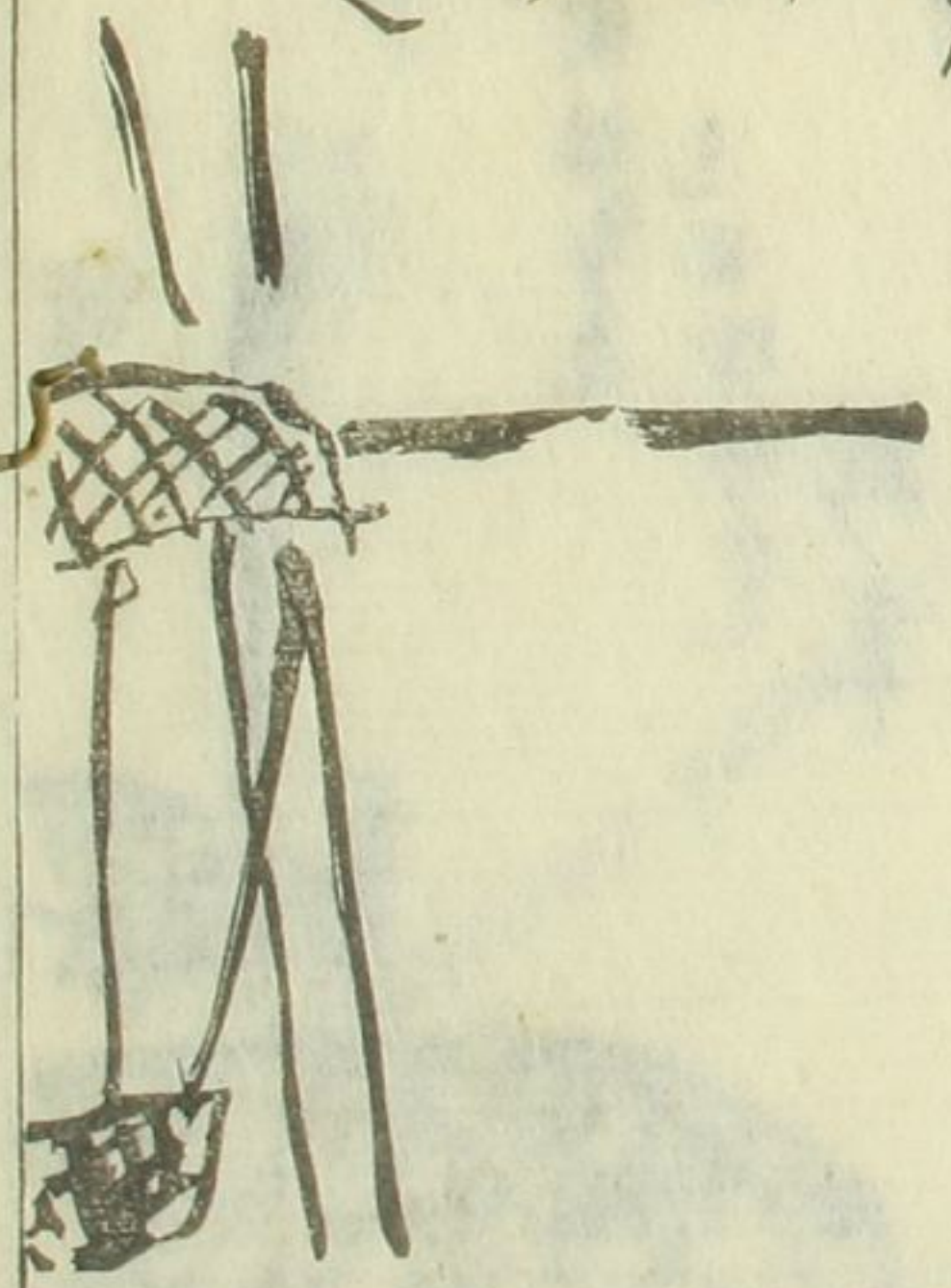









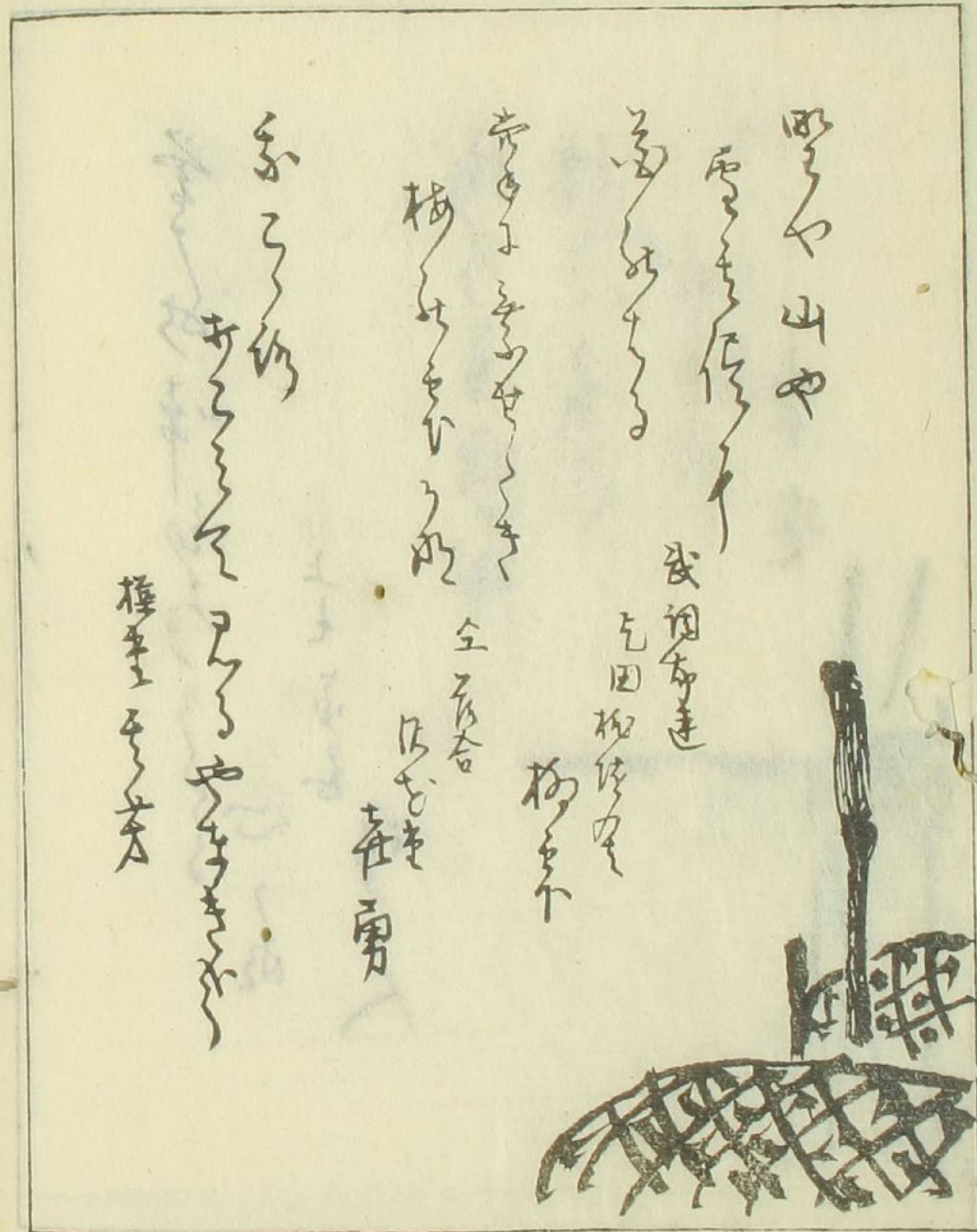
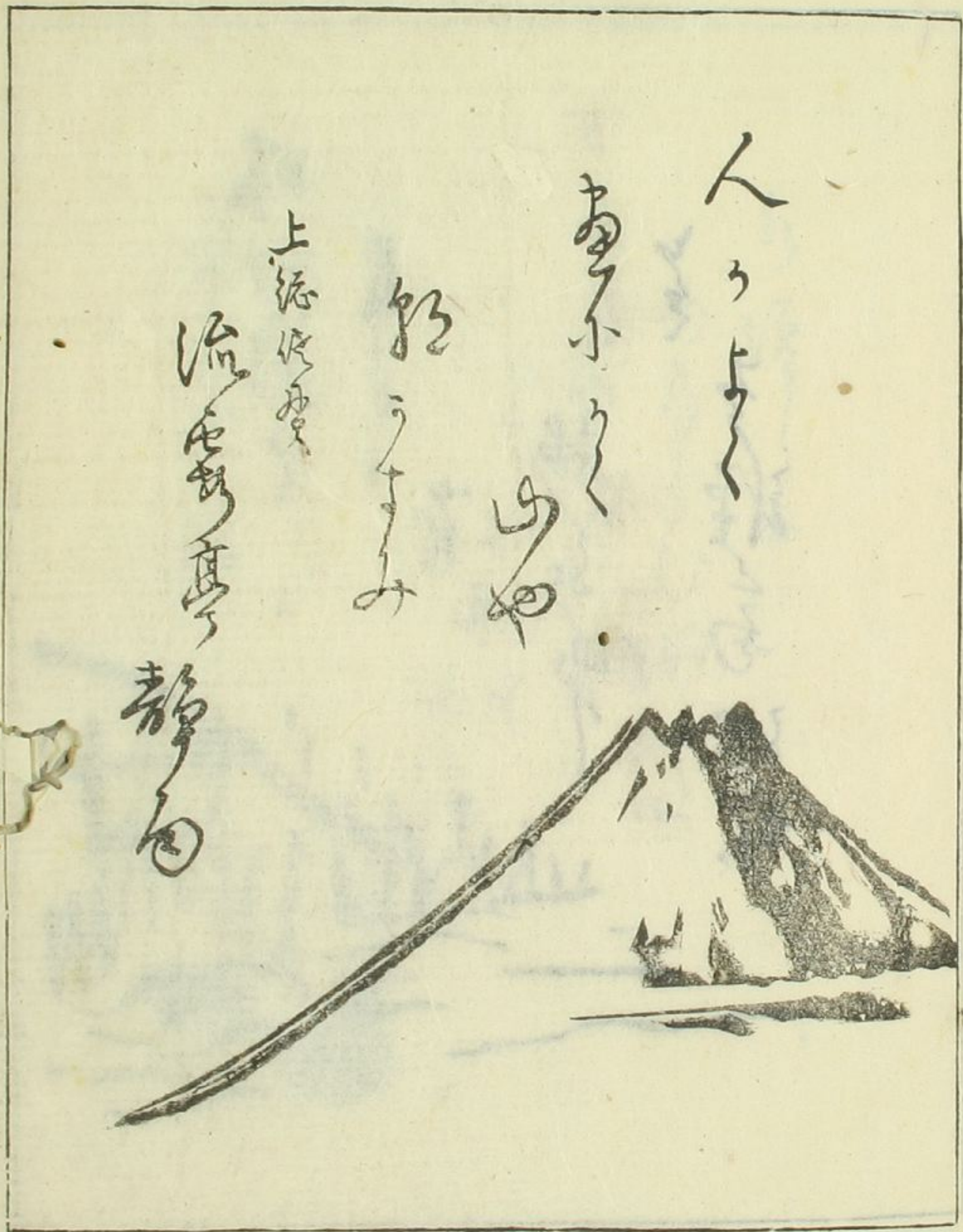
常々如啼もろろ  
 心へ  
 上毛富屋  
 晴人  
 海へ音増ね  
 深へ音増ね  
 主  
 西針  
 五巻



海の音  
 梅  
 上毛富屋  
 南林  
 増明  
 子  
 立  
 中平









水増しぬ  
 つらつら  
 少烟  
 出流  
 車牛  
 田中村



好  
 梅  
 五穀  
 河











不惑と教らる  
幸の幸とて延く



所へんを向く  
物に何さか

武田重隆  
枕草子丸人

以能く  
物に何さか  
桂山

市町に

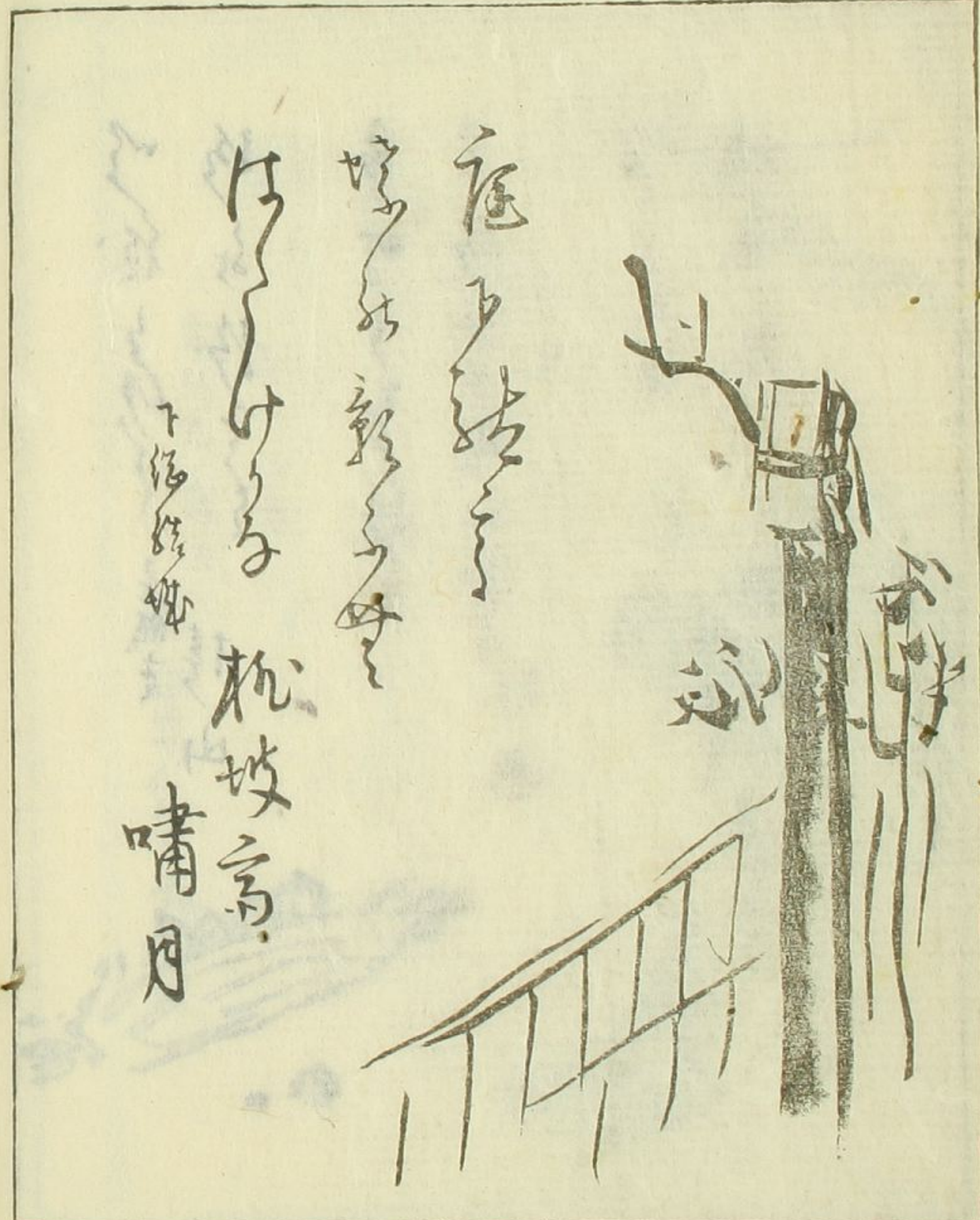
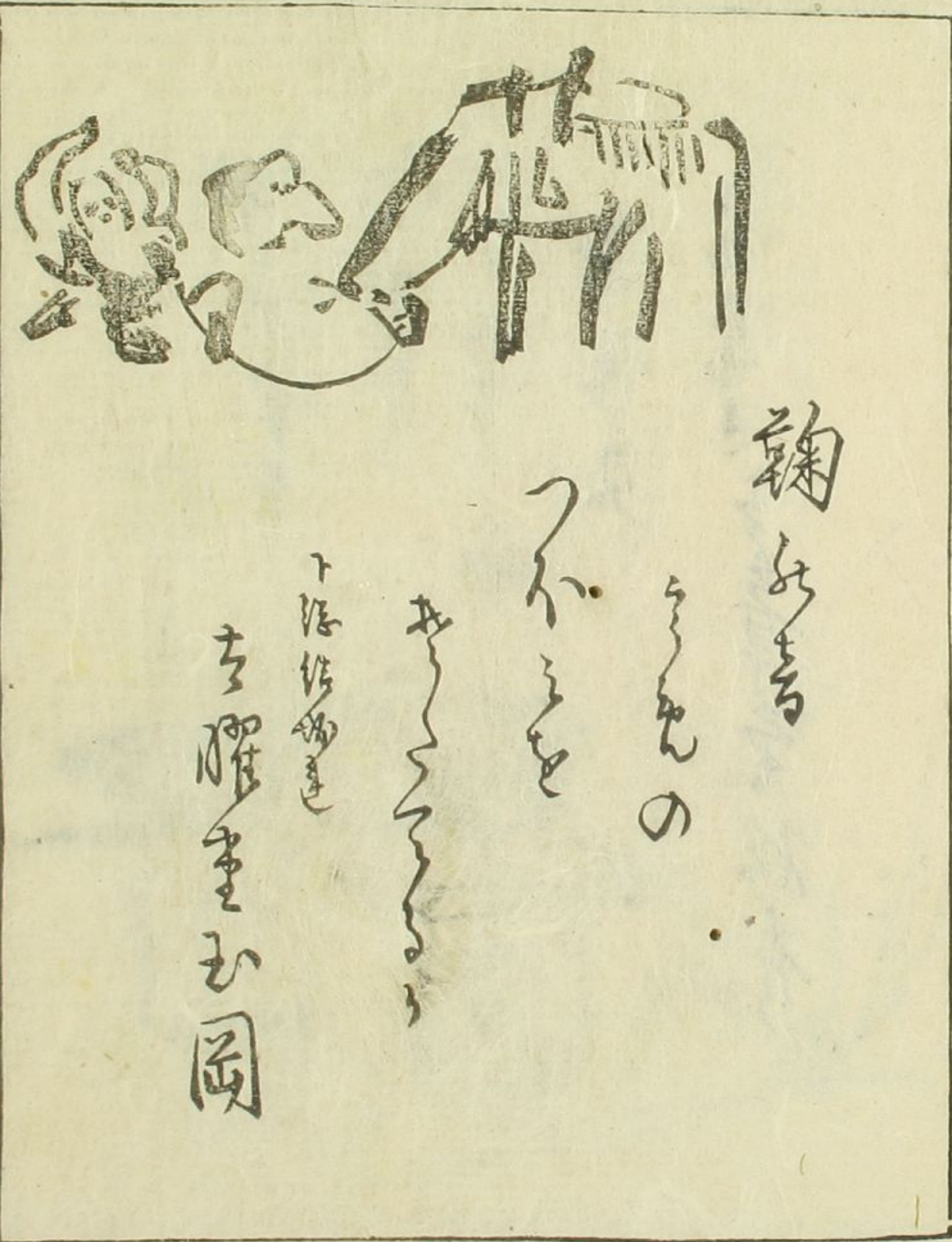
男坊に

以能く

梅に  
世  
戸















晴波のやうに

——— 静の心

とほほほ 九つとふゆ

まじりや

結句のあつちのあつち

おのれ

まじりや

細きうろたへ

全在

酒の酔ひ

ゆ

南御手連

武蔵守

流石

梅之

山をのりてや春の

全在 柳園

あつち

結句のあつち

全在

松江

あつち



六十四



清心よき

全

きや 卯の 龍 三葉 條

清き 心よき

心よき 心よき

全

月

江



五

きよき 清き 心よき

全

卯人

心よき 心よき

全

卯月

心よき 心よき

全

心よき 心よき

南

卯月

心よき 心よき

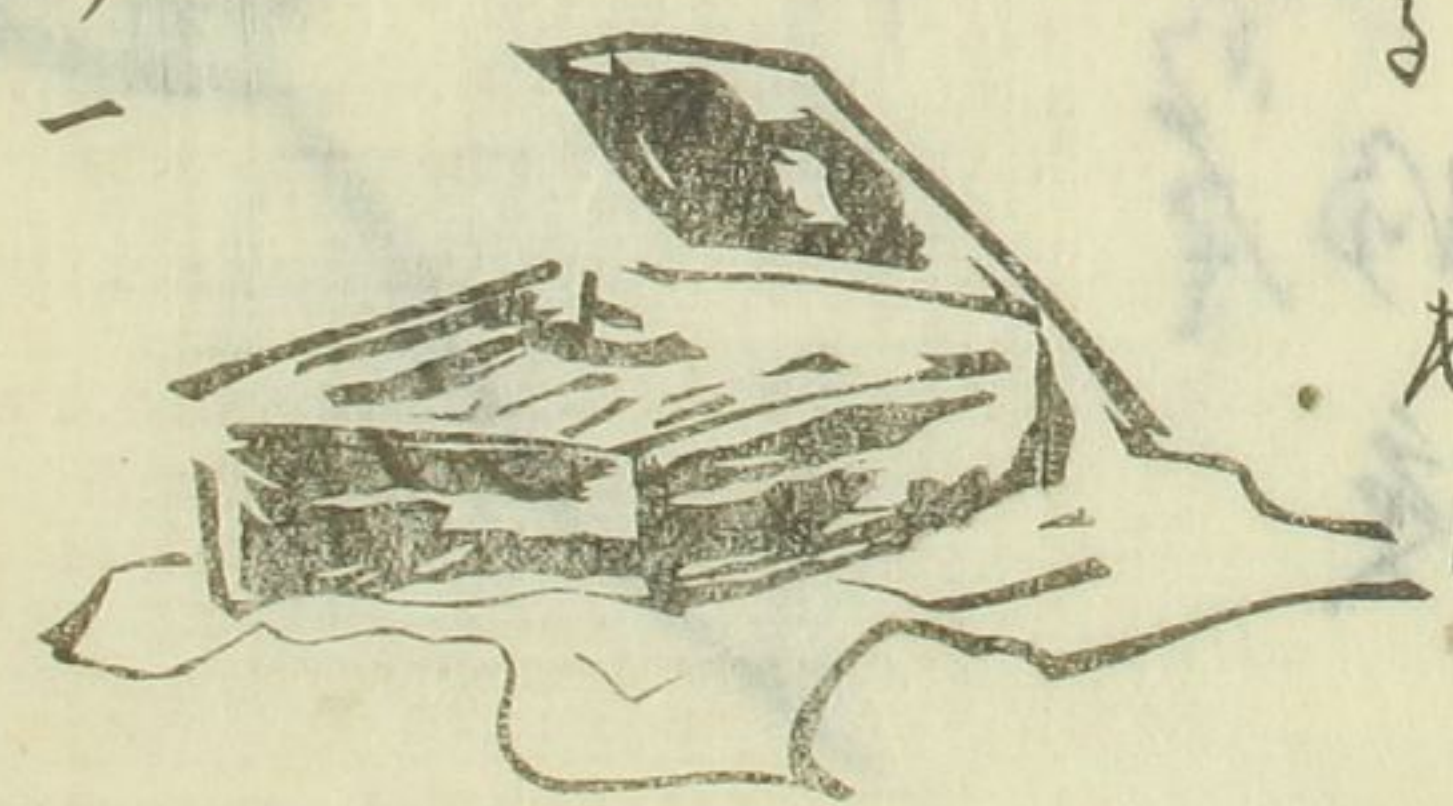
心よき 心よき

心よき 心よき

全

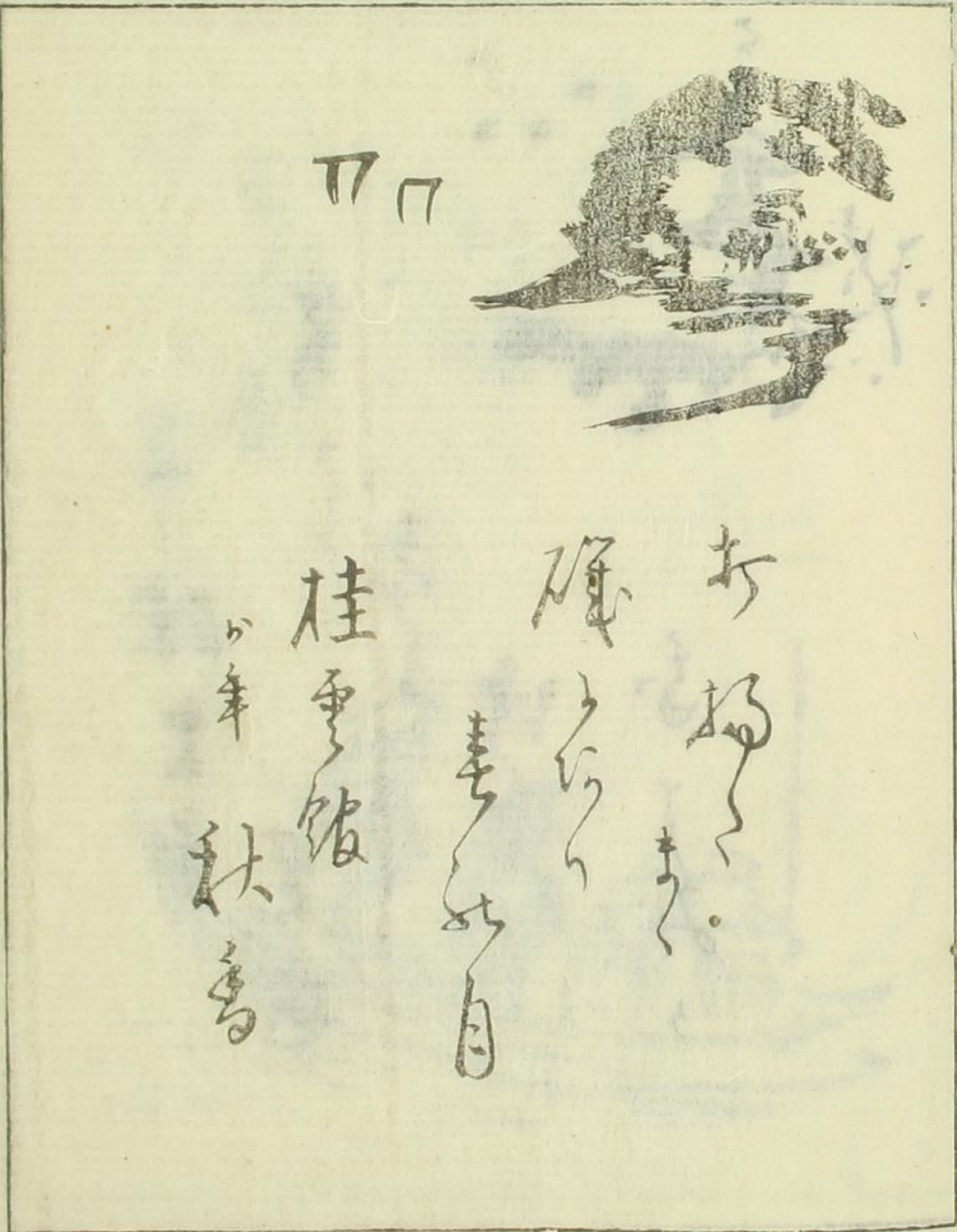
卯月

一

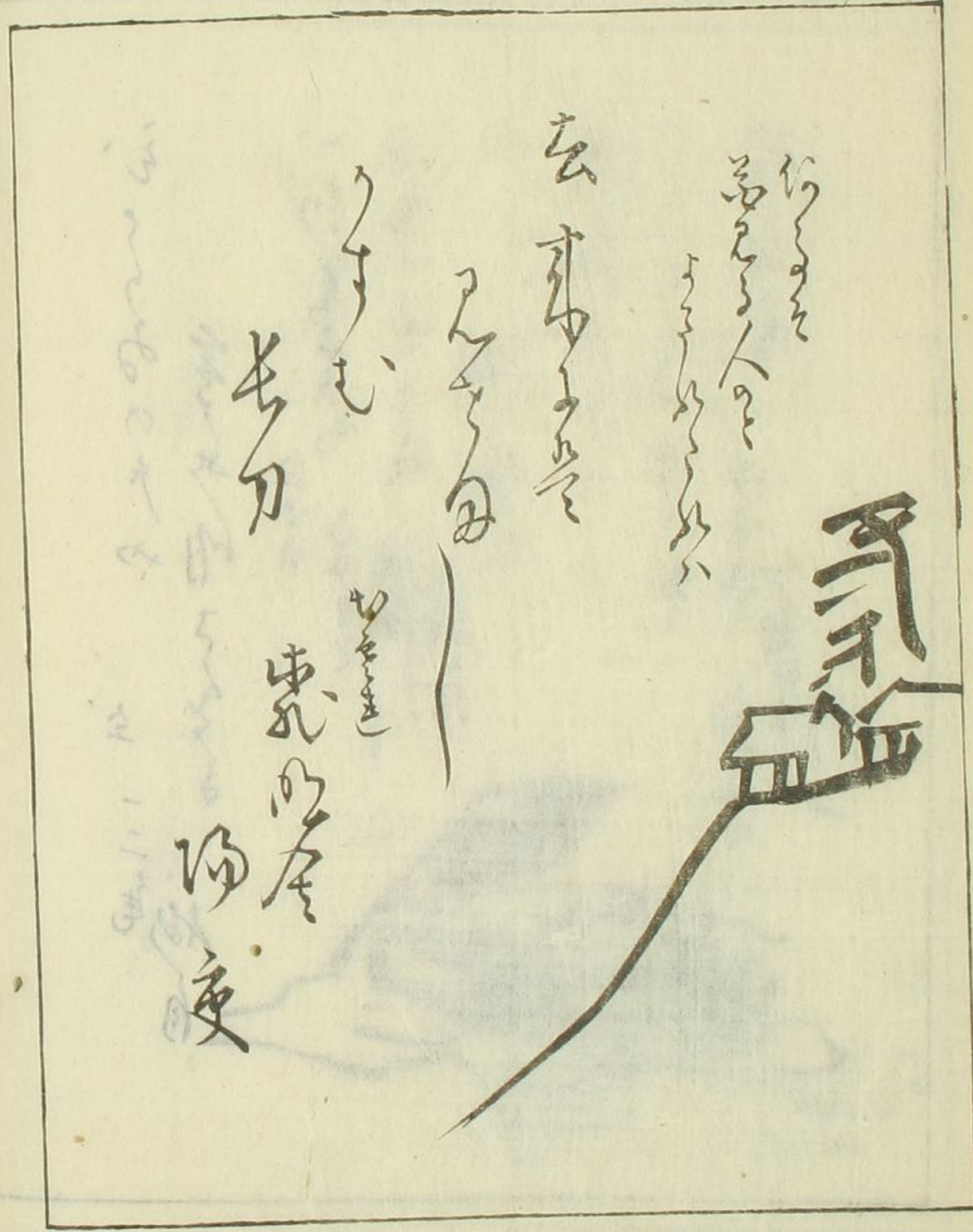


九十六





桂重館  
 秋香  
 石橋  
 確  
 幸如自



長刀  
 東の空  
 海  
 雲  
 己  
 山







梅  
三  
梓  
木

山  
岳  
徳  
考  
安



梅  
世  
改

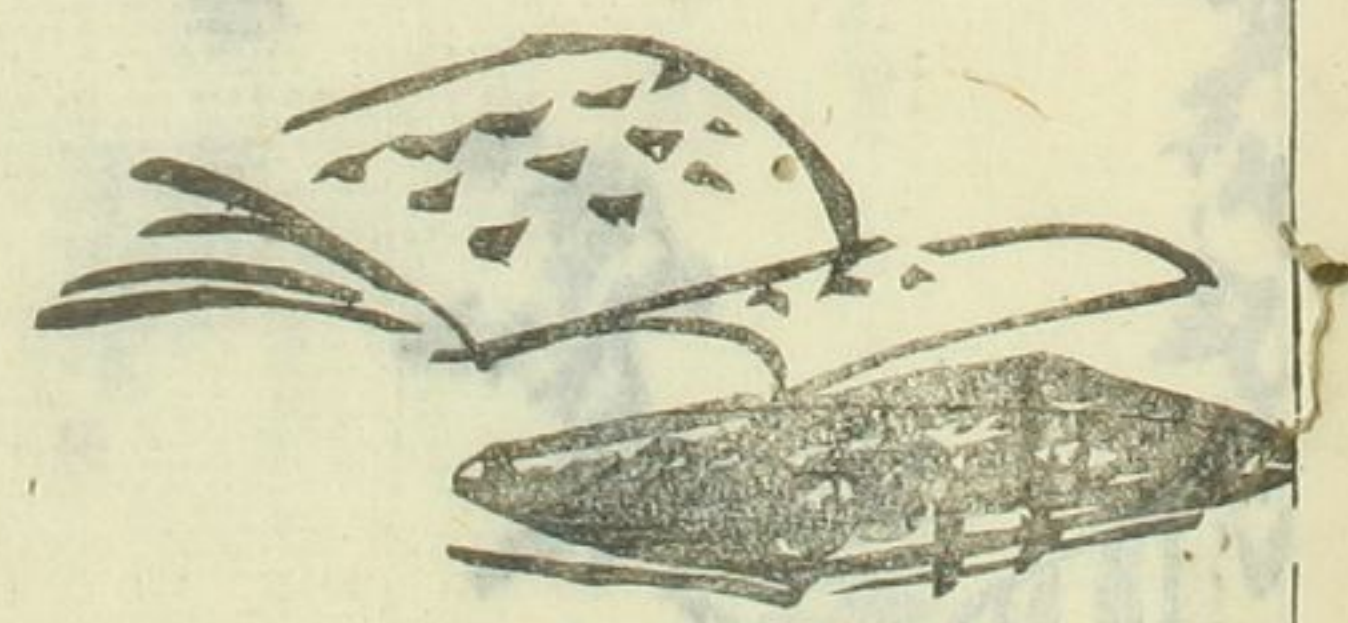
桂  
林  
徳  
考  
安

金  
屏  
乃  
初  
也  
之  
の

多  
如  
新  
桂  
白

今  
朝  
幸  
也

此  
之  
也  
計  
之  
力  
下  
福  
龜





傘はあふふ袍ふ

虎唄

二兄の仰り

松屋

志

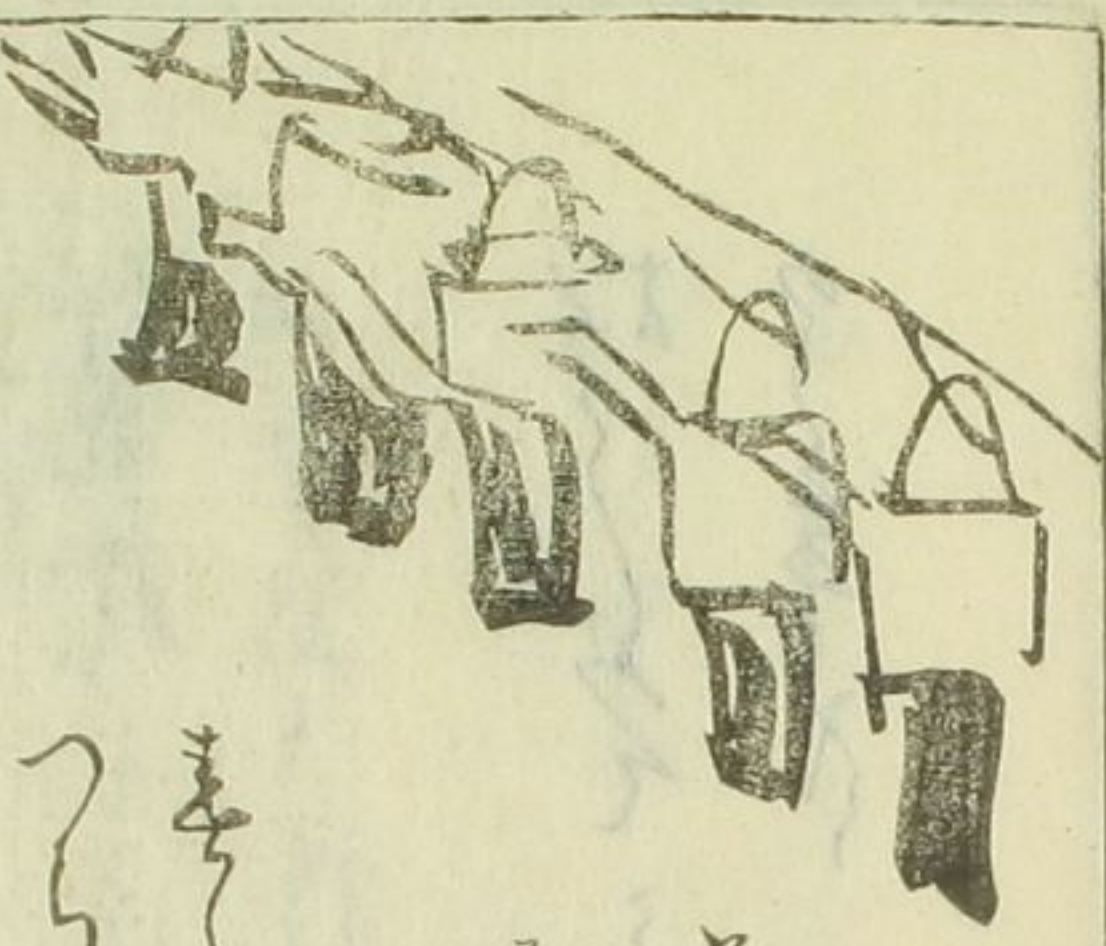
りまふ

銀

人も物も

布

物



さあ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

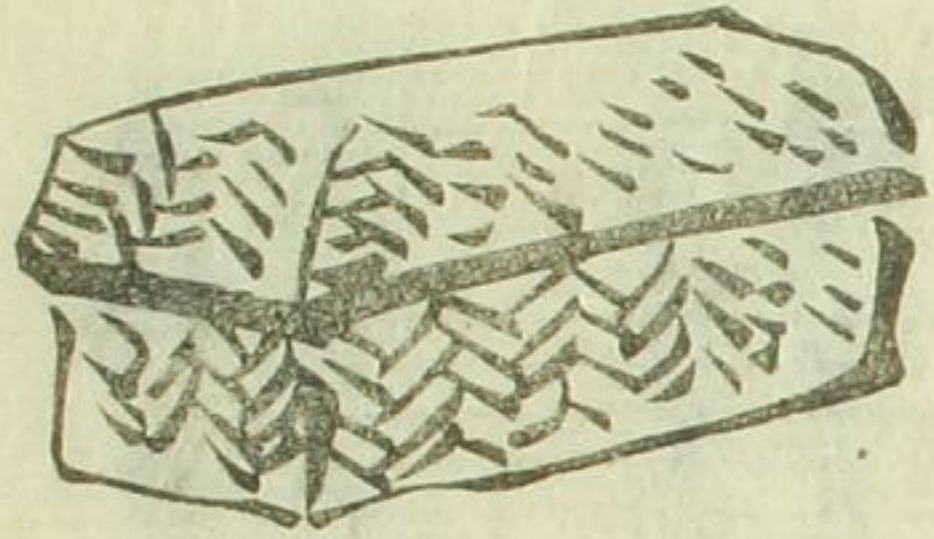
あ

あ

あ

あ





子のあしめらやんしねき  
ひしり

そのまうしり

まじり  
常松

あしめ

あしめ

あしめ

あしめ

まじり

あしめ

あしめ

あしめ

あしめ

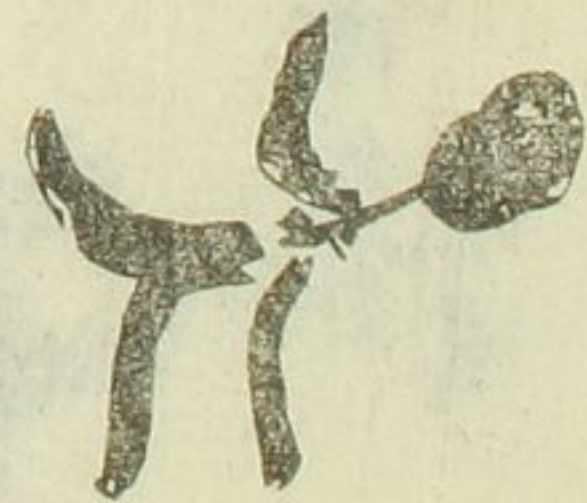


あしめ

あしめ

あしめ

あしめ



あしめ  
あしめ  
あしめ  
あしめ



白梅のつゆき

玉の黄松中

山のつゆき

事殿下

物つゆき

山えき松月



つゆき

松のつゆき

松のつゆき

松のつゆき



つゆき

松のつゆき

松のつゆき

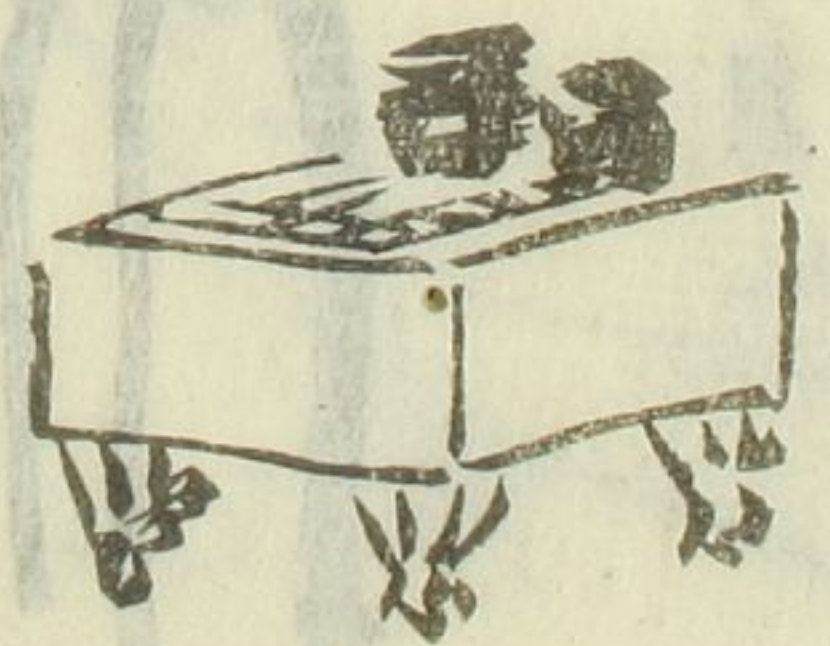


空の如くあふくさるる  
 居や喜ぶ此の  
好子前達 二女  
好子  
 子に似たり  
 心ゆくやうに  
梅枝  
 心ゆくやうに  
 心ゆくやうに



影を帯びる白  
好子前達 二女  
 心ゆくやうに  
 心ゆくやうに  
 心ゆくやうに  
 心ゆくやうに  
梅枝

錦川









とら  
とら  
不二のり

枕草子  
白解



とら  
とら  
とら

梅  
手  
柳  
川

とら  
とら  
とら

とら



おは  
おは

静  
風

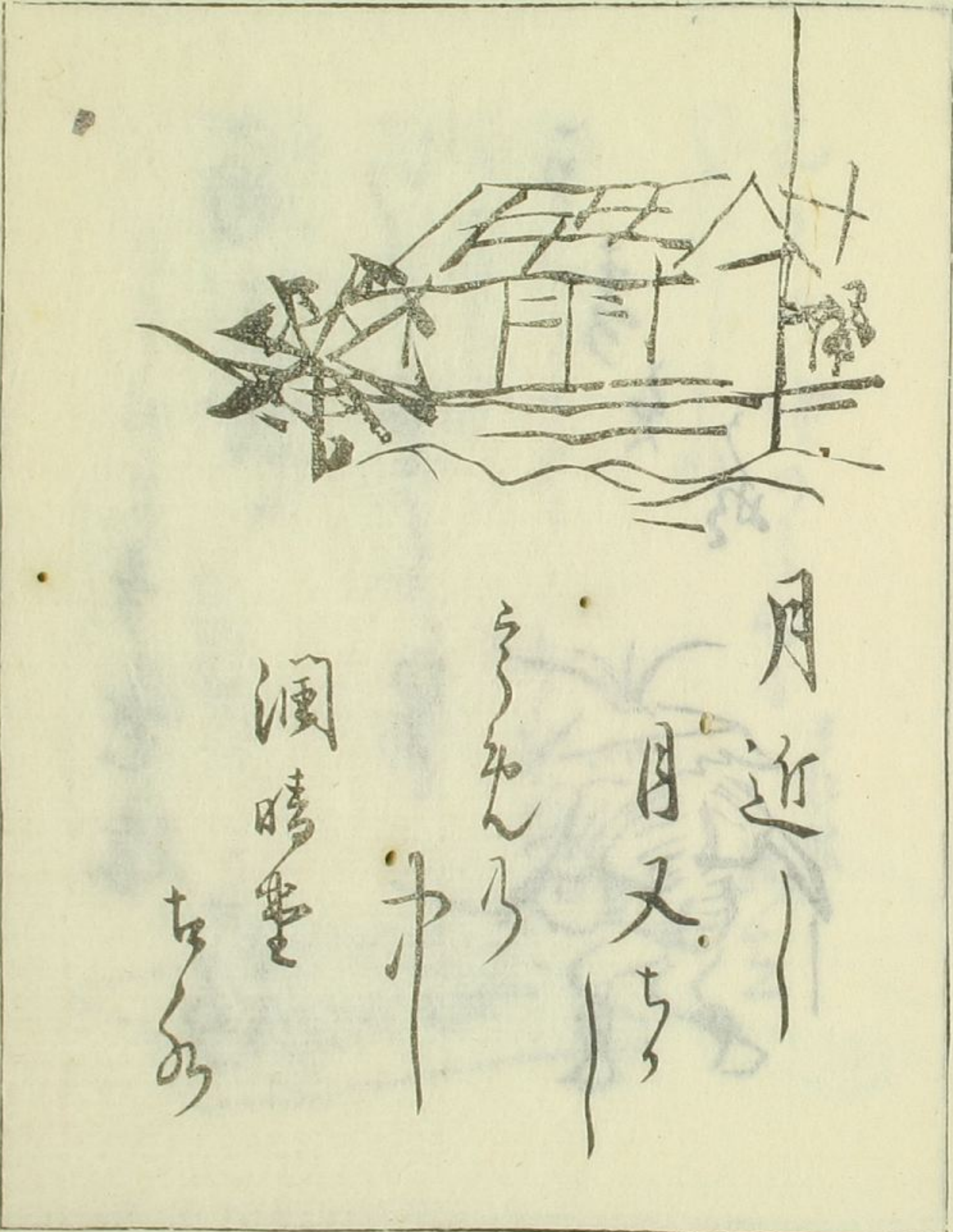
とら  
とら  
とら

とら  
とら  
とら









菊園組

心  
 一  
 守  
 中  
 子  
 子  
 子























百三

花より梅也

しげきく曲々枝

を金草一松

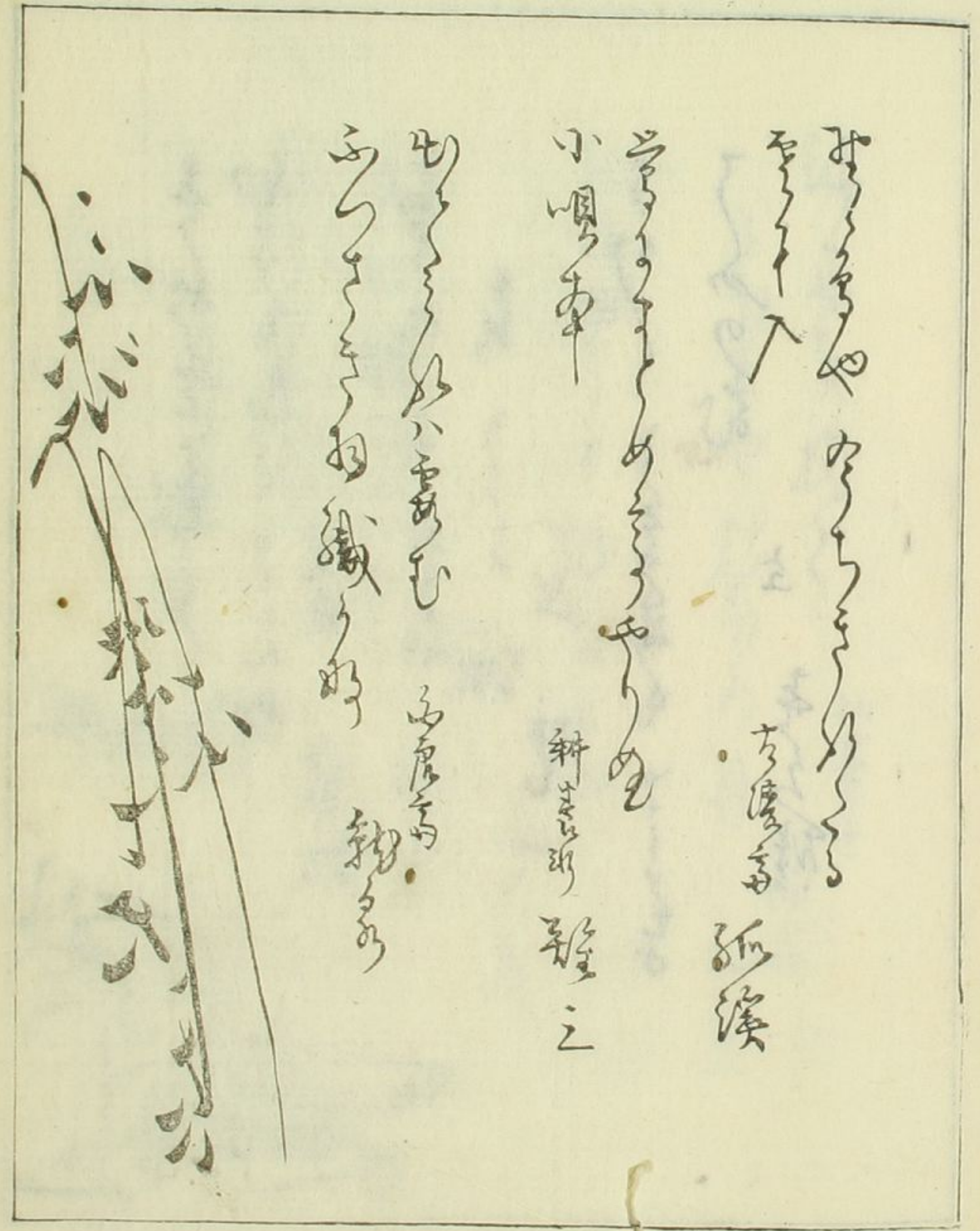
春の空

~~~~~の

~~~~~

布らん馬

谷吏



~~~~~

~~~~~入

~~~~~

孤溪

~~~~~

小唄

~~~~~

野之

~~~~~

~~~~~

~~~~~



百三



まじりてをきりて  
まじりてをきりて

武政 栄松

まじりてをきりて

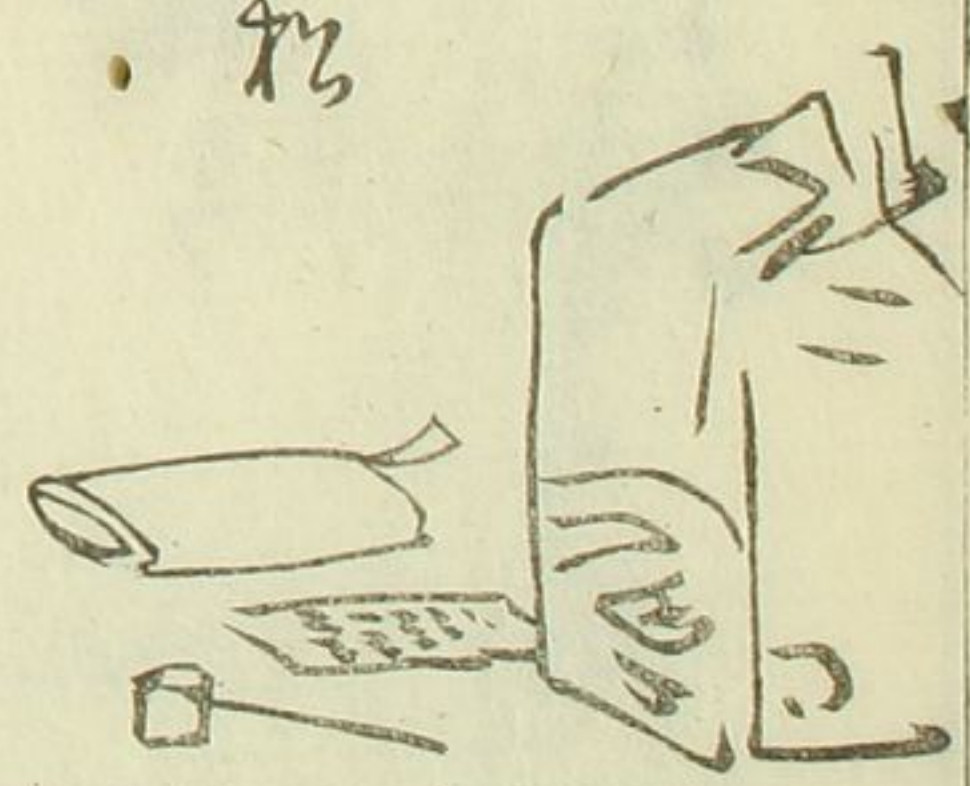
まじりてをきりて

立 せり

まじりてをきりて

まじりてをきりて

立 せり



まじりてをきりて  
まじりてをきりて  
まじりてをきりて

仙臺

柳備高

初更

まじりてをきりて

柳備高

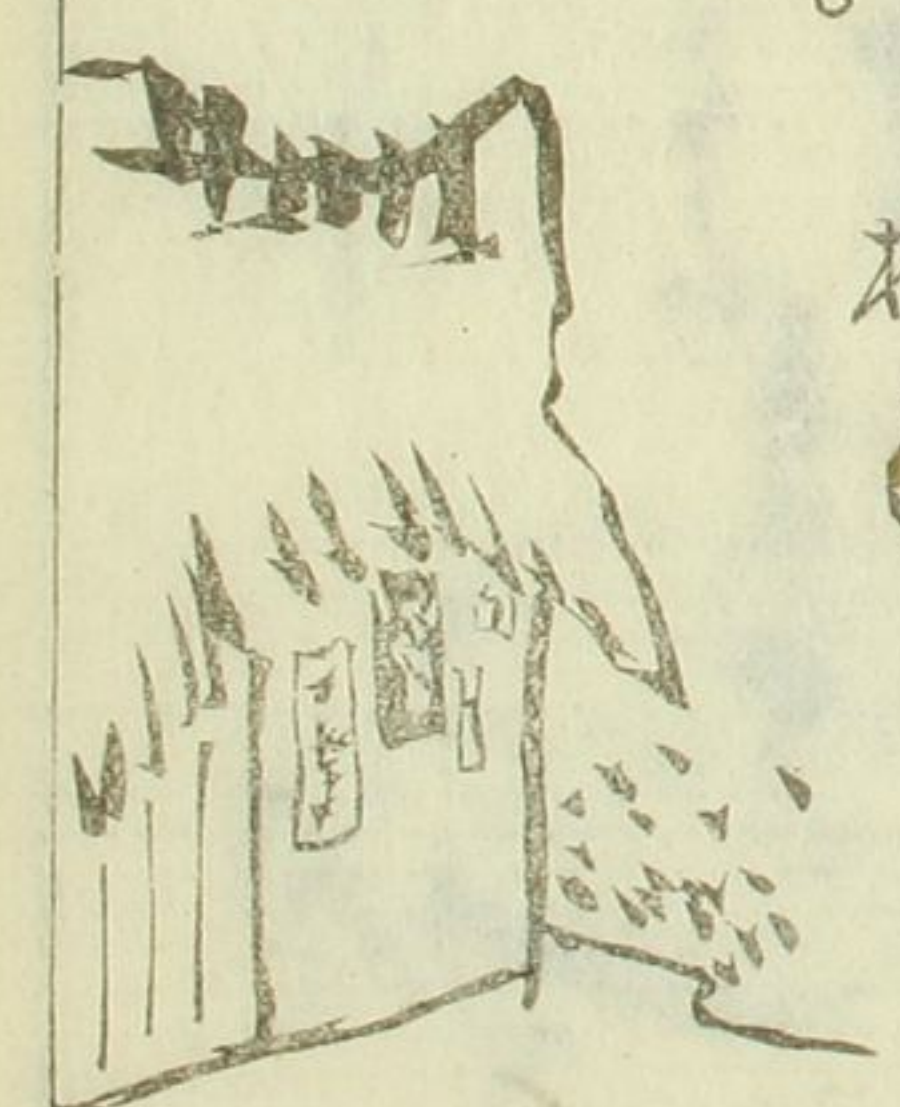
高の妻

まじりてをきりて

柳系

まじりてをきりて

まじりてをきりて



柳系





新く漢を承るる  
仙臺に 東の  
松のまはるる

仙臺の松を  
佳木  
松のまはるる

まはるる  
東  
松のまはるる

仙臺に  
好里  
松のまはるる

二重松を  
承るる

ヤサ子

え新や  
承るる

松のまはるる



仙臺に  
好里  
松のまはるる  
二重松を  
承るる  
ヤサ子  
え新や  
承るる  
松のまはるる



仙居  
 吐笑  
 井  
 下  
 東  
 方  
 乃  
 考  
 山  
 回  
 每  
 之  
 井

仙居  
 映  
 花  
 車  
 柳  
 曉  
 柳  
 中  
 柳  
 心  
 去

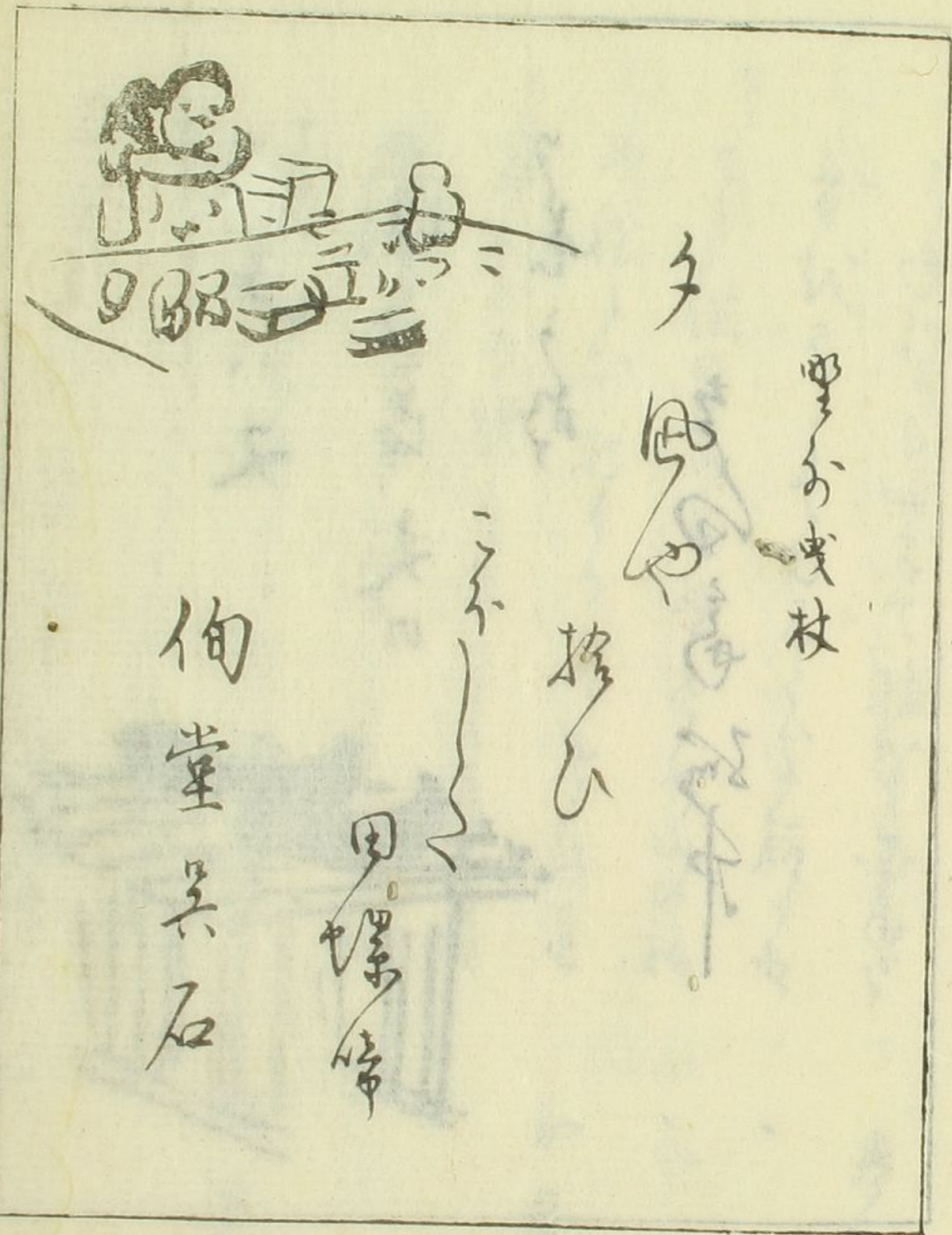






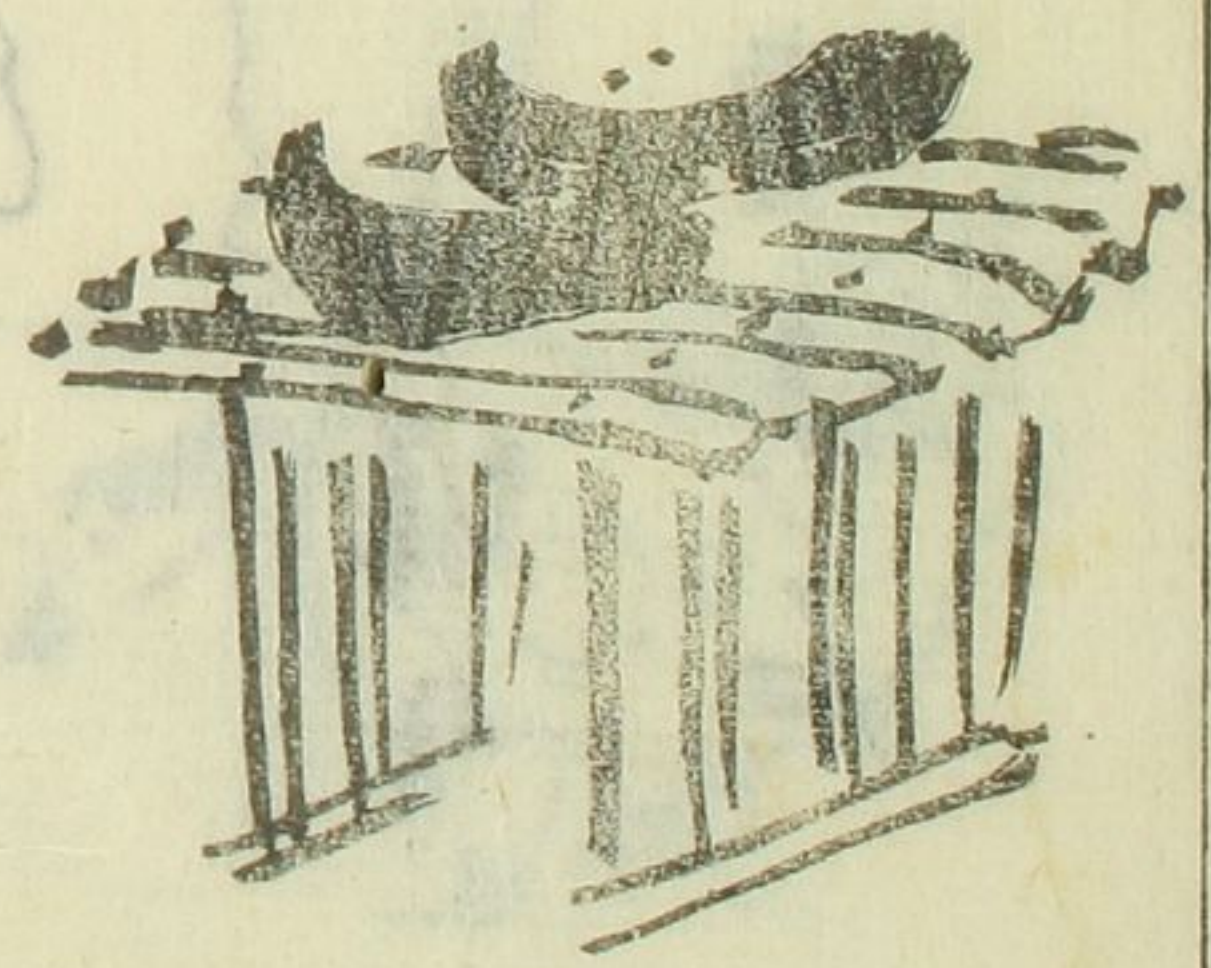








二又  
 二圃りき甲丈の  
 りもうぬ



日向高野中

こころのきりぎりすの持主のまゝ  
 多岐のうらみもいふかた  
 といふ供のまゝ昔のまゝ山に  
 のれまゝおろし  
 高野のまゝ  
 掃拂やちまひたし  
 空のまゝ  
 籠のまゝ  
 高野のまゝ  
 旭  
 知常











つとむらひの心もさかたに  
えりぬれぬもさかたに 海らぬ 全 志笑  
妻のぬれ根はけりぬれぬ  
涙もあふぬらぬ 涙の涙  
えりぬれぬもさかたに 全 山松  
りぬれぬの心もさかたに 全  
海らの松柳の心もさかたに  
えりぬれぬもさかたに 全 梅枝  
あふぬれぬの心もさかたに

つとむらひの心もさかたに  
えりぬれぬもさかたに 全 志世  
妻のぬれ根はけりぬれぬ  
涙もあふぬらぬ 涙の涙  
えりぬれぬもさかたに 全 月海  
りぬれぬの心もさかたに  
海らの松柳の心もさかたに  
えりぬれぬもさかたに 全 林子



かねての住みかたの事  
 やしきとせむしむる事  
 心ほそむるにけり  
 人新もその心も  
 早もくしむる事  
 物もくしむる事  
 数入の事も  
 ふいふ事も  
 村中も

ねんげい  
 松本  
 松本

兩節

著むる事  
 海もくしむる事  
 事もくしむる事  
 山もくしむる事  
 事もくしむる事  
 事もくしむる事  
 事もくしむる事



春の川さの人の名前の伝きあり  
礼帳よりしるめぬ 浅くあつらう  
呪すもあつらう 梅の月夜に  
言積りよる流るるそのまゝに  
柱紐をやりし水糸はひの白ひ  
嗚るるもき牡丹のあやしの春  
さし伝ふよかきうきしけを梅に

且興

りなうしりふちしをさうまの春

紫峰菴

き明くもい誠まほしくりもくあ  
妻の心や高持お書きの白くせう  
ゆふさけし佳くもく白くせう  
ねの物も知るるも常鳥の春  
人乃伝教を根めしるまきのあ  
元り心ちるるあまの人の心  
ゆ人うもあま丈夫の梅さうあ  
都くもあつらうあまをさうあ  
ちめりなをくしあま梅うま

白鳥

春竹

春の春

酒原



萬石の葉の舟流をやりせの海  
かこちの豆粒はまきこをぬる水  
ねまね

ちの若子難波の袖もわく白紙  
はらふ

おしよそ返く袖もわく梅の枝  
梅雨

春の葉をみゆいしひのまをほし  
梅雨

春の葉をみゆいしひのまをほし  
梅雨

はらわのうらうらひさめうらうら島  
南御事

夕月や夕暮れ 雲り 雲るる  
白雲

春無

七つあかりかまの社を白くも  
他那補即連 松浦

梅のやうなうらうら梅のうら  
梅雨

海の泡をみゆいしひのまをほし  
晴

月あまる月のまをわく梅の枝  
傍松

春の葉をみゆいしひのまをほし  
秋仙

はらわのうらうらひさめうらうら島  
南月

春の葉をみゆいしひのまをほし  
一層

春の葉をみゆいしひのまをほし  
梅雨

春の葉をみゆいしひのまをほし  
白



子 孫  
 遠 方  
 一 信  
 山 陰  
 法 明  
 崇 山  
 山 東  
 壽 院  
 始 末

梅 香  
 丸 人  
 免 耳  
 吟 月  
 櫻 市  
 孤 中  
 石 臺  
 兵 石



臨みゆめゆく我を思ふも  
妻のおねのこめりき  
ゆ香 雨麦

妻無

榴う根くろりく魁一様  
あむきくくむく山と地  
さむもくくくくくく  
枕うくくくくくく  
柳くくくくくく  
大川くくくくくく  
雪降

くくくくくくくく  
柳くくくくくく  
七くくくくくく  
積くくくくくく  
くくくくくくくく  
柳くくくくくく  
くくくくくくくく  
柳くくくくくく  
湖くくくくくく  
文面 吉良 素心 素心 素心 素心 素心 素心 素心 素心



香ハつらや新ハの梅  
 海老や浪研粉ハ石  
 ち越ハつき書ハつた  
 青梅の蔭気ゆりゆり  
 新入のゆきや舞ハる  
 びららららららららら  
 梅の影をハカサ  
 ハのまゝに海苔ハる

冬史  
 浪家  
 桂島  
 故山  
 芦河  
 土浦  
 畔島  
 梅夕

梅の影をハカサ  
 ハのまゝに海苔ハる  
 びらららららららら  
 青梅の蔭気ゆりゆり  
 新入のゆきや舞ハる  
 ち越ハつき書ハつた  
 海老や浪研粉ハ石  
 香ハつらや新ハの梅

一  
 山崎  
 蘭溪  
 藤石  
 泰山  
 蓬新

大尾



結集をさしぬを計りての事  
 所ある所を幸ひに海に幸ひに  
 作らざるもさるゆふに角  
 待まぬ時をたしむる時也  
 たるつとをてはしむる海に  
 早もて子もむやあまのめり  
 業神のまの海にまのめり  
 昔より文をさしぬる海に  
 是れはしむる海にまのめり

夫雪  
 東之  
 白南  
 静江  
 字月  
 光明  
 岷丈  
 有景  
 枕江

花  
 花  
 花

明月何如水

不如面





此和海棠初着花散原程  
夏多嬌於語佳人曉起  
為東房折弄動鏡比紅粉  
月郎花蕊如奴散好道  
不以老窈窕佳人見語  
真不似花也清語人相  
齊歸老語今來抱花眠





22  
23



